

青森県埋蔵文化財調査報告書 第241集

# 長 谷 遺 跡

—十和田南部地区広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

1998年3月

青森県教育委員会





埋 設 土 器



# 序

奥入瀬川流域には、縄文時代から中世にわたる多くの遺跡が確認されております。

青森県教育委員会では、十和田南部地区広域農道建設事業に伴う六戸町長谷遺跡発掘調査を行い、本書はその結果をまとめたものであります。

今回の調査によって、本遺跡は縄文時代には狩猟場として利用され、平安時代には集落が形成されていたことが明らかになりました。特に、須恵器と土師器が4個体、倒立した状態で埋設された遺構は、本県で初めての事例であり、当時の人々の精神生活を知る上でも貴重な資料であります。

これらの成果が、今後埋蔵文化財の保護と活用に役立つところがあれば幸いに存じます。

最後に、平素より埋蔵文化財の保護に対しご理解を賜っている青森県農林部並びに六戸町教育委員会と発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、ご指導ご協力を賜った関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

1998年3月

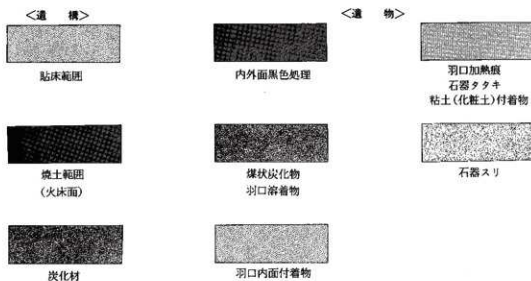
青森県教育委員会

教育長 松森 永祐



# 例 言

- 1 本報告書は、平成8年度に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施した十和田南部地区広域農道建設事業に係る長谷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集・作成した。なお、執筆者名は文末に付した。
- 3 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「八戸」である。
- 4 挿図の縮尺は各図ごとにスケールを付してある。写真の縮尺は不統一である。
- 5 遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の様式・基準に拠った。
  - (1) 図中の方位は磁北である。
  - (2) 土層の注記には『新版標準土色粘』(小山・竹原:1995)を用いた。
  - (3) 遺物には観察表・計測値を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。  
なお、計測値の( )は口径・底径については推定値を器高・長さについては現存値を示している。
  - (4) 図中で使用したスクリーントーンは下図のとおりである。



- (5) 遺構図版中のP-1、P-2…は土器を表わし、Pit 1、Pit 2…はビット番号を表わしている。  
また、土層注記中のB-Tm、T0-aは、それぞれ白頭山火山灰、十和田a火山灰を表わしている。  
ルームブロックは、英語表記時の頭文字をとってLBとした。なお、アワズナ、グロタは、中瀬浮石、南部浮石の俗称である。

6 資料の鑑定や試料の同定、分析については次の方に委託した。

石器の石質鑑定	松山 力（八戸市文化財審議委員）
放射性炭素年代測定	木越 邦彦（学習院大学教授）
火山灰蛍光X線分析・須恵器胎土分析	三辻 利一（奈良教育大学教授）
リン酸・脂肪酸分析	バリノ・サーヴェイ株式会社

7 引用参考文献については巻末に収めた。

8 出土遺物、実測図、写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9 発掘調査及び報告書の作成に当たり、次の諸氏並びに各機関からご教示、ご指導をいただいた。

（順不同、敬称略）

宇部則保、古屋敷則雄、利部 修、高橋 学、濱田 宏、伊藤博幸、高橋千晶、福田裕二、佐藤智雄、宮 宏明、越田賢一郎、佐藤和雄、巽淳一郎、玉田芳英、工藤清泰、小林和彦



# 目 次

口絵	
序文	
例言	I
目次	III
挿図・表目次	IV
<b>第1章 調査の概要</b>	<b>1</b>
第1節 調査要項	1
第2節 調査方法	2
第3節 調査の経過	2
第4節 遺跡内の基本土層	3
<b>第2章 検出遺構と出土遺物</b>	<b>6</b>
第1節 平安時代の遺構と遺物	6
(1) 遺構の配置	6
(2) 竪穴住居跡	7
(3) 竪穴遺構	40
(4) 土坑	43
(5) 土器埋設遺構	46
第2節 縄文時代の遺構と遺物	51
(1) 遺構の配置	51
(2) 土坑	51
(3) 溝状ピット	54
<b>第3章 遺構外の出土遺物</b>	<b>67</b>
第1節 平安時代の遺物	67
第2節 縄文時代の遺物	68
<b>第4章 自然科学的分析の結果</b>	<b>74</b>
第1節 放射性炭素年代測定	74
第2節 火山灰蛍光X線分析	75
第3節 リン酸・脂肪酸分析	76
第4節 須恵器胎土分析	79
<b>第5章 まとめ</b>	<b>80</b>
☆引用・参考文献	81
☆報告書抄録	82
☆写真図版	83

## 挿図・表目次

図1	遺跡位置図	V	図35	第2号竪穴遺構	42
図2	周辺地形図及び調査区域図	VI	図36	土坑	45
図3	基本土層図	4	図37	土器埋設遺構(1)	48
図4	柱状模式図	5	図38	土器埋設遺構(2)	49
図5	遺構配置図(平安時代)	6	図39	土器埋設遺構(3)	50
図6	第1号竪穴住居跡(1)	8	図40	遺構配置図(縄文時代)	51
図7	第1号竪穴住居跡(2)	9	図41	土坑	53
図8	第2号竪穴住居跡(1)	10	図42	溝状ピット(1)	62
図9	第2号竪穴住居跡(2)	11	図43	溝状ピット(2)	63
図10	第2号竪穴住居跡(3)	12	図44	溝状ピット(3)	64
図11	第3号竪穴住居跡(1)	14	図45	溝状ピット(4)	65
図12	第3号竪穴住居跡(2)	15	図46	溝状ピット(5)	66
図13	第3号竪穴住居跡(3)	16	図47	遺物出土分布図(遺構外)	67
図14	第4号竪穴住居跡(1)	17	図48	遺構外出土遺物(1)	70
図15	第4号竪穴住居跡(2)	18	図49	遺構外出土遺物(2)	71
図16	第4号竪穴住居跡(3)	19	図50	遺構外出土遺物(3)	72
図17	第4号竪穴住居跡(4)	20	図51	火山灰 Rb-Sr分布図	75
図18	第5号竪穴住居跡(1)	22	図52	火山灰 K-Ca分布図	75
図19	第5号竪穴住居跡(2)	23	図53	火山灰 Fe・Na因子分布図	75
図20	第5号竪穴住居跡(3)	24	図54	土器埋設遺構脂質分析チャート組成	78
図21	第6号竪穴住居跡	25	図55	須恵器胎土分析K-Ca・Rb-Sr分布図	79
図22	第7号竪穴住居跡(1)	27	表1	遺構間接合遺物一覧表	39
図23	第7号竪穴住居跡(2)	28	表2	遺構外出土遺物観察表	73
図24	第7号竪穴住居跡(3)	29	表3	火山灰分析データ	75
図25	第7号竪穴住居跡(4)	30	表4	埋設遺構のリン酸分析結果	77
図26	第107号竪穴住居跡(1)	31	表5	須恵器胎土分析値	79
図27	第107号竪穴住居跡(2)	32			
図28	第107号竪穴住居跡(3)	33			
図29	第8号竪穴住居跡(1)	35			
図30	第8号竪穴住居跡(2)	36			
図31	第8号竪穴住居跡(3)	37			
図32	第8号竪穴住居跡(4)	38			
図33	遺構間接合遺物出土地点	39			
図34	第1号竪穴遺構	41			

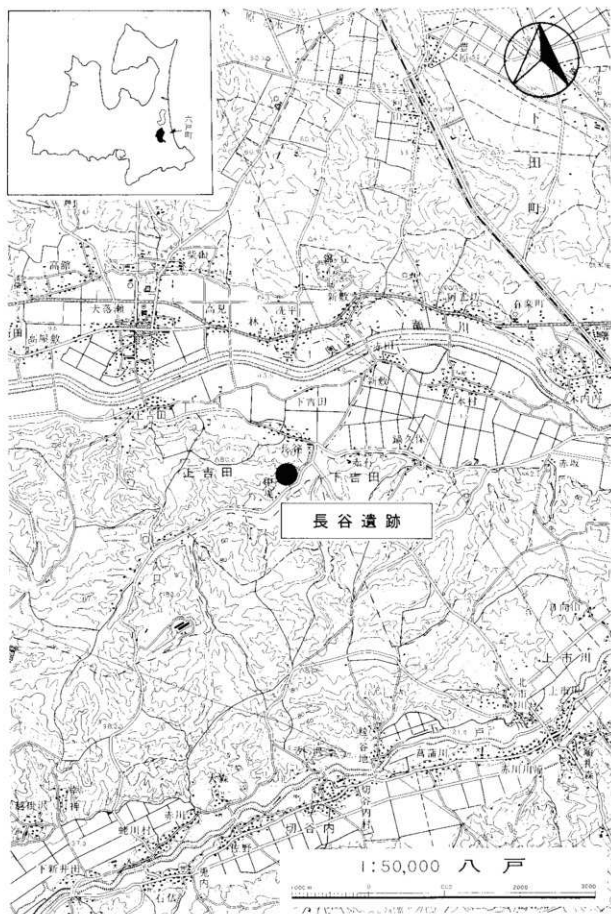


図1 遺跡位置図

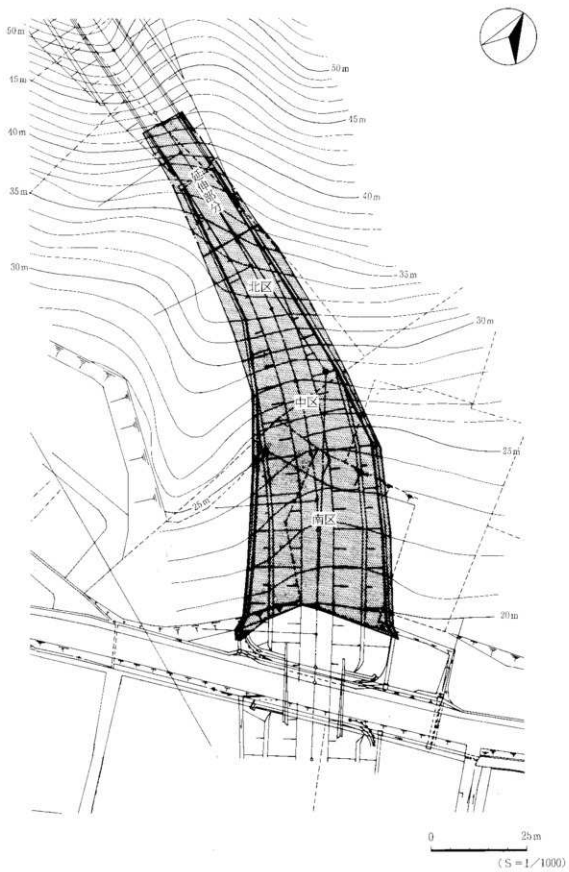


图2 周边地形图及调查区域图

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査要項

### 1 調査目的

十和田南部地区広域農道建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する長谷遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用資する。

- 2 遺跡名及び所在地 長谷遺跡（県遺跡番号 44040）  
上北郡六戸町大字上吉田字長谷94-207、外
- 3 発掘調査期間 平成8年8月26日から平成8年10月31日まで
- 4 調査対象面積 3,100㎡
- 5 調査委託者 青森県農林部農地建設課
- 6 調査受託者 青森県教育委員会
- 7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター
- 8 調査協力機関 六戸町教育委員会 上北教育事務所
- 9 調査参加者
- |       |                |                    |
|-------|----------------|--------------------|
| 調査指導員 | 市川 金丸          | 青森県考古学会会長（考古学）     |
| 調査協力員 | 米内山敬三          | 六戸町教育委員会教育長        |
| 調査員   | 滝澤 幸長          | 八戸市文化財審議委員（考古学）    |
|       | 小山 陽造          | 八戸工業高等専門学校教授（分析化学） |
|       | 松山 力           | 八戸市文化財審議委員（地質学）    |
| 調査担当者 | 青森県埋蔵文化財調査センター |                    |
|       | 調査第二課長・総括主幹    | 鈴木 克彦              |
|       | 主 査            | 奈良岡 淳              |
|       | 主 事            | 平山 明寿              |
|       | 調査補助員          | 小川 次郎、大引 徳恵        |
|       |                | 佐々木千文、赤平 香織        |

## 第2節 調査の方法

調査区域内に存在する工事中測量杭の内、No.12の幅杭を基準杭とし、磁北をもとに4m×4mのグリッドを設定した。南北方向は、南から北へアルファベットA、B、C…で、東西方向は、東から西へ算用数字1、2、3…で表わし、各々の交点をA-20、E-35のように表記した。この結果、No.12の幅杭はM-19と表記されるようになった。グリッド名は、南東隅の杭をもって呼称した。

水準点は、工事中のBM. 2（標高 29,426m）を基準として調査区内に数ヶ所移設した。

遺構の精査は、必要に応じて適宜セクションベルトを設けて行った。遺構の実測は簡易遺り方測量によって行った。縮尺は20分の1と10分の1を用い、遺構の規模や遺物の出土状況に応じて縮尺を変えて実測した。遺溝の番号は確認順あるいは着手順に付した。

土層の名称は、基本土層については、表土から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を各々付した。土層観察に当たっては、『新版標準土色帖』（小川正忠、竹原秀雄1995）を用い、注記した。

写真撮影は適宜行うこととし、主としてカラーリバーサル及びモノクロームの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺構や遺物の状況に応じてカラーフィルムやインスタントカメラも使用した。

遺物の取り上げは、グリッド単位あるいは遺構ごとに行い、必要に応じて平面図の作成、標高の記録を行なうこととした。

（奈良岡 淳）

## 第3節 調査の経過

8月26日、調査を開始する。調査器材の搬入及び収納、調査区域確定のためのロープ張り、ごみ拾いや草刈りなどのいわゆる環境整備を行った。

翌日から、グリッド設定のための杭打ちを行った。9月10日までに、南区で竪穴遺構4軒、土坑2基、溝状ピット2条を確認し、順次精査に入った。9月17日、竪穴遺構及び土坑の精査終了と同時にローム層までの掘り下げを行った。結果、ローム層上面で溝状ピットを22基確認し、順次精査を続けた。

9月18日、調査の遅れが心配されたため、予定を繰り上げ北区の調査にも着手した。重機による表土剥ぎに続き、遺構確認のためのジョレンがけを行った結果、竪穴遺構が4軒、土坑が5基確認された。南区の溝状ピットの調査と平行して同区の遺構も精査に入った。

9月30日、南区の精査を終了し、同区を排土置き場にできるようになったため、残された中区の表土剥ぎに着手した。これにより、10月15日までに、中区で竪穴遺構2軒、土坑3基、土器埋設遺構1基を確認し、この時点で調査区域内のすべての遺構を確認することができた。

竪穴遺構や一部の土坑からは土師器や須恵器、羽口、鉄滓等が多数出土し、出土状態によってはその状況を微細に実測しながら精査を続けた。出土遺物や遺構の形態から、検出された10軒の竪穴遺構はいずれも平安時代のものであることが判明した。10軒のうち8軒がカマドを持ち、うち1軒は改築されていることも明らかになった。

10月末、カマドの精査を終了した竪穴遺構から完掘写真撮影を行い、精査を終了させていった。

10月31日、一部残った精査用に残した器材を除き、ほとんどの発掘調査器材と遺物をトラックで搬出し発掘調査を一旦終了した。11月7日、無事すべての精査を終了することができた。

(奈良岡 淳)

#### 第4節 遺跡の立地と基本土層

本調査区域は南西方向から下って下田町西部の新敷付近で奥入瀬川に合流する小川の下部北側に位置している。本調査区域の背後は小川と奥入瀬川の間から西から突き出す高位段丘（天狗岱段丘）の南側斜面、前面は小川に沿って連続する幅100～200mの沖積低地で、この間に本調査区域をのせる小規模な低位段丘が付属している。本遺跡は、遺構の検出状況から、本調査区域を挟んで南北にこの低位段丘上に所在しているものと思われる。本遺跡内の基本層序については、この低位段丘の緩斜面から、背後の高位段丘斜面下半部にかけての4ヶ所で確認作業を行った。以下、概略を記すこととする。

第Ⅰ層	10YR 2 / 1 ～10YR 2 / 2	黒色土 黒褐色土	厚さ5～48cmの砂質土層。粘性に乏しい。φ0.3～0.5cmの硬い浅黄橙色軽石粒の散らばりが見られる。中粒径軽石砂混入で、より砂質になっている箇所もある。
第Ⅱ層	10YR1.7 / 1 ～10YR 2 / 2	黒色土 黒褐色土	厚さ3～30cmの砂質土層。粘性に乏しい。中粒径軽石砂を多量に混入する。微細な白色鉱物粒とφ0.5cm大の硬い灰白色ないし浅黄橙色軽石粒の混入が目立つ。
第Ⅲ層	10YR 2 / 1 ～10YR 2 / 2	黒色土 黒褐色土	4～20cmの砂質土層。粘性に乏しい。中粒径軽石砂多量混入。砂粒大の灰白色軽石粒の散らばりが見られる。
第Ⅳa層	10YR 2 / 2 ～10YR 3 / 2	黒褐色土	前後の層に比べ、中粒径軽石砂の混合度合いが少ない土層。中粒径浮石層が成層したまま残る。
第Ⅳb層	10YR 2 / 3 ～10YR 3 / 3	黒褐色土 暗褐色土	軽石砂を多量混入。粘性に乏しい。
第Ⅴa層	10YR 2 / 1	黒色土	粘性に富む。中粒径軽石砂の混入が目立つ箇所がある。φ0.3cm以上の浅黄橙色軽石粒が散らばっている。
第Ⅴb層	10YR 2 / 2	黒褐色土	粘性に富む。浅黄橙色軽石粒を始め、多様な色調の軽石砂を多量に含む。

第V c層	10YR 2/3	黒褐色土	やや粘性に富む。浅黄橙色軽石粒を始め、多様な色調の軽石砂を多量に含む。
第VI a層	10YR 3/2	黒褐色土	φ0.5~1.0cmの灰白色あるいは黄橙色軽石粒の散らばりが見られる。
第VI b層	10YR 3/3	暗褐色土	φ0.5~1.0cmの灰白色あるいは黄橙色軽石粒の散らばりが見られる。
第VI c層	10YR 3/4	暗褐色土	φ0.5~1.0cmの灰白色あるいは黄橙色軽石粒の散らばりが見られる。
第VII a層	10YR 3/3 ~10YR 4/6	暗褐色土 褐色土ローム	φ5~10cmのにぶい黄褐色~明黄褐色土塊を混合。
第VII b層	10YR 5/6 ~10YR 6/6	黄褐色ローム 明黄褐色ローム	粘性に富む。
第VIII層	10YR 5/6	黄褐色ローム	砂粒大の軽石粒を多量に混入。八戸火山灰層の上部に相当する。

(奈良岡 淳)

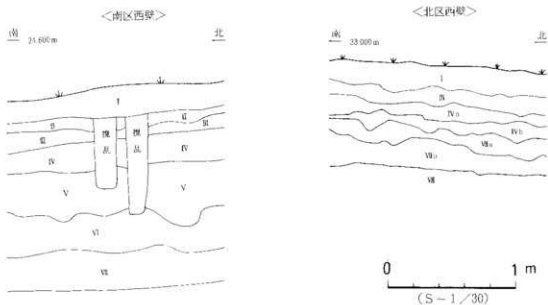


図3 基本土層図



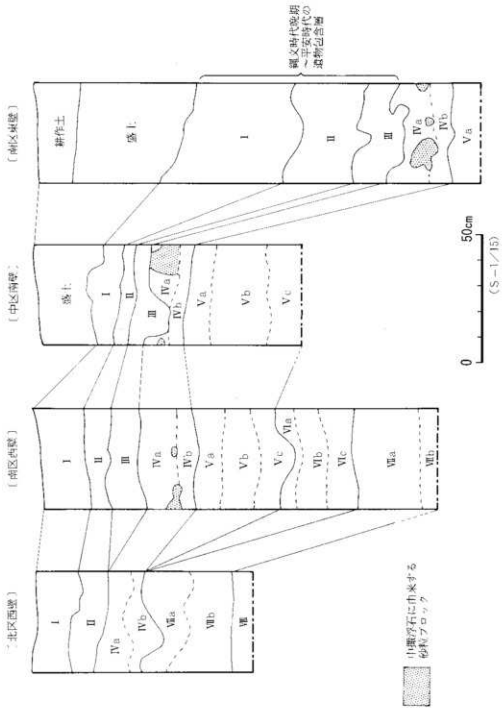


図4 柱状模式図

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 平安時代の遺構と出土遺物

#### (1) 遺構の配置 [図5]

今回の調査で検出された平安時代の遺構は、竪穴住居跡8軒、竪穴遺構2基、土坑7基、土器埋設遺構1基である。住居跡は、発掘調査時に南区と仮称していた低位段丘面下方の緩斜面上（標高20m～25m）と北区と仮称していた低位段丘面上方の緩斜面上（標高30m～35m）の2ヶ所から集中して検出された。第2号竪穴遺構及び第5号竪穴住居跡は一部調査区域外に延びている。土坑及び土器埋設遺構は住居跡に隣接していることから、住居の関連遺構と思われる。

南区南端部及び北区北端部、北区延伸部分はいずれも傾斜がきつく、平安時代の遺構は検出されなかった。

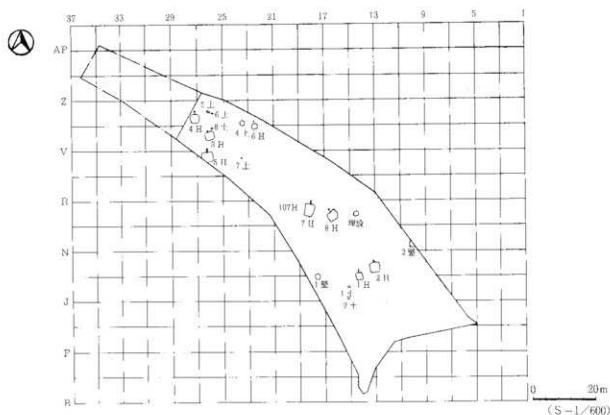


図5 遺構配置図（平安時代）

## (2) 竪穴住居跡 [図6～図3]

当該遺構については、発掘調査時に呼称していた遺構名を整理の段階で次のとおり変更した。竪穴遺構はカマドを持つものを「住居跡」、持たないものあるいは検出できなかったものをそのまま「竪穴遺構」とし、文中の略称もそれぞれ「○H」、「○竪」とした。したがって、1竪、2竪以外のものは全て住居跡としている。また、改築されている第7号住居跡及びそれに付随するビットについては、住居跡・ビット番号に100を足した数字で呼称した。

## 第1号竪穴住居跡 [図6～図7]

〔位置〕 K・L-15グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不整な隅丸方形を呈する。壁長は東壁辺355cm、西壁辺360cm、南壁辺323cm、北壁辺314cmで、やや南北に長い。主軸方位はN-5°-Wで、床面積は10.2㎡を測る。

〔壁・床〕 壁高はそれぞれ東壁高17cm、西壁高42cm、南壁高44cm、北壁高47cmで地形を反映して東壁側が低くなっている。第V～VI層の黒褐色土を平坦に整えて床面とし、堅く締まっている。

〔ビット〕 住居北西側に1基検出された。床面からの深さは30cmである。

〔カマド〕 北壁に構築されており、カマド本体の遺存状態は良くない。煙道部が壁面から250cmほど伸びたところで立ち上がる地下式のカマドで、粘土によって袖や天蓋部が作られている。袖に芯材は用いられておらず、内側は被熱して赤色化している。貼床面をそのまま燃焼部にしたものと思われるが、火床面は確認できなかった。

〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 14層に分層できた。黒色土を主体とし、堆積土全体にアワズナとローム粒の混入が見られる。また、上位には白頭山火山灰が層状に堆積していた。土層観察から自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土師器甕(1)はフク土中位から、羽口(2、3)は床面直上の焼土中から出土している。

〔小結〕 降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。

## 第2号竪穴住居跡 [図8～図10]

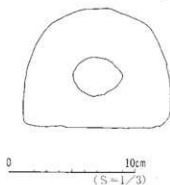
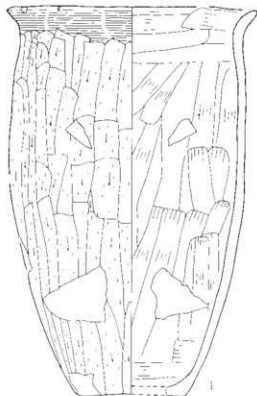
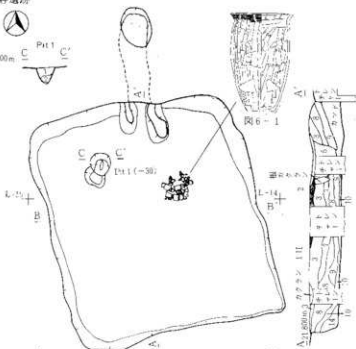
〔位置〕 L・M-13・14グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は、カマドのある北壁が弧状に膨らむ不整な隅丸方形を呈する。壁長は東壁辺379cm、西壁辺358cm、南壁辺367cm、北壁辺380cmを測る。主軸方位はN-23°-Wで、床面積は12.4㎡を測る。

〔壁・床〕 壁は、南壁と東壁は垂直に立ちあがるものの、北壁、西壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。地形を反映して東壁側が若干低くなり、壁高はそれぞれ東壁高34cm、西壁高45cm、南壁高45cm、北壁高58cmを測る。床面は第V～VI層を平坦に整えて床面としており、硬く締まっている。

長谷遺跡



第1号竪穴住居跡P41 (CC セツラソウ)

- 第1層 0YR5/2 灰褐色土
- 第2層 10YR5/2 灰褐色土
- 第3層 10YR5/2 灰褐色土
- 第4層 10YR5/2 灰褐色土
- 第5層 10YR5/2 灰褐色土
- 第6層 10YR5/2 灰褐色土
- 第7層 10YR5/2 灰褐色土
- 第8層 10YR5/2 灰褐色土
- 第9層 10YR5/2 灰褐色土
- 第10層 10YR5/2 灰褐色土
- 第11層 10YR5/2 灰褐色土
- 第12層 10YR5/2 灰褐色土
- 第13層 10YR5/2 灰褐色土
- 第14層 10YR5/2 灰褐色土
- 第15層 10YR5/2 灰褐色土
- 第16層 10YR5/2 灰褐色土
- 第17層 10YR5/2 灰褐色土
- 第18層 10YR5/2 灰褐色土
- 第19層 10YR5/2 灰褐色土
- 第20層 10YR5/2 灰褐色土
- 第21層 10YR5/2 灰褐色土
- 第22層 10YR5/2 灰褐色土
- 第23層 10YR5/2 灰褐色土
- 第24層 10YR5/2 灰褐色土
- 第25層 10YR5/2 灰褐色土
- 第26層 10YR5/2 灰褐色土
- 第27層 10YR5/2 灰褐色土
- 第28層 10YR5/2 灰褐色土
- 第29層 10YR5/2 灰褐色土
- 第30層 10YR5/2 灰褐色土
- 第31層 10YR5/2 灰褐色土
- 第32層 10YR5/2 灰褐色土
- 第33層 10YR5/2 灰褐色土
- 第34層 10YR5/2 灰褐色土
- 第35層 10YR5/2 灰褐色土
- 第36層 10YR5/2 灰褐色土
- 第37層 10YR5/2 灰褐色土
- 第38層 10YR5/2 灰褐色土
- 第39層 10YR5/2 灰褐色土
- 第40層 10YR5/2 灰褐色土
- 第41層 10YR5/2 灰褐色土
- 第42層 10YR5/2 灰褐色土
- 第43層 10YR5/2 灰褐色土
- 第44層 10YR5/2 灰褐色土
- 第45層 10YR5/2 灰褐色土
- 第46層 10YR5/2 灰褐色土
- 第47層 10YR5/2 灰褐色土
- 第48層 10YR5/2 灰褐色土
- 第49層 10YR5/2 灰褐色土
- 第50層 10YR5/2 灰褐色土

第1号竪穴住居跡出土遺物表

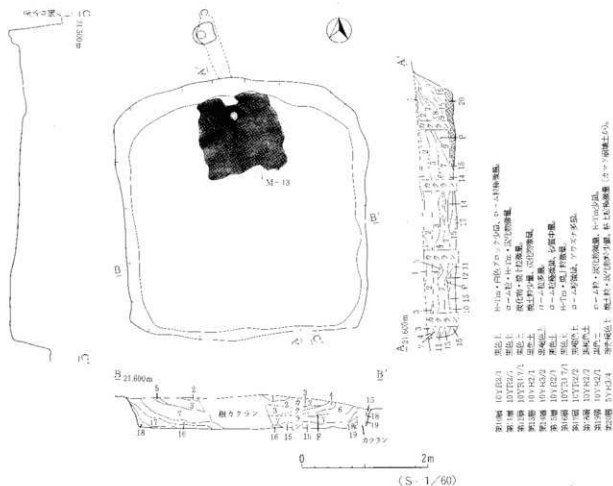
図号	品名	材質	形状	出土位置	径	厚	重	測定値	分析	出所	備考
1	土師器	土	杯	床	20.0	0.6	31.2	2.27, 2.71	227, 271	アサヒ	P-1-55

第1号竪穴住居跡出土遺物表

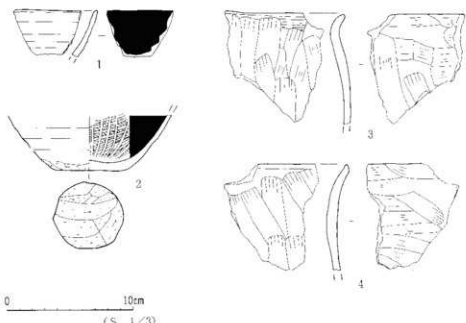
図号	品名	材質	形状	出土位置	径	厚	重	測定値	分析	出所	備考
2	土師器	土	杯	床	12.0	0.5	17.0	783.3	207	アサヒ	28
3	土師器	土	杯	床	9.5	0.4	12.8	1084.9	410	アサヒ	27

図6 第1号竪穴住居跡 (1)





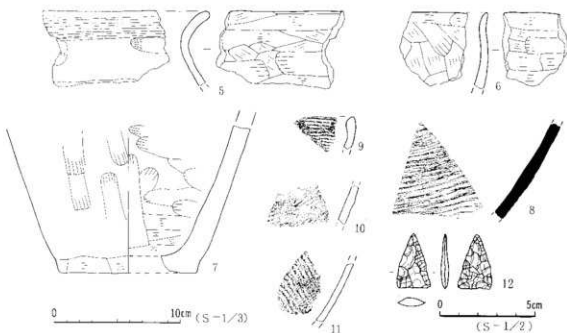
第1層 10Y16/1 灰土  
 第2層 10Y17/1 灰土  
 第3層 10Y18/1 灰土  
 第4層 10Y19/1 灰土  
 第5層 10Y20/1 灰土  
 第6層 10Y21/1 灰土  
 第7層 10Y22/1 灰土  
 第8層 10Y23/1 灰土  
 第9層 10Y24/1 灰土



第2号竖穴住居跡出土遺物群表  
 第1層 10Y16/2 灰土  
 第2層 10Y17/2 灰土  
 第3層 10Y18/2 灰土  
 第4層 10Y19/2 灰土  
 第5層 10Y20/2 灰土  
 第6層 10Y21/2 灰土  
 第7層 10Y22/2 灰土  
 第8層 10Y23/2 灰土  
 第9層 10Y24/2 灰土

図8番号	種別	器種	形状	出土位置	口径	底径	高さ	外周径(文様)	片数(文様)	形状図	備考
1	土師器	杯	鉢型下	フナ	-	3.5	1.4	27.5x27.5	1	なし	内山山形減速しい
2	土師器	杯	鉢型下	フナ	-	3.5	1.4	27.5x27.5	1	なし	同上
3	土師器	甕	口縁部	フナ	-	3.8	2.7	47.7x47.7	2	なし	ヘリナマリ
4	土師器	甕	口縁部	フナ	-	3.8	2.7	47.7x47.7	2	なし	ヘリナマリ

図8 第2号竖穴住居跡(1)



第2号竪穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	種類	名称	部位	出土層	口径	底径	高	外面図形(文様)	内面図形(文様)	図説説明	備考	整理番号
5	土製品	壺	口縁部	カマドフタ上	-	(6.0)	-	ツツミ	ツツミ	-	-	8
6	土製品	壺	縁部	カマドフタ上	-	(6.3)	-	ツツミ	ツツミ	外周縁部は、	-	12
7	土製品	壺	体部下半	カマドフタ上	11.0	(11.7)	-	ツツミ	ツツミ	外周縁部による	-	502
8	須弥器	大鏡	銅製	床土	-	-	-	ツツミ	ツツミ	口縁部が肥大	-	408
9	縄文土器	鉢形	口縁部	ツツミ	-	-	-	ツツミ	ツツミ	-	401	
10	縄文土器	鉢形	口縁部	ツツミ	-	-	-	ツツミ	ツツミ	-	402	
11	縄文土器	鉢形	口縁部	ツツミ	-	-	-	ツツミ	ツツミ	-	404	

第2号竪穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	山手地点・部位	長さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	器種	備考	整理番号
12	ツツミ	28.1	17.2	4.1	1.4	緑頁岩質	土器	加草草基	15

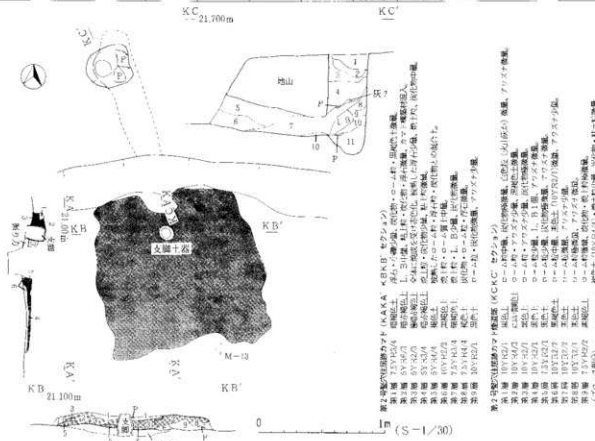
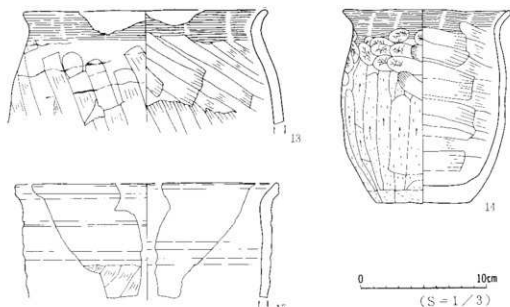


図9 第2号竪穴住居跡(2)



第2号竪穴住居跡出土遺物観察表

図次番号	発掘位置	種別	部位	市寸位置	口径	底径	高さ	内面観察(文様)	内面調査(文様)	底面調査	<口径・底径・高さの単位: cm>	
											編	整理番号
13	土師器	甕	胴部	カマドツタ土	(19.4)	—	(9.2)	赤土、赤土	赤土、赤土	—	輪切小径 P-1	7
14	土師器	甕	支脚	カマド支脚	13.4	7.3	15.5	赤土、赤土、赤土	赤土、赤土	—	—	132
15	土師器	甕	胴部	カマドツタ土	(21.0)	—	(9.1)	赤土、赤土	赤土	—	—	9

図10 第2号竪穴住居跡(3)

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 北壁中央に構築されており、遺存状態は不良である。煙道が比較的長い地下式のカマドで、床面カマド付近で検出した焼土範囲の断面観察から、粘土によって袖や天蓋部が作られていたものと思われる。燃焼部中央には支脚が備えられており、完形の土師器甕が用いられている。床面をそのまま火床面にしたと思われるが、明瞭な被熱範囲は確認できなかった。

〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 20層に分層でき、黒色土を主体としている。床面直上の堆積土からも少量ながら火山灰が検出されている。色調や粒の細かさから白頭山火山灰ないしは十和田A火山灰であると思われる。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 床面から土師器坏(1、2)、甕(3～7)、須恵器大甕の胴部片(8)が出土している。坏は、ロクロ成形後、内面を黒色処理し磨いている。また、堆積土中位から地文縄文のみ施された縄文土器片(9～11)が出土しているが、堆積途中での流れ込みによるものと思われる。

〔小結〕 降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。



## 第3号竪穴住居跡 [図11～図13]

〔位置〕 V・W-26・27グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 方形を呈する。壁長は東壁辺310cm、西壁辺290cm、南壁辺320cm、北壁辺367cmを測る。主軸方位はN-31°-Wで、床面積は14.3㎡を測る。

〔壁・床〕 壁は床面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁高はそれぞれ東壁高39cm、西壁高51cm、南壁高21cm、北壁高50cmで、地形を反映して南壁側が低くなっている。床面は貼り床を施し、平坦に整えられている。

〔ビット〕 南壁側中央に1基検出した。

〔カマド〕 本住居跡では隣接した形で2基のカマドが検出されている。住居の建て替えは確認できなかったことから、カマドのみ作り替えたと思われる。新しいカマドを1号、古いカマドを2号として記載する。

1号カマドは、北壁中央に構築されており、遺存状態は良好である。煙道が比較的短い地下式のカマドで、粘土によって袖や天蓋部が作られている。袖に芯材は用いられておらず、内側は被熱して赤色化している。貼り床面をそのまま火床面としており、20cm×25cmの不整な楕円形をしている。また、火床面中央には土師器の小甕が2個体、支脚として用いられている。

2号カマドは、1号カマドの東隣りから煙道のみ検出された。1号カマドの煙道に比べ短く、半地下式の煙道であることが確認された。

〔その他の施設〕 本遺構北東角に隣接する形で検出された第8号土坑は、堆積土が近似しており、本遺構に関連する土坑である可能性が高い。

〔堆積土〕 8層に分層できた。4～6層には、白頭山火山灰が多量に堆積もしくは混入し、径2～30mmの軽石の混入も目立った。土層観察から自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土師器の甕(1～3、7～9)、須恵器の坏(4)、刀子(5)、不明鉄製品(6)、砥石(10)などが出土している。3は、外面にミガキ調整を施した長胴甕である。7・8は、1号カマドの支脚に転用されている。2・9は、底部が欠損し断面が摩滅していることから、甕として使用された可能性も考えられる。4も底部を欠いている。

〔小結〕 降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。

## 第4号竪穴住居跡 [図14～図17]

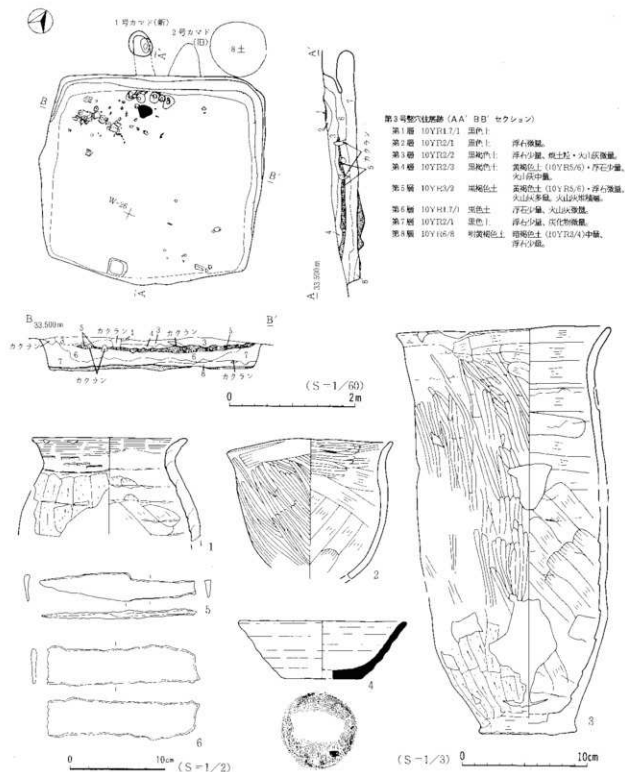
〔位置〕 X-27・28、Y-28グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸方形を呈する。壁長は東壁辺335cm、西壁辺320cm、南壁辺330cm、北壁辺340cmを呈する。主軸方位はN-18°-Wで、床面積は8.0㎡を測る。

〔壁・床〕 壁は床面から外傾しながら立ち上がる。壁高はそれぞれ東壁高60cm、西壁高52cm、南壁高58cm、北壁高55cmを測り、床面は貼り床を施して平らに整えられている。

〔ビット〕 検出されなかった。



第3号竪穴住居跡 (AA' BB' セクション)

- 第1層 10YR11.7/1 黒色土
- 第2層 10YR2/1 黒色土 浮石少量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 浮石少量、黄土粒・火山灰微量
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土 (10YR5/6)・浮石少量、火山灰中量
- 第5層 10YR2/2 黄褐色土 黄褐色土 (10YR5/6)・浮石微量、火山灰中量
- 第6層 10YR11.7/1 黒色土 浮石少量、火山灰微量
- 第7層 10YR2/1 黒色土 浮石少量、灰化物微量
- 第8層 10Y16/8 明黄褐色土 明黄褐色土 (10YR2/4)中量、浮石少量

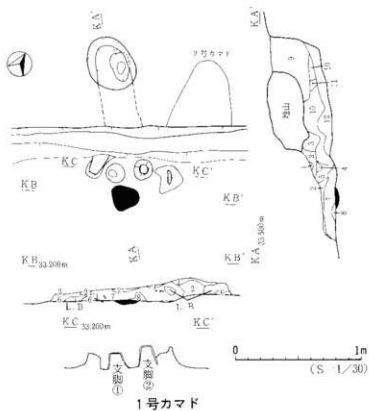
第3号竪穴住居跡出土遺物整理表

図号番号	種類	名称	形状	出土位置	11径	12径	13径	14径	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	整理番号	
1	土製土	壺	口縁部	坪面	12.4	-	(8.3)	3.97, 4.97		3.72, 3.77		輪縁欠損、腐炭灰(肥料)付	22a	
2	土製土	壺(小)	胴元部	坪面	13.4	-	(11.1)	3.81		2.9, 3.97, 3.97		P 5-25	19	
3	土製土	壺	胴元部	坪面	11.3	7.6	3.6	3.97, 3.77, 3.6		3.7		本遺物	輪縁欠損 P 4-33	17
4	須石器	石	断面形	坪面	13.6	6.3	4.6	4.76		3.77		断面欠損、外面調整付	30b	

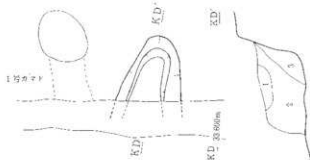
第3号竪穴住居跡出土遺物整理表

図号番号	出土地内・層位	計測値(大きさ等・重さg)	容積	備考	整理番号
5	坪面	82.5×15.1×4.9+7.8g	1/2	断面	2
6	坪面	82.0×15.5×3.1+8.2g	(不明)	(1)子の穴(断面の中間部あり)	1

図11 第3号竪穴住居跡(1)



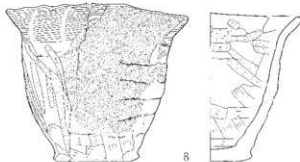
1号カマド



2号カマド

## 第3号竪穴住居跡 2号カマド (KDKD' セクション)

- 第1層 10YR2/1 黒色土 浮石層堆積、赤褐色土 (10YR2/2) 堆積。  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 浮石少量。  
 第3層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。



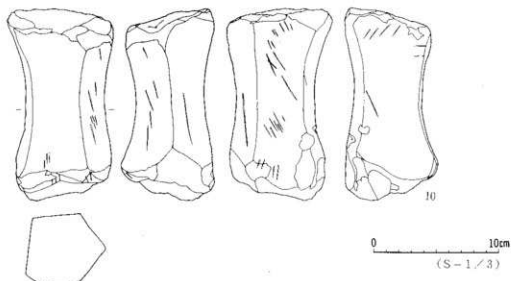
第3号竪穴住居跡出土遺物整理表

図録番号	種類	名称	出処	出土層	口径	径	高さ	容量	内装図説(文種)	内装図説(文種)	出土図説	備考	整理番号
1	土器	甕	検出下層	1号カマド支脚上	7.5	6.8	12.6	1000~1000	なし	なし	なし	内装図説不備	20
8	土器	甕	穴部	1号カマド支脚上	14.7	6.8	12.6	1000~1000	なし	なし	なし	検出小皿(赤土)	18
9	土器	鉢(陶)	検出下層	検出	7.6	6.5	11.0	500	なし	なし	なし	検出小皿、化粧粘土埋付	21

## 第3号竪穴住居跡 1号カマド (KA, KA', KB, KB', KC, KC' セクション)

- 第1層 10YR2/1 黒色土 浮石中量、赤褐色土 (10YR2/2) 堆積。  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 浮石少量。  
 第3層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第4層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第5層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第6層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第7層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第8層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第9層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第10層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第11層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第12層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第13層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第14層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第15層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第16層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第17層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第18層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第19層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。  
 第20層 10YR2/1 黒色土 浮石中量。

図12 第3号竪穴住居跡(2)



第3号竪穴住居出土遺物観察表

採取番号	出土地点・状況	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	器種	備考
10	溝内	153.0	54.0	32.0	1030.5	焼成土	碓礫混5菲	1

図13 第3号竪穴住居跡(3)

〔カマド〕北壁中央やや東寄りに構築されており、遺存状態は良好である。煙道は、壁から160cm延びたところで立ち上がり、煙出しまでの深さは約80cmを測る地下式のカマドで、粘土によって袖や天蓋部が作られている。袖には芯材として、砂礫を多量に混ぜ板状に成形した粘土塊を用いている。この粘土塊は被熱して赤色化し、非常に脆い。火床面は貼り床面をそのまま利用したと思われるが、被熱範囲は確認できなかった。

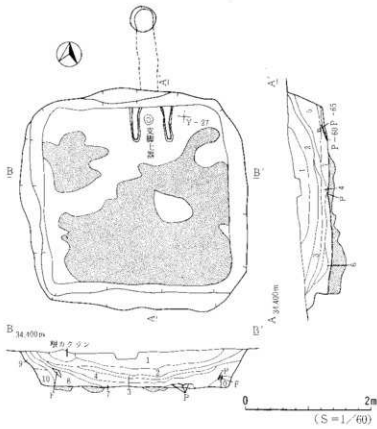
〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕13層に分層でき、黒色土～黒褐色土を主体とし、バミスの混入が見られ、下位ほど混入する割合が高い。4～5層に少量ながら白頭山火山灰の混入が認められた。土層観察から自然堆積と思われる。

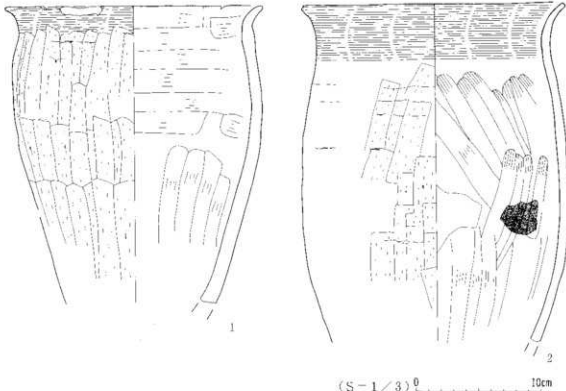
〔出土遺物〕床面及び床面直上から、土師器坏(18、19)土師器甕(1～17)、須恵器大甕片(20～21)が出土している。土師器甕は、大型のもの(1～7、10～13、17)と小型のもの(8、9、14～16)があり、大型のものの中には、胴部下半に最大径を持つもの(5)や胴部が球状に張るもの(7、13)が見られる。

また、18の土師器坏の外面には、文字と思われる線刻が施されている。これについては、岩手県水沢市埋蔵文化財調査センター副所長の伊藤博幸氏より、「徳」の字の「恵」部分に似ていることから、土師器の工人が「徳」ないしはそれに類似した文字を模倣して書いたものではないかとの所見をいただいた。

〔小結〕降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。



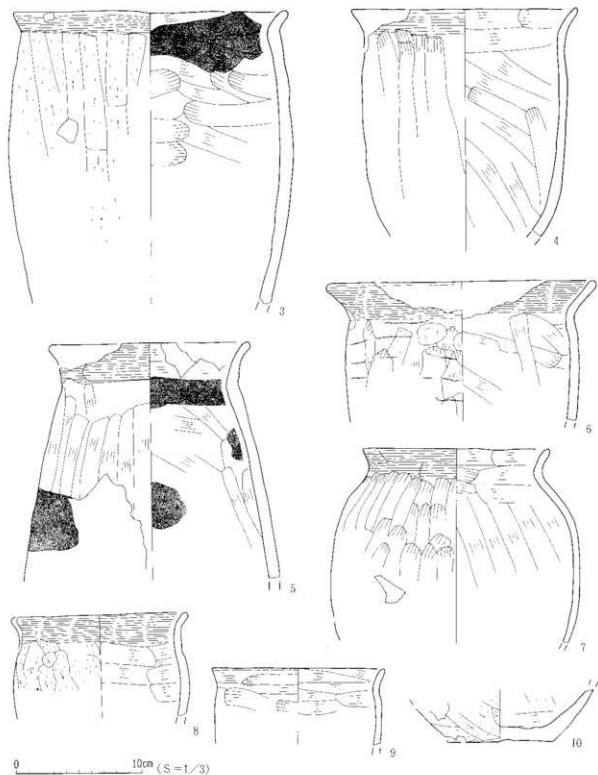
- 第4号竪穴住居跡 (AA'・BB'・セクワンク)
- 第1層 13Y143.0 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第2層 13Y143.1 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第3層 13Y143.2 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第4層 13Y143.3 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第5層 13Y143.4 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第6層 13Y143.5 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第7層 13Y143.6 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第8層 13Y143.7 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第9層 13Y143.8 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第10層 13Y143.9 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第11層 13Y144.0 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第12層 13Y144.1 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第13層 13Y144.2 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第14層 13Y144.3 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第15層 13Y144.4 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第16層 13Y144.5 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第17層 13Y144.6 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第18層 13Y144.7 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第19層 13Y144.8 灰土 41.2 41.4 埋居人
  - 第20層 13Y144.9 灰土 41.2 41.4 埋居人



第4号竪穴住居跡出土遺物表

図号番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	高さ	外山調整(文様)	内面調整(文様)	図面番号	層	牙	整理番号
1	土師器	甕	略元形	床面	26.8	-	(23.9)	33P, 33R	33P, 33R		1		33, 34, 54
2	土師器	甕	体部上半	フナト	(21.2)		(27.1)	33P, 33R	33P, 33R		1		33, 34, 54

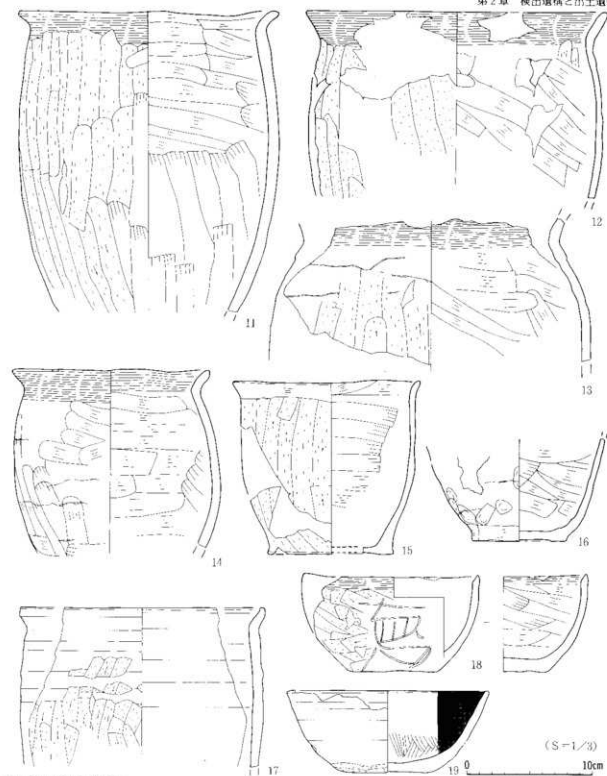
図14 第4号竪穴住居跡(1)



第4号竪穴住居跡出土遺物整理表

器物番号	種別	器種	部位	出土位置	口径	底径	高さ	外周刻線(文様)	内周刻線(文様)	底面刻線	備考	器物番号
3	土器器	甕	体部上半	床点	(21.6)	—	(23.0)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	32
4	土器器	甕	体部上半	ア字土	(18.0)	—	(18.0)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	33
5	土器器	甕	体部下半	床点	(16.0)	—	(35.0)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	内面刻線状文化物付着	P-02 34
6	土器器	甕	体部	床点	(21.6)	—	(11.2)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	37
7	土器器	甕	体部下半	床点	15.0	—	(15.5)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	28
8	土器器	甕	体部上半	床点	(14.1)	—	(8.1)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	38
9	土器器	甕	口縁部	床点	(13.6)	—	(6.1)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	39
10	土器器	甕	底面	床点	—	8.4	(6.2)	277, 278, 279	277, 278, 279	—	—	43

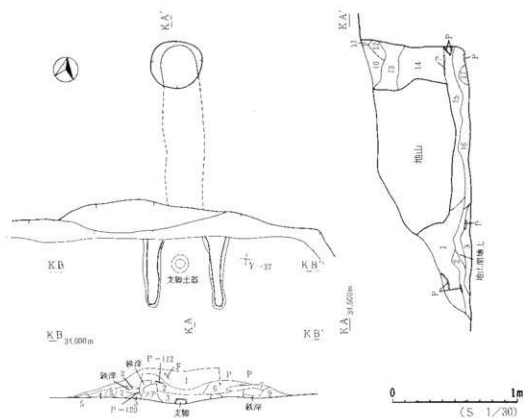
図15 第4号竪穴住居跡(2)



第4号竪穴住居跡出土遺物表

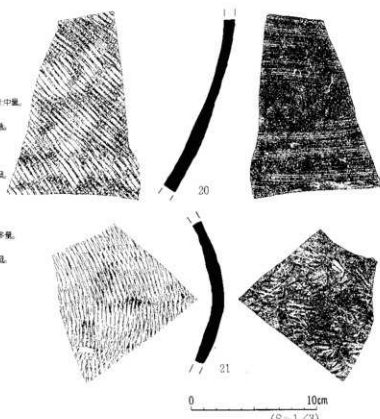
図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	高さ	内径	内径	内径	備考	整理番号
11	土師器	甕	体部	奥口、カマド跡	20.6	-	(35.0)	377, 378	377, 378	-		26
12	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	(24.0)	-	(35.0)	377, 378	377, 378	-	輪郭のみ	36
13	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	-	-	(14.7)	377, 378	377, 378	-	輪郭のみ	40
14	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	15.8	-	(14.7)	377, 378	377, 378	-	輪郭のみ	29
15	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	15.0	(10.0)	23.8	377, 378	377, 378	ナシ		30
16	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	-	7.6	(8.0)	37, 377	37, 377	ナシ	輪郭のみ P=133	42
17	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	(19.6)	-	(12.5)	376, 377	376, 377	-	内径不明(比附)済	20a
18	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	14.2	7.2	7.8	377, 378	377, 378	-	輪郭文字	213
19	土師器	甕	体部上	アタシ、カマド	(16.1)	7.0	6.5	373	373	ナシ	P=65, 106, 212	212

図16 第4号竪穴住居跡(3)



第4号竪穴住居跡カマド (K A K A' K B K B' セクション)

- |              |       |                       |
|--------------|-------|-----------------------|
| 第1層 10YR2/3  | 黒褐色土  | 炭上層・炭化物微量、<br>P:2ス中量。 |
| 第2層 10YR3/3  | 暗褐色土  | 炭粒・炭化物微量、<br>P:2ス中量。  |
| 第3層 7.5YR3/3 | 暗褐色土  | 炭化物・炭粒少量、炭十中量。        |
| 第4層 10YR3/3  | 暗褐色土  | P:2ス少量。               |
| 第5層 10YR6/3  | 浅黄褐色土 | P:2ス少量、炭化物微量。         |
| 第6層 10YR4/4  | 褐色土   | 炭化物・炭粒微量。             |
| 第7層 10YR8/3  | 赤黄褐色土 |                       |
| 第8層 10YR4/4  | 褐色土   | 炭土中量。                 |
| 第9層 10YR3/2  | 黒褐色土  | P:2ス少量、炭化物微量。         |
| 第10層 10YR2/3 | 黒褐色土  | P:2ス少量。               |
| 第11層 10YR3/3 | 暗褐色土  | P:2ス微量。               |
| 第12層 10YD6/6 | 明黄褐色土 | P:2ス極微量。              |
| 第13層 10YR3/3 | 暗褐色土  | P:2ス多量。               |
| 第14層 10YR3/3 | 暗褐色土  | 砂・ローム粒・P:2ス多量。        |
| 第15層 10YR3/2 | 暗褐色土  | 砂・ローム粒中量。             |
| 第16層 10YR2/3 | 暗褐色土  | P:2ス多量、炭化物微量。         |
| 第17層 5YR3/4  | 暗褐色土  | 炭1塊。                  |
| 地山土 10YR5/6  | 黄褐色土  | P:2ス多量。               |



第4号竪穴住居跡出土遺物観察表

図録番号	種別	西名	部位	出土位置	口	径	深	西高	外山側面(文様)	内山側面(文様)	形状	備考	整理番号
20	遺物	大型	陶器	灰皿	-	-	-	-	タタキ目	ハケ目	ナデ	P-2	304
21	遺物	大型	陶器	灰皿	-	-	-	-	タタキ目	あて隠蔽	P-1		305

図17 第4号竪穴住居跡(4)



## 第5号竪穴住居跡 [図18~20]

[位置] U-26、V-25グリッドにまたがって位置する。

[重複] 第24号溝状ピットと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 南西側の一部が調査区域外に伸びているため全容は不明であるが、概ね隅丸方形を呈するものと思われる。壁長は東壁辺390cm、西壁辺の検出部分250cm、南壁辺の検出部分240cm、北壁辺420cmで、やや東西方向に長い。主軸方位はN-6°-Wで、床面積は検出部分で7.3㎡を測る。

[壁・床] 各壁ともほぼ垂直に床面から立ち上がる。壁高はそれぞれ東壁高50cm、西壁高25cm、南壁高23cm、北壁高57cmで、地形を反映して南壁側が低くなっている。床面は一部貼り床を施し、平坦に整えられている。

[ピット] 2基検出した。床面からの深さは、いずれも45cmである。Pit 1は柱穴と思われる。

[カマド] 北壁中央に構築されており、遺存状態は良好である。煙道は、壁から140cm延びたところで立ち上がり、煙出しまでの深さは約110cmを測る地下式のカマドで、粘土によって袖や天蓋部が作られている。袖には芯材として、第4号竪穴住居跡と同様の粘土塊と羽口を用いている。焚き口付近に羽口を置き、羽口と壁面との間の隙間を埋めるように粘土塊を並べている。火床面は貼り床面をそのまま利用したと思われ、範囲は35cm×25cmの楕円状に確認できた。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 11層に分層できた。黒色土～黒褐色土を主体とし、上位にはバミスの混入が、中位には白頭山火山灰の混入がそれぞれ見られた。土層観察から自然堆積と思われる。

[出土遺物] 堆積土中位から底面にかけて土師器杯(1、4~6)、甕(2、3、7、8、12、13)、須恵器杯(9)、大甕(10)が出土している。また、羽口(14、15、16)は、カマドの芯材に転用されていたものである。一方、南壁に近い堆積土中位から罎(11)が出土しているが、本遺構との関わりについては不明である。17の剥片石器は、堆積途中の流れ込みと思われる。

[小結] 降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。

## 第6号竪穴住居跡 [図21]

[位置] W・X-22グリッドにまたがって位置する。

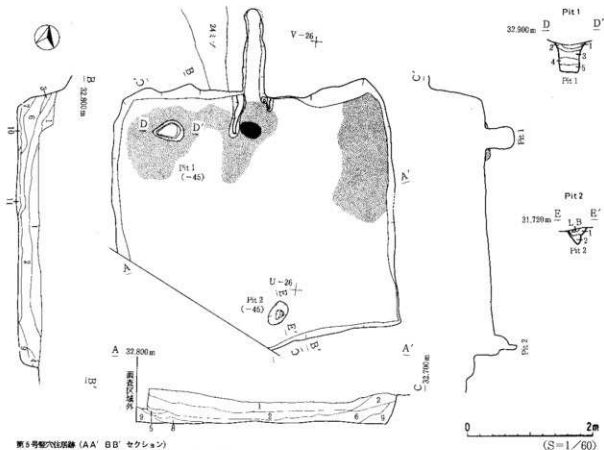
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整な隅丸方形を呈する。壁長は東壁辺130cm、西壁辺190cm、南壁辺162cm、北壁辺190cmを測る。主軸方位はN-35°-Wで、床面積は3.2㎡を測る。

[壁・床] 壁面は、底面から大きく開きながら立ち上がり、底面と壁面との境目が不明瞭な部分もある。壁高は、それぞれ東壁高25cm、西壁高35cm、南壁高12cm、北壁高50cmで地形を反映して東壁・南壁側が低くなっている。床面は平坦に整えられているものの締まりがない。カマド東側が大きく攪乱を受け、床面及び壁面の一部が欠損している。

[ピット] 検出されなかった。

長谷遺跡



第5号竪穴住居跡 (AA' B B' セクション)

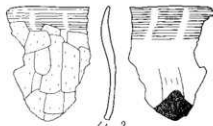
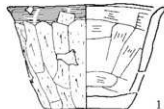
- 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス少量、炭土粒稀散。
- 第2層 10YR2/1 黒色土 バミス中量、小礫混入。
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミス中量。
- 第4層 10YH2/2 黒褐色土 バミス微量。
- 第5層 10YR1/7 黒色シルト B-Tin混入。
- 第6層 10YH2/3 黒褐色土 バミス微量、B-Tin混入。
- 第7層 (コマド裏土)
- 第8層 10YH2/1 黒色シルト バミス微量。
- 第9層 10YR4/6 褐色シルト 壁の明土。
- 第10層 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム中量、炭化物微量、極細褐色焼土 (5YH2/4) 粒状で少量。
- 第11層 10YR3/2 黒褐色土 厚石少量、暗赤褐色焼土 (5YR3/6) 少量。

第5号竪穴住居跡 Pit 1 (D D' セクション)

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物微量。
- 第2層 10YR4/3 赤褐色土 ローム粒少量、炭化物、厚石散在。
- 第3層 7.5YR4/4 褐色土 砂質ローム、玉砂利3個混入。
- 第4層 7.5YR4/6 褐色土 砂質ローム、玉砂利中量。
- 第5層 7.5YH5/8 明褐色土 砂質ローム、玉砂利少量。

第5号竪穴住居跡 Pit 2 (E E' セクション)

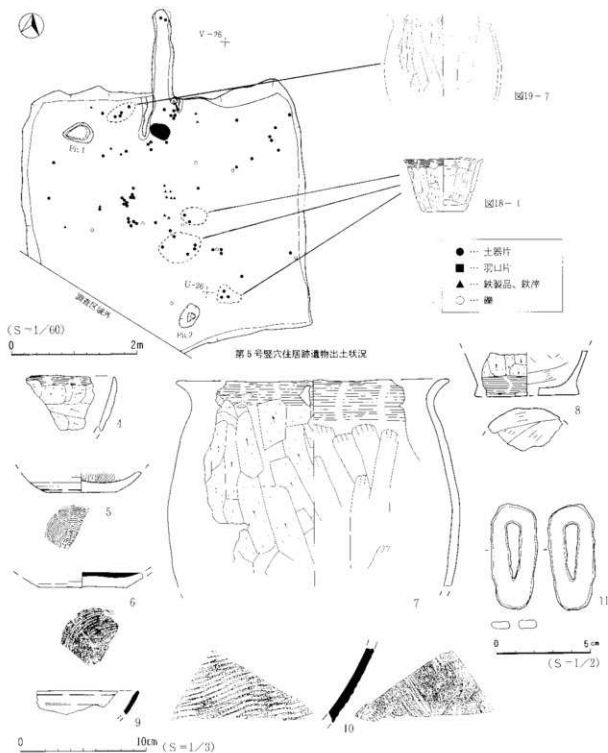
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 小礫・ゴロ石中量。
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 小礫・ゴロ石多量。



第5号竪穴住居跡出土遺物観察表

305番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	高さ	外面調様 (文様)	内面調様 (文様)	底面調様	備考	整理番号
1	土製器	鉢	底面	溝底	(12.6)	8.4	(8.4)	217c, 217d	217c, 217d	??	P-22, 107	56
2	土製器	甕	体面土着	溝底	-	-	(9.2)	217c, 217d	217c, 217d	-	-	48
3	土製器	甕	1.胴面	溝底	(9.5)	-	(4.8)	217c, 217d	217c, 217d	217c	-	49

図18 第5号竪穴住居跡 (1)



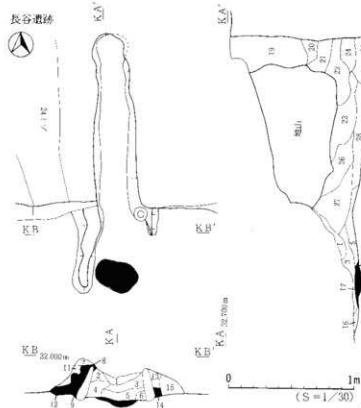
第5号竪穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	種 類	形 状	材 質	出土位置	口 径	底 径	高	外周測線(文様)	内周測線(文様)	図面説明	備 考	整理番号
4	土師器	杯	IT硬部	床面	—	(4.2)	3.95, 3.95	3.95, 3.95	—	P-123	232	
5	土師器	杯	底面	床面	(5.4)	(1.5)	4.75	—	—	田島赤切の P-104	230	
6	土師器	鉢	底面	床面	(7.0)	(8.0)	4.75	—	(D, 底)	田島赤切の P-123	231	
7	土師器	甕	体部1/2	床面	(20.4)	—	(16.5)	3.95, 3.95	3.95, 3.95	3号埋藏P-1と整合	47	
8	土師器	甕	底部	床面	(8.4)	(3.3)	3.25, 3.15	—	—	—	53	
9	土師器	鉢	口縁部	フツ	—	—	(1.3)	4.25	—	P-127	311	
10	流石器	人髑	破部	床面	—	—	—	3.15	—	—	310	

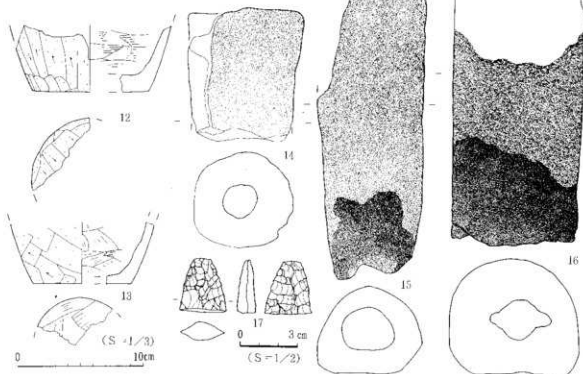
第5号竪穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	材 質	出土位置・部位	計測値(大きさmm・重さg)	器 種	備 考	整理番号
11	床面	—	56.8×29.7×4.0・13.0g	罎	透かし	1

図19 第5号竪穴住居跡(2)



- 第5号竖穴住居跡カマド (K.A.K.A) K.B.K.B' セグメン
- 第1層 7.5Y2/4 褐色土
  - 第2層 7.5YR3/0 暗褐色土
  - 第3層 7.5YR3/2 暗褐色土
  - 第4層 7.5YR3/4 暗褐色土
  - 第5層 7.5YR3/4 暗褐色土
  - 第6層 7.5YR5/6 暗褐色土
  - 第7層 7.5YR4/6 暗褐色土
  - 第8層 3YR4/6 暗褐色土
  - 第9層 7.5YR5/6 暗褐色土
  - 第10層 7.5YR3/4 暗褐色土
  - 第11層 7.5YR3/2 暗褐色土
  - 第12層 7.5YR8/8 褐色土
  - 第13層 10YR4/4 褐色土
  - 第14層 7.5YR7/2 黄褐色土
  - 第15層 10YR5/2 黄褐色土
  - 第16層 7.5YR4/4 褐色土
  - 第17層 8YR3/7 黄褐色土
  - 第18層 7.5YR7/8 暗褐色土
  - 第19層 10YR3/4 黄褐色土
  - 第20層 7.5YR5/4 以上、暗褐色土
  - 第21層 10YR8/6 黄褐色土
  - 第22層 10YR3/2 暗褐色土
  - 第23層 10YR5/6 黄褐色土
  - 第24層 10YR2/3 黄褐色土
  - 第25層 7.5YR2/1 黄褐色土
  - 第26層 10YR4/2 黄褐色土
  - 第27層 10YR2/6 黄褐色土
  - 第28層 7.5YR2/2 黄褐色土
- 土質・土質・浮石少量、  
土、石2個、  
ローム粒少量、炭粒少量、  
焼土粒・浮石・炭化物微量、  
焼土粒・浮石中量、炭化物微量、  
焼土粒・炭化物少量、浮石少量、  
焼土粒少量、浮石微量、  
ローム粒微量、  
ローム質土、  
焼土粒・浮石・炭化物微量、  
焼土粒少量、  
焼土粒微量、炭土粒・炭化物少量、  
炭土粒・炭化物微量、  
浮石少量、炭化物微量、  
浮石中量、炭土粒少量、炭化物微量、  
炭土粒少量、炭化物微量、  
焼土、  
ローム質土、  
ローム粒・浮石少量、炭化物少量、  
ローム粒微量、炭土・炭化物少量、  
ローム粒、炭化物少量、炭土粒少量、  
以上、暗褐色土、炭化物少量、  
ローム粒、炭化物少量、炭土粒少量、  
炭化物中量、炭土粒少量、浮石少量、  
ローム粒・炭化物少量、浮石少量、  
明褐色土中量、暗褐色土少量、  
炭化物少量、炭土粒少量、ローム粒少量、



第5号竖穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	名称	部位	出土位置	口径	径	径	径	径	内面形状(文様)	外面形状	底面形状	備考
12	土器	土器	底面	カマド穴土	(9.2)	(5.3)	(4.5)			凹	ヘタタテリ	P-28	51
13	土器	土器	底面	カマド穴土	(7.8)	(4.7)	(3.9)			凹	ヘタタテリ	P-25	52

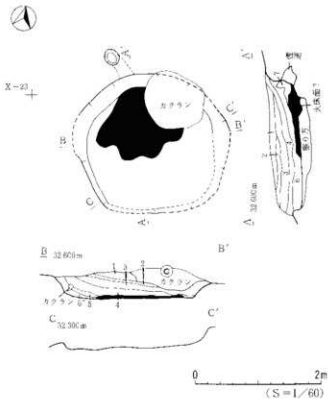
第5号竖穴住居跡出土遺物観察表

図版番号	出土地・層位	幅 (cm)	厚さ (mm)	長さ (cm)	重 (g)	器	種	備	考	物理番号
14	フタ	8.5	7.5	10.5	512.6	土	蓋	口		18
15	カマド	8.4	7.0	24.4	730.3	土	口			20
16	カマド	10.4	9.2	22.9	1720.0	土	口			19

第5号竖穴住居跡出土遺物観察表

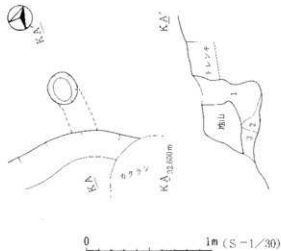
図版番号	出土地・層位	長さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 (g)	材質	形状	備考	物理番号
17	土	(24.5)	24.4	3.6	(5.9)	土	尖頭瓦	不規則形状、石灰土の上部	16

図20 第5号竖穴住居跡 (3)



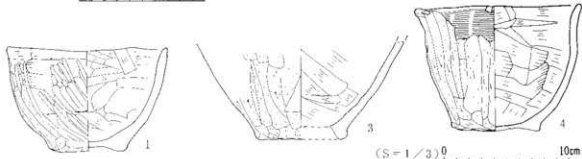
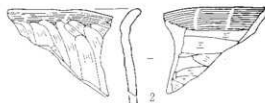
## 第6号竪穴住居跡 (A-A' B-B' セクション)

- 第1層 10YR17/1 赤色土 アウスタ・浮石少量、軽石・To-a多量。  
 第2層 10YR12/1 黒色土 浮石少量、軽石微量、To-a多量。  
 第3層 10YR17/1 赤色土 浮石・軽石微量。  
 第4層 10YR2/1 黒褐色土 浮石・アウスタ微量。  
 第5層 10YR2/2 黒褐色土 浮石微量。  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 浮石微量。  
 第7層 10YR2/3 黒褐色土 赤土微量。



## 第6号竪穴住居跡カクラン壁遺 (K-A' K-A'' セクション)

- 第1層 10YH2/1 赤褐色土 下層層に炭化物少量、ローA粒微量、アウスタ中量。  
 第2層 10YH2/3 黒褐色土 中量土 (10YR5/6)中量、硬土粒・炭化物微量。  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土



## 第6号竪穴住居跡出土遺物一覧表

図録番号	種類	器種	部位	出土状況	口径	底径	器高	外径測定(文種)	内径測定(文種)	断面図	備考	整理番号
1	土師器	杯	底部	奥通	12.8	6.0	8.5	227E, 217F, 227E	227E, 217	---	底面中央 支脚心	214
2	土師器	甕	口縁部	フタ上	---	---	(6.3)	227E, 217	227E, 217	---	輪郭不明 P-102	58a
3	土師器	甕	体部下部	奥通	---	---	(7.4)	227E	227E	---	輪郭不明	59
4	土師器	甕	略成形	フタ上	(13.4)	7.0	10.0	227E, 227E	227E, 227E	227E	内部炭化炭化物付着	56

図21 第6号竪穴住居跡

〔カマド〕北壁中央に構築されており、遺存状態は不良である。本体部分は床面で焼土範囲として確認した。遺存する煙道は壁面から50cm延びたところで立ち上がる地下式のカマドで、煙出し口からの深さは55cmを測った。

〔その他の施設〕検出されなかった。

〔堆積土〕7層に分層できた。黒色土を主体とし、1～2層には十和田a火山灰の混入が見られる。土層観察から自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕土師器坏（1）、甕（2～4）が出土している。

〔小結〕降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。

### 第7号竪穴住居跡〔図22～25〕

〔位置〕Q・R-18グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕第107号竪穴住居跡は、本住居跡の拡張前のものである。

〔概要〕本住居跡は当初1軒の竪穴住居跡として確認されていたが、改築されていることが判明したことから、新しい住居跡を第7号竪穴住居跡、古い方を第107号竪穴住居跡として記録することとした。本住居跡は、第107号住居跡と西壁及び南壁を共有している。

〔平面形・規模〕西壁辺で475cmを測ることから、この規模で方形の平面形を呈するものと思われる。南壁辺で280cm、北壁辺で320cm検出されたが、東壁は遺存していない。主軸方位はN-1°-Wで、床面積は遺存する部分で16.4㎡を測る。

〔壁・床〕床面から緩やかに開きながら立ち上がる壁面は、西壁で72cm、南壁で55cm、北壁で35cmを測り、床面は貼り床を施して整地されている。

〔ピット〕1基検出された。床面からの深さは25cmである。

〔カマド〕北壁に構築されており、遺存状態は不良である。煙道部が140cmと比較的長い半地下式のカマドで、燃焼部付近には被熱して赤色化した粘土塊が土師器片などとともに多量に出土している。これらの粘土塊は袖や天蓋部の一部であったと思われる。火床面は貼り床面をそのまま利用し、径30cmの不整な円形をしている。

〔その他の施設〕検出されなかった。

〔堆積土〕14層に分層できた。黒色土を主体とし、堆積土全体に、白頭山火山灰あるいは十和田a火山灰と思われる火山灰の混入が見られる。土層観察から自然堆積と思われる。

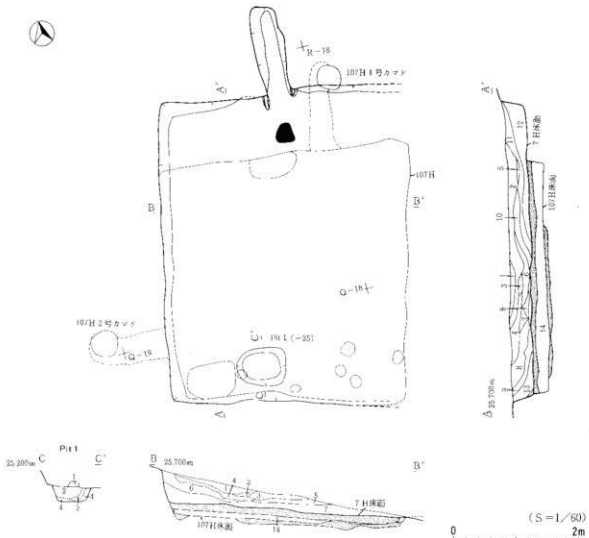
〔出土遺物〕カマド周辺を中心に多数の遺物が出土している。ロクロ成形後内面を黒色処理した土師器坏（2、12）、甕（1、3～9）、須恵器大甕（10、11）、刀子（13）などがある。

〔小結〕降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。

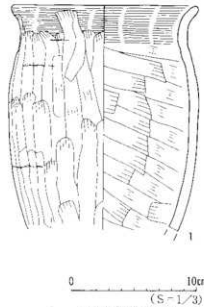
### 第107号竪穴住居跡〔図26～28〕

〔位置〕Q-18・19グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕第7号竪穴住居跡は、本住居拡張後のものである。



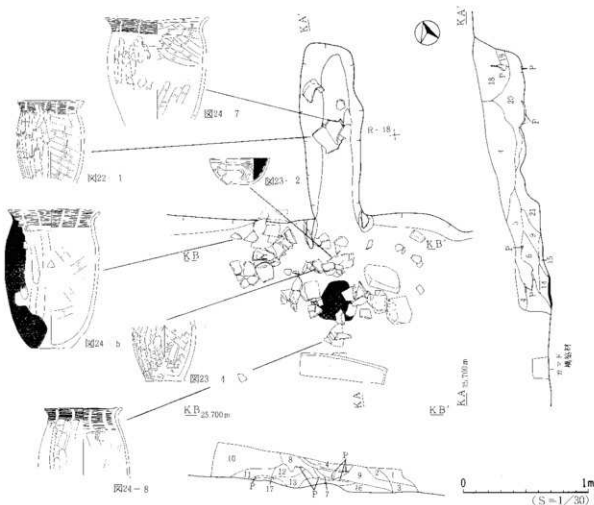
- 第7号竪穴住居跡 (A-A' B-B' セクション)**
- 第1層 10Y R1 3/1 黒色土、ローム粒微量、火山灰粒少量。
  - 第2層 10Y T1 7/1 赤色土、ブロック1個、火山灰粒微量。
  - 第3層 10Y H2/1 黒色土、ローム粒微量、火山灰土層に少量。
  - 第4層 10Y H2/1 黒色土、ローム粒・L、B少量。
  - 第5層 10Y H2/1 赤色土、ローム粒中量、炭化物微量。
  - 第6層 10Y H1 4/1 黒色土、ローム粒・火山灰粒微量、炭化物少量。
  - 第7層 10Y R2/2 黒褐色土、ローム粒・L、B少量。
  - 第8層 10Y R1 7/1 赤色土、火山灰粒少量。
  - 第9層 10Y H2/2 黒褐色土、ローム粒少量、火山灰粒・浮石微量、黄土ブロック1個、暗褐色土粒 (10Y R3/4) 中量。
  - 第10層 10Y R2/1 赤色土、火山灰粒・ローム粒微量、炭化物微量。
  - 第11層 10Y R2/1 赤色土、炭化物微量、浮石微量。
  - 第12層 10Y R2/2 黒褐色土、ローム粒・L、B中量。
- 第10号竪穴住居跡**
- 第1層 10Y S1 7/1 赤色土、火山灰粒・炭化物微量。
  - 第2層 10Y R3/1 赤色土、ローム粒少量、浮石微量、火山灰粒微量。
- 第7号竪穴住居跡 Pit 1 (C-C' セクション)**
- 第1層 10Y T1 7/1 黒色土、火山灰少量。
  - 第2層 10Y R2/1 赤色土、L、D微量。
  - 第3層 10Y H1 7/1 赤色土、火山灰ブロック状に少量混入。
  - 第4層 10Y H2/2 黒褐色土、褐色土 (10Y R4/6) 少量。



第7号竪穴住居跡出土遺物観察表

図録番号	種類	名称	部位	出土位置	口径	径	高さ	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	寸法	整理番号
1	1層	陶器	体	胴体上部	カマツク1	(15.0)	(17.0)	2275, 2277	2776, 2777		10等分・6と1割、輪縁小段	63

図22 第7号竪穴住居跡 (1)



- 第7号壁穴住居跡カマド (KAKA K.B.K.B' セクション)
- 第1層 10Y T2/1 黒褐色土 浮石・アワズナ少量
  - 第2層 10Y K2/2 黒褐色土 炭化物・燧石、アワズナ少量
  - 第3層 10Y T2/2 黒褐色土 浮石・中層、炭化物・燧石
  - 第4層 10Y T2/2 黒褐色土 炭化物・燧石、浮石・アワズナ中層
  - 第5層 10Y K2/2 黒褐色土 アワズナ・浮石・燧石
  - 第6層 10Y T2/1 黒褐色土 燧石・炭化物・燧石
  - 第7層 10Y K2/3 黒褐色土 炭化物・浮石・燧石
  - 第8層 10Y T2/2 黒褐色土 ローム粒少量、浮石・燧石、炭化物・燧石
  - 第9層 10Y K2/2 黒褐色土 浮石・アワズナ中層、燧石・炭化物・燧石
  - 第10層 10Y T2/1 黒褐色土 ローム粒・燧石少量、アワズナ中層、炭化物・燧石、焼けた粘土・燧石
  - 第11層 10Y T2/1 黒褐色土 アワズナ・ローム粒少量
  - 第12層 10Y K2/2 黒褐色土 炭化物・燧石・浮石少量
  - 第13層 7.5Y H2/2 黒褐色土 炭化物・燧石・ローム粒少量、浮石・燧石
  - 第14層 10Y T2/3 黒褐色土 浮石、アワズナ中層
  - 第15層 10Y K2/3 黒褐色土 炭化物・燧石・燧石、アワズナ少量
  - 第16層 10Y T2/2 黒褐色土 浮石少量、炭化物・燧石
  - 第17層 10Y T2/2 黒褐色土 アワズナ少量
  - 第18層 10Y K4/4 黒褐色土 燧石・炭化物・ローム粒・浮石少量、黒褐色土 10Y T2/1 中層
  - 第19層 10Y T2/1 黒褐色土 炭化物・燧石
  - 第20層 10Y K2/2 黒褐色土 浮石・炭化物・燧石
  - 第21層 10Y T2/3 黒褐色土 浮石・炭化物・アワズナ少量

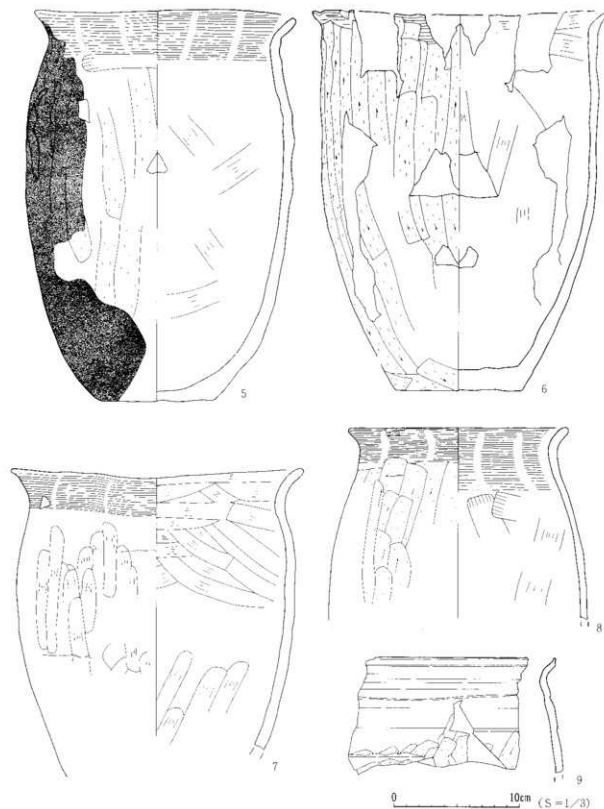


第7号壁穴住居跡出土遺物観察表

採取番号	種別	数量	単位	出土位置	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	1.10	1.11	1.12	1.13	1.14	1.15	1.16	1.17	1.18	1.19	1.20	1.21	1.22	1.23	1.24	1.25	1.26	1.27	1.28	1.29	1.30	1.31	1.32	1.33	1.34	1.35	1.36	1.37	1.38	1.39	1.40	1.41	1.42	1.43	1.44	1.45	1.46	1.47	1.48	1.49	1.50	1.51	1.52	1.53	1.54	1.55	1.56	1.57	1.58	1.59	1.60	1.61	1.62	1.63	1.64	1.65	1.66	1.67	1.68	1.69	1.70	1.71	1.72	1.73	1.74	1.75	1.76	1.77	1.78	1.79	1.80	1.81	1.82	1.83	1.84	1.85	1.86	1.87	1.88	1.89	1.90	1.91	1.92	1.93	1.94	1.95	1.96	1.97	1.98	1.99	2.00																																																																																																																																					
2	土器	16	破定形	カマド付近	(13.8)		6.0	6.1	973		974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200

図23 第7号壁穴住居跡(2)

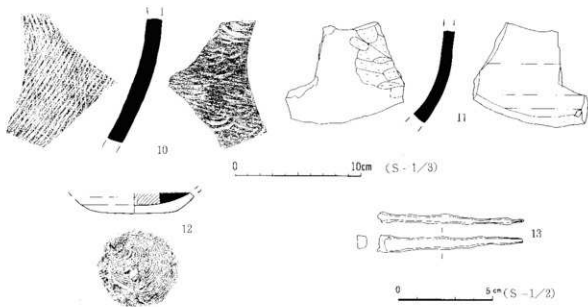




第7号竪穴住居跡出土遺物観測表

採取番号	種類	石類	部位	出土位置	L	径	底径	石高	表面調査(文様)	内面調査(文様)	底面調査	備考	観察番号	
1)	土師器	甕	駒形	カマド	20.8	9.0	31.3	4274, 4317	4274, 4317			内外面調査付否	P-12	60
6	土師器	甕	駒形	カマド付否	23.4	10.3	30.3	4274, 4325	4274, 4325	木炭灰		P-1~27	62	
7	土師器	甕	体形(口)	カマドツカキ	33.4	—	24.6	4274, 4325	4274, 4325			資料A33, 動物骨付, 4, 4, 4	61	
8	土師器	甕	体形(上半)	カマド付(体形)	17.0	—	15.3	4274, 4325	4274, 4325			内外面調査付否	64	
9	土師器	甕	体形(上半)	カマド付(体形)	—	—	16.3	4274, 4325	4274, 4325			資料C-107	63	

図24 第7号竪穴住居跡(3)



第7号竪穴住居跡出土遺物観察表

図録番号	種類	石	瓦	部	位	出土位置	口	深	底	高	内面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備	考	図録番号
10	床敷	大壁	敷	部	位	カマド付石床	-	-	-	-	stf	あて貝模(青陶片状文)	-	-	-	315
11	床敷	大壁	敷	部	位	カマド付石床	-	-	-	-	stf, spf	ロツロ	-	-	一部自然欠損	316
12	土師器	床	敷	部	位	カマドフタ上	-	7.0	(0.2)	-	stf	ハ, 縦	口縁部欠け	-	-	216

第7号竪穴住居跡出土遺物観察表

図録番号	出土地点・層位	貯蔵物(大きさ・重さ)	器種	備	考	図録番号
13	庭床中	貯蔵物(大きさ・重さ) 71.1×11.3×5.2 / 5.3g	刀子	深のみ、刀柄欠	-	3

図25 第7号竪穴住居跡(4)

〔概要〕本住居跡は当初1軒の竪穴住居跡として確認されていたが、改築されていることが判明したことから、新しい住居跡を第7号竪穴住居跡、古い方を第107号竪穴住居跡として記録することとした。本住居跡は、第7号住居跡と西壁及び南壁を共有している。

〔平面形・規模〕東壁辺402cm、西壁辺350cm、南壁辺360cm、北壁辺395cmを測る。平面形はほぼ方形を呈する。主軸方位はN-5°-Eで、床面積は12.9㎡を測る。

〔壁・床〕壁は、第7号竪穴住居跡に拡張されたため遺存する部分が少ないが、北壁・南壁の観察から、床面からほぼ垂直に立ち上がるものと推定される。地山を床面とし、平坦に整えられている。

〔ピット〕8基検出された。Pit101及びPit102は径が60cmと70cmの不整な円形を呈し、いずれも断面が皿状である。その規模・形態から貯蔵穴の可能性が考えられる。

〔カマド〕本遺構では2基のカマドが検出されており、新旧の順に1号カマド、2号カマドとして記録することとした。

1号カマドは、北壁中央東寄りに構築されていたと推定される。拡張に伴って壊されたと思われる、遺存状態は不良である。比較的遺存状態の良い煙道部は地下式と推定され、住居壁面から140cm延びたところで外傾しながら立ち上がる。袖や天蓋部は遺存していないものの、火床面の範囲は確認

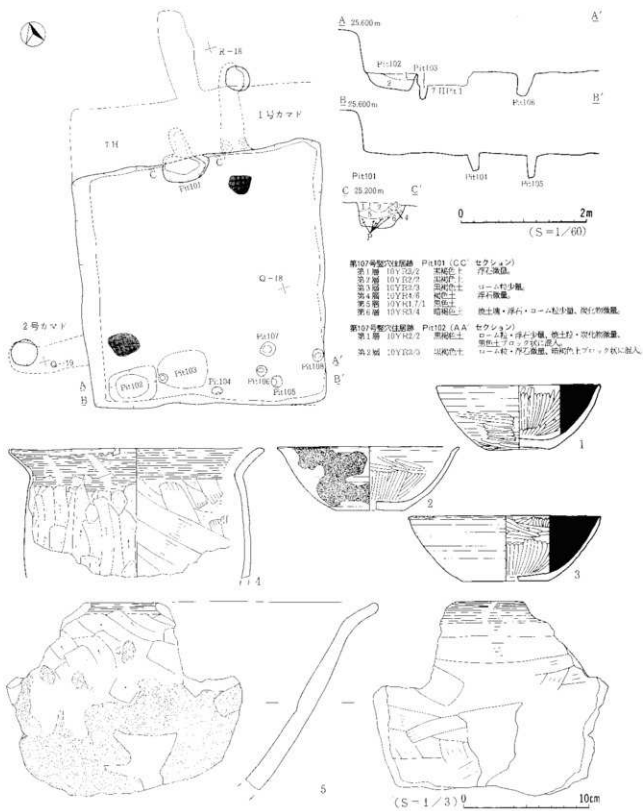


図26 第107号竪穴住居跡(1)

第107号竪穴住居跡出土遺物観察表

採取番号	層 別	器 種	部 位	出土位置	口 径	底 径	高	外面測定(文様)	内面測定(文様)	断面測定	備 考	整理番号
1	土師器	鉢	胴元部	溝内	(11.5)	5.1	5.3	87.5・94	87.5・94	1.95・1.8	1号No.201と類似	227
2	土師器	鉢	胴元部	溝内	14.3	(5.4)	5.1	25.5	87.5・94	1.95・1.8	1号No.201と類似	221
3	土師器	鉢	胴元部	溝内	(15.5)	(7.0)	5.3	29.5	87.5・94	1.95・1.8	1号No.201と類似	222
4	土師器	甕	体取1層	溝内	(20.4)	—	(10.2)	87.5・94	2.95・2.97	—	P-211, 214	52
5	土師器	埴	体取1層	溝内	—	—	(15.0)	87.5・94	4.47・4.47	—	外面に黒土付	91

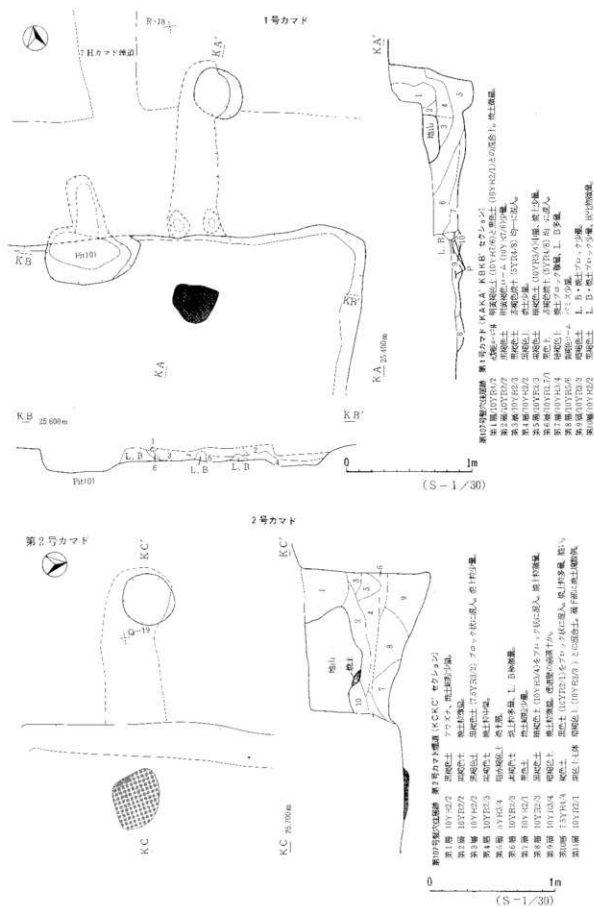
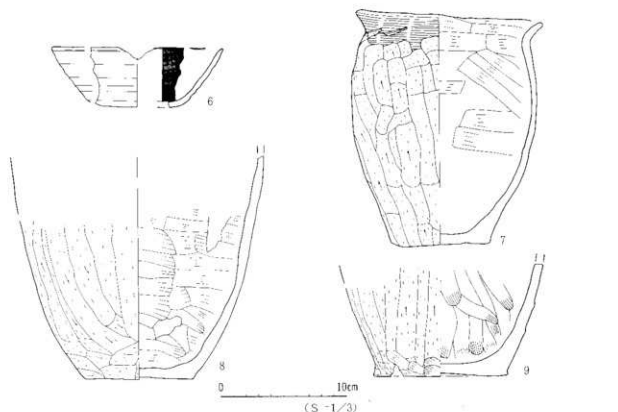


図27 第107号竪穴住居跡 (2)



第107号竪穴住居出土遺物整理表

図録番号	種類	名称	部位	出土位置	口径	底径	高さ	内面装飾(文様)	内面装飾(文様)	底面装飾	<口径・底径・高さの単位: cm>	
											種	号
6	土器片	埴	断面	カマツ鉢	13.6	5.4	4.7	赤	ツギ	丸	P-202, 217	220
7	土器片	甕	底面	カマツ土	15.0	7.8	14.1	赤	ツギ	丸		98
8	土器片	甕	体部上縁	カマツ	8.4	3.7	5.7	赤	ツギ	丸		91
9	土器片	甕	体部上縁	カマツ	16.0	10.6	8.8	赤	ツギ	丸		93

図28 第107号竪穴住居跡(3)

することができた。

2号カマドは、西壁南寄りに構築されていたと推定される。1号カマドと同様、拡張に伴って壊されたと思われる、遺存していたのは煙道部と火床面のみであった。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 1層確認できたが、第7号竪穴住居跡の貼り床層直下で確認したため、第7号竪穴住居跡の掘り方の可能性もある。

[出土遺物] 第7号竪穴住居跡の貼り床層以下から出土した遺物を本住居跡の遺物として一括した。内面黒色処理した土師器の坏(1~3、6)、甕(4、7~9)、埴(5)がある。埴は、本遺跡からはこの1点のみの出土である。

[小結] 本住居跡出土遺物と拡張後の第7号竪穴住居跡出土遺物との間に明確な時間差が認められないことから、本住居の構築時期は9世紀中葉頃であると考えられる。

第8号竪穴住居跡 [図29～32]

[位置] O・P-16・17グリッドにまたがって位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は南壁側がやや広がる方形を呈する。壁長は東壁辺370cm、西壁辺350cm、南壁辺380cm、北壁辺360cmである。主軸方位はN-34°-Wで、床面積は12.0㎡を測る。

[壁・床] 壁高はそれぞれ東壁高25cm、西壁高50cm、南壁高30cm、北壁高20cmで、床面が中央から北壁に向かってやや高くなる。V～VI層と思われる黒褐色土を床面とし、堅く締まっている。

[ピット] 検出されなかった。

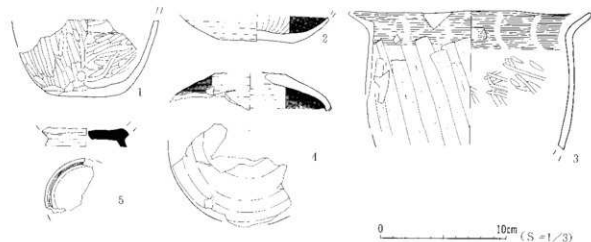
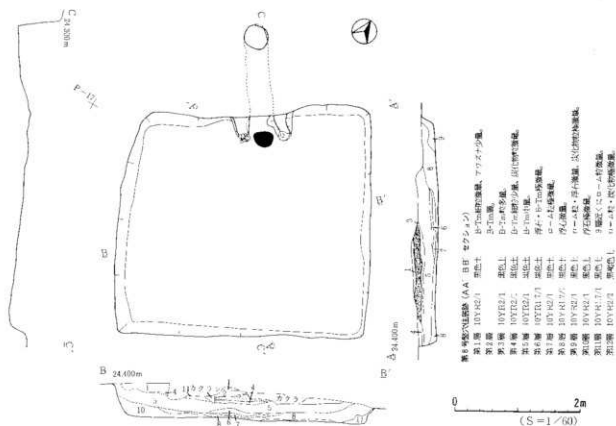
[カマド] 北壁中央に構築されており、遺存状態は比較的良好である。煙道部が壁面から145cmのところまでやや下降しながら延びた後、直立する地下式のカマドである。煙出口からの深さは65cmを測る。粘土によって袖や天蓋部が作られており、内側は被熱して赤色化している。袖の芯材には土師器の甕を倒立させて用いている。火床面は床面からやや盛り上がっており、30cm×25cmの楕円形をしている。

[その他の施設] なし。

[堆積土] 11層に分層できた。黒色土を主体とし、上位には白頭山火山灰が堆積し、下位にはローム粒の混入が見られる。土層観察から自然堆積と思われる。

[出土遺物] 遺物は主にカマド付近から出土している。土師器の坏は、内面黒色処理したもの(2)とそうでないもの(1)がある。土師器甕の出土は多く、復元できたものだけでも7点(3、6、8、9～12)を数える。その他、甕(7)、須恵器長頸壺の台部と思われる破片(5)、黒色土器の蓋片と思われるもの(4)がある。

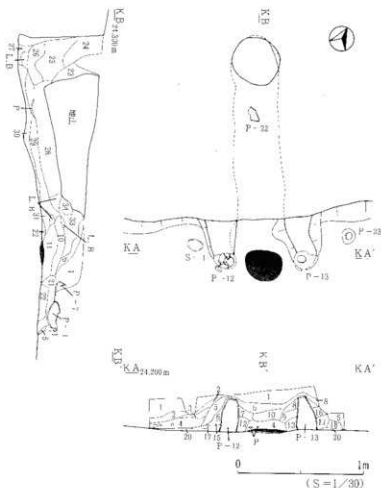
[小結] 降下火山灰の堆積状況及び出土遺物から、本住居跡の構築時期は9世紀中葉～後葉であると考えられる。



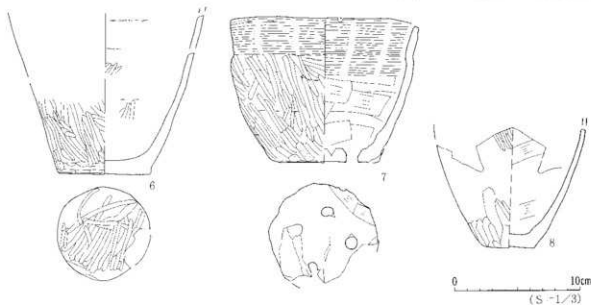
第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

DB番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	内面図柄(文様)	内面図柄(文様)	断面形状	口縁・底径・器高の単位 (cm)	観察番号
1	土師器	鉢	体部下半	アラスナ	-	6.0 (0.2)	11		109 51	ヘラケモノ	丸底型	88
2	土師器	鉢	縁部	アラスナ	-	6.0 (1.9)	67		170 24, 172	丸底型		219
3	土師器	鉢	体部上半	アラスナ	19.4	-	(10.9)	277 25, 171	277 25, 171	丸底型		79
4	土師器	豆	胴元形	アラスナ	-	-	22		212		灰土器	206
5	土師器	長靴形	胴部	アラスナ	6.4	(1.1)	73		73			200

図29 第8号竪穴住居跡(1)



- 第8号竪穴住居跡カマド (KAKA KBKB セクション)
- 第1層 10YR2/1 灰色土 アズタ・少塵、芥子・炭化物微量。
  - 第2層 10YR2/1 褐色土 アズタ・炭化物微量、ローム中少量。
  - 第3層 10YH2/3 黒褐色土 炭褐色土多量。
  - 第4層 10YH2/1 灰色土 アズタ・ローム中少量、焼土粒微量、炭化物微量。
  - 第5層 10YH2/3 炭褐色土 アズタ・炭化物微量、ローム粒・焼土粒少量。
  - 第6層 7.5Y7/3 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量。
  - 第7層 10YH7/8 黄褐色土 焼土粒少量。
  - 第8層 7.5YR3/2 黄褐色土 焼土粒少量、炭化物微量。
  - 第9層 7.5YR4/1 褐色土 焼土粒少量、ローム質土。
  - 第10層 7.5YR1.7/1 赤褐色土 ローム粒・焼土粒少量、炭化物微量。
  - 第11層 7.5YH3/4 暗褐色土 焼土粒中量、ローム粒少量、焼土粒少量、炭化物微量。
  - 第12層 7.5YH2/2 赤褐色土 ローム粒微量、焼土粒・炭化物少量。
  - 第13層 7.5YH3/3 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物微量。
  - 第14層 7.5YR5/6 暗褐色土 粘質褐色土 粘質ローム。
  - 第15層 7.5YR2/2 暗褐色土 ローム粒微量、焼土粒少量、炭化物中量。
  - 第16層 7.5YR5/6 暗褐色土 焼土粒少量、ローム質土。
  - 第17層 10YR2/1 灰色土 ローム粒少量、焼土粒微量。
  - 第18層 10YR2/1 灰色土 アズタ・炭化物微量。
  - 第19層 10YH5/6 黄褐色土 焼土粒微量。
  - 第20層 10YR2/1 褐色土 アズタ少量。
  - 第21層 7.5YR1/1 黄褐色土 アズタ・ローム粒・焼土粒・炭化物微量。
  - 第22層 10YH4/4 褐色土 ローム粒多量、焼土粒中量、炭化物少量。
  - 第23層 10YR2/1 褐色土 アズタ少量、ローム中少量。
  - 第24層 10YR2/1 赤褐色土 アズタ・焼土粒微量、炭化物少量、ローム粒微量。
  - 第25層 10YH2/2 暗褐色土 焼土粒少量、炭化物・粘質褐色土少量。
  - 第26層 7.5YH2/2 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒少量。
  - 第27層 10YR2/1 褐色土 炭化物多量、焼土粒少量、炭化物微量。
  - 第28層 7.5YR3/2 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒少量、炭化物微量。
  - 第29層 7.5YH2/3 粘質褐色土 ローム粒微量。
  - 第30層 7.5YH2/2 黄褐色土 焼土粒微量。
  - 第31層 7.5YR2/2 赤褐色土 焼土粒少量。
  - 第32層 10YH5/6 黄褐色土 炭褐色土少量、焼土粒微量。
  - 第33層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量。

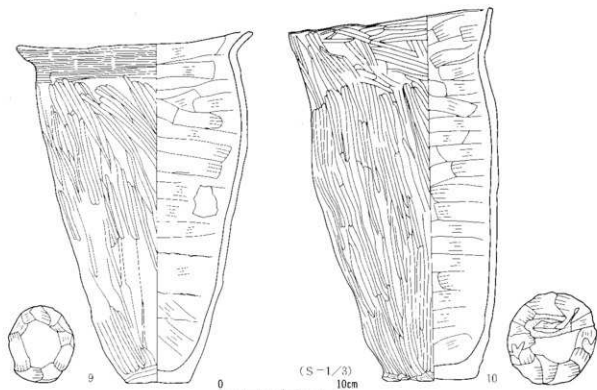


第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

図号	種類	形状	部位	出土位置	口径	底径	高さ	内面図形(文様)	外面図形(文様)	底面図形	備考	数量
6	土師器	碗	全体	カマド付近	—	7.4	(13.0)	円	円	縁部(フツ)	ミガキの上側でナシ	86
7	土師器	碗	全体	カマドアケ土	15.0	(8.6)	10.6	円形, 2, 15	円形, 11	底(4穴)	P-7	30
8	土師器	碗	全体	アケ土	—	4.5	(9.6)	円	円	底	P-2	87

図30 第8号竪穴住居跡(2)





第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

図号	種別	名称	形状	出土位置	口径	底径	高さ	外周線(文様)	内周線(文様)	出所	図号	単位	備考	図号
9	土器	甕	先形	サツト北群②	19.0	5.8	28.0	25F	21F, 22F	ヘナナ	輪切小箱	P-13		75
10	土器	甕	完形	サツト北群①	16.3	7.7	29.7	25F	21F	ヘナナ	P-12			74

<口径・底径・高さの単位: cm>

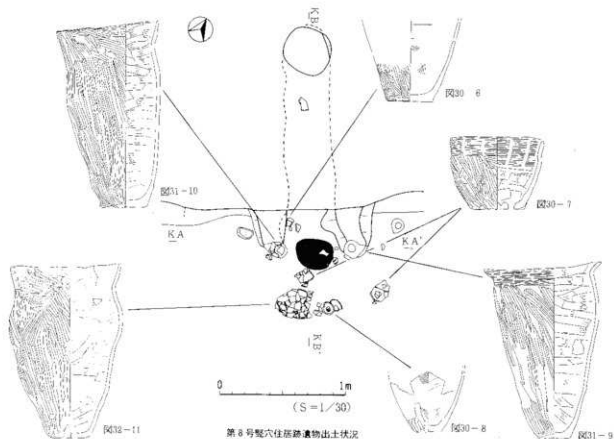
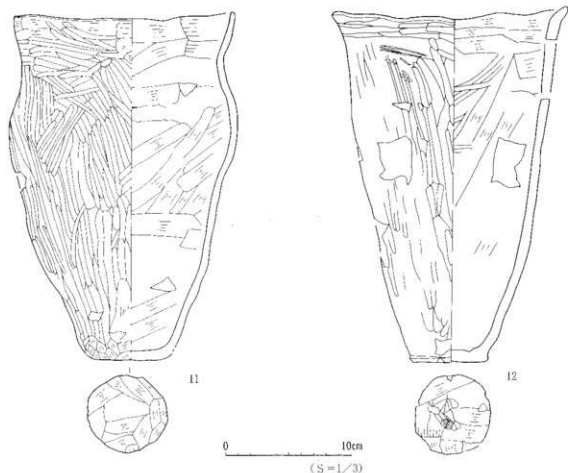


図31 第8号竪穴住居跡(3)



第8号竪穴住居跡出土遺物整理表

図版番号	種別	器種	部位	出土位置	11 径	11 底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	器底調整	調整箇所	整理番号
11	土師器	甕	肩部	ゼマトフク上	17.6	6.2	27.8	斜	斜	斜	輪切小段	76
12	土師器	甕	底部片	アタ土	18.7	6.2	28.5	斜	斜	斜	F-1, 5, 17	77

&lt;口径・底径・器高の単位 cm&gt;

図32 第8号竪穴住居跡(4)

## [遺構間接合遺物について]

遺構内出土物の内、遺構間で接合する遺物が5個体分確認されている(表1)。いずれも住居間での接合である。遺構の相対的位置関係がいずれも斜面の上下という関係にあることから、斜面上方の住居から下方の住居への流れ込みの可能性が考えられる。図26-1以外は出土層位が不明で、住居構築時期の相対的な時間差などについて考察できなかった。

なお、1と2は、各住居跡出土物の図版中に図示できなかったため、ここでその特徴を述べる。1は土師器長胴甕の胴部片であると思われる。器外面には強いヘラナデ調整の痕が確認できる。2は土師器甕の底部片で、ヘラナデ調整によって器面を整えている。

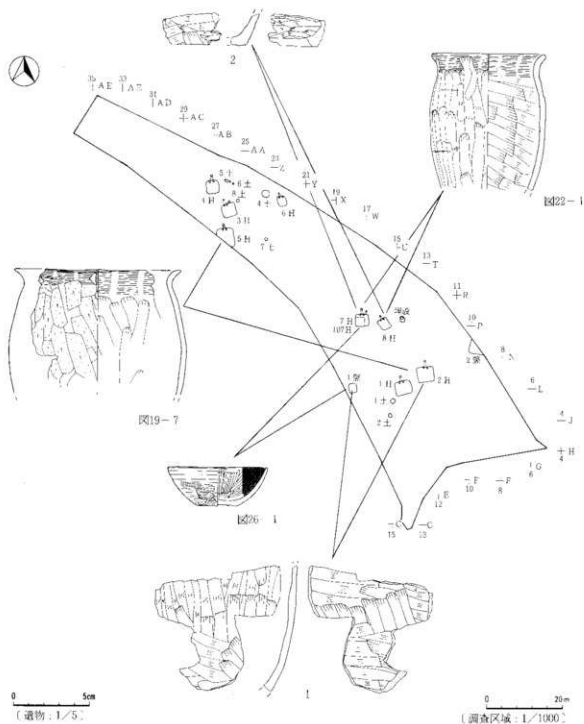


表1 遺構間接合遺物一覧表

図録番号	種	所	名	種	部	位置	出土遺構・層位	図録番号	考	整理番号
図26-1	土師器	壺	壺	壺	壺	壺	1層・2H・107日塚遺	図26-1		277
図19-7	土師器	壺	壺	壺	壺	壺	2H・2H	図19-7		37
図24-1	土師器	壺	壺	壺	壺	壺	2H・8H	図24-1		63
1	土師器	壺	壺	壺	壺	壺	2層・2H	図19-7		2
2	土師器	壺	壺	壺	壺	壺	2H・8H	図26-1		71

図33 遺溝間接合遺物出土地点

### (3) 竪穴遺構 [図34～図35]

#### 第1号竪穴遺構 [図34]

〔位置〕 K・L-17・18グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は、北壁が弧状に膨らむもののほぼ方形を呈する。壁長は東壁辺197cm、西壁辺206cm、南壁辺178cm、北壁辺171cmで、やや南北に長い。主軸方位はN-6°-Wで、床面積は3.1㎡を測る。

〔壁・底面〕 壁高はそれぞれ東壁高61cm、西壁高89cm、南壁高72cm、北壁高78cmで地形を反映して東壁側が低くなっている。各壁とも底面から垂直に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面には、炭化物や草木灰の混じった焼土が堆積しており、焼失した遺構の可能性も考えられる。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 14層に分層できた。黒色土を主体とし、1層に多量の白頭山火山灰が混入し、層全体に浮石の混入が見られる。土層観察から自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土師器杯(1、2)、甕(3、4)の破片が出土している。杯は、内面が丁寧に磨かれており、黒色処理されたものも出土している。甕は、胴部の膨らみが弱く、口縁部が大きく外反する。

〔小結〕 遺構の性格は不明である。

#### 第2号竪穴遺構 [図35]

〔位置〕 N-9・10グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 大半が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、検出された部分から推測すると、平面形は方形を呈すると思われる。壁長は西壁辺、南壁辺の遺存する部分で、それぞれ277cm、250cmを測る。遺存する部分の床面積は3.1㎡である。

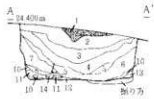
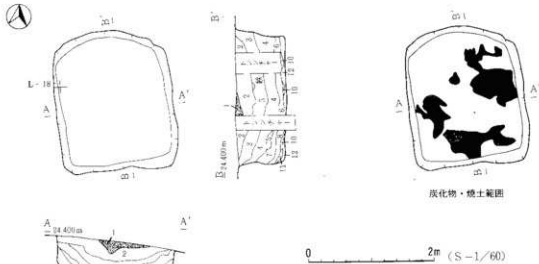
〔壁・底面〕 壁は、床面からほぼ垂直に立ち上がり、中端付近で外側に大きく開く。壁高は、西壁高100cm、南壁高70cmである。床面は貼り床を施して整えられている。

〔ピット〕 南壁側の床面に2基検出された。床面からの深さはPit1が22cm、Pit2が17cmである。

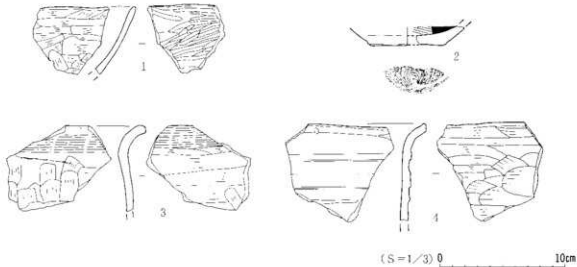
〔堆積土〕 34層に分層できた。黒褐色土～黒色土を主体とし、アワズナ、ロームを層全体に含む。また、確認面付近には白頭山火山灰が大きなブロックで、中位から下位にかけては十和田a火山灰が粒状に混入している。土層観察から自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土師器甕(1、2)の破片が出土した。1号の遺物と同じ様相を呈するが、ロクロ成形された遺物は出土していない。

〔小結〕 本遺構は、カマドが検出されなかったため竪穴遺構として記載したが、床面を貼り床によって整地していることや遺構の規模から、住居跡である可能性が高い。



- 第1号竪穴遺構 (AA' 目録・セクション)
- 第1層 10YR2/1 黒色土 火山灰 (に、AA' 覆和土 10YR5/4) 多量、浮石砂礫層。
  - 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム砂礫層、赤褐色土 (10YR2/3)、浮石砂礫。砂礫少量。
  - 第3層 10YR2/1 黒色土 炭燻灰土 (10YR5/2) 少量、黒褐色土 (10YR2/2) 炭燻。
  - 第4層 10YR2/1 黒色土 炭燻灰土 (10YR5/2) 砂礫付炭燻、浮石砂礫。
  - 第5層 10YR1/1 黒色土 火山灰 (To-a-4) 少量、炭燻灰土、砂礫付炭燻、浮石砂礫。
  - 第6層 10YR2/1 黒色土 浮石砂礫層。
  - 第7層 10YR2/1 黒色土 浮石・灰褐色土 (10YR6/2) 砂礫付炭燻。
  - 第8層 10YR5/6 褐色土 炭燻土 (10YR7/1) 付燻。
  - 第9層 10YR2/1 黒色土 炭燻土 (10YR2/1) 少量、炭燻物炭燻。
  - 第10層 7.5Y/5.0/6 赤褐色土 に、AA' 覆和土 (10YR4/3) 少量。
  - 第11層 10YR2/2 赤褐色土 浮石少量。
  - 第12層 10YR2/2 赤褐色土 必置層。
  - 第13層 7.5YR5/1 灰褐色土 草木灰燻。



第1号竪穴遺構出土遺物調査表

図形番号	層	土質	土種	土色	川土位置	LI	径	径	径	径	円形面積 (文様)	円形面積 (文様)	底面面積	厚	厚	数量	備考
1	1	土砂岩	砂	赤褐色	フク土	-	-	(2.3)	11.14	11.14	39	39				203	
2	2	土砂岩	砂	赤褐色	フク土	-	(6.0)	(1.5)	67	67	39	39	円形未定	内径			203
3	3	土砂岩	砂	赤褐色	フク土	-	(6.5)	3.14	117	117	377	377				1	鉛筆小径
4	4	土砂岩	砂	赤褐色	フク土	-	(7.8)	27.17	27.17	27.17	27.17					2	鉛・5.5cm 1/4 径

図34 第1号竪穴遺構



第2号竪穴遺構 (A A' B B' セクション)

- 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 B・Tm中量。
- 第2層 10Y R2/2 黒褐色土 H・Tm少量。
- 第3層 10Y R2/2 黒褐色土 H・Tm少量。
- 第4層 10Y R2/2 黒褐色土 B・Tm少量。
- 第5層 10Y H2/2 黒褐色土 B・Tm少量。
- 第6層 10Y H2/1 黒褐色土 ローム粒少量。
- 第7層 10Y H2/3 黒褐色砂層 B・Tm・砂少量、アワズナ中量。
- 第8層 10Y H2/2 黒褐色土 B・Tm多量。
- 第9層 10Y R2/2 黒褐色土 ローム粒中量、砂少量、アワズナ多量。
- 第10層 10Y R1/1 黒褐色土 砂少量。
- 第11層 10Y H2/1 黒褐色土 ローム粒少量、砂少量。
- 第12層 10Y R2/1 黒褐色土 ローム粒少量。
- 第13層 10Y R2/1 黒褐色土 ローム粒・アワズナ少量。
- 第14層 10Y R2/1 黒褐色土 ローム粒・火山灰 (Tn-a5) 散量。
- 第15層 10Y H2/2 黒褐色土 ローム粒・砂少量。
- 第16層 10Y R2/3 黒褐色土 ローム粒・砂少量、アワズナ中量。
- 第17層 10Y R2/2 黒褐色土 炭少量。
- 第18層 10Y R2/2 黒褐色土 炭少量。
- 第19層 10Y R2/2 黒褐色土 アワズナ中量。
- 第20層 10Y R2/2 黒褐色土 ローム粒少量。
- 第21層 10Y R2/2 黒褐色土 ローム粒微量。

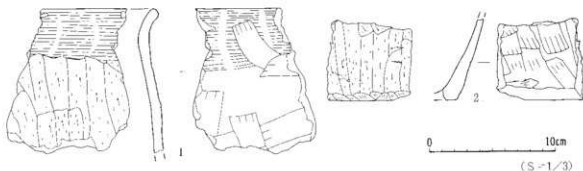
- 第22層 10Y R2/3 黒褐色土 ローム粒微量。
- 第23層 10Y R2/1 黒褐色土 ローム粒少量。
- 第24層 10Y R2/1 黒褐色土 砂・ローム粒少量。
- 第25層 10Y R5/6 黄褐色土 20層の砂少量。
- 第26層 10Y R2/2 黒褐色土
- 第27層 10Y R2/3 黒褐色土
- 第28層 10Y R2/2 黒褐色土 粘土層2部、ローム粒少量。
- 第29層 10Y R2/1 黒褐色土 ローム粒微量。
- 第30層 10Y H2/1 黒褐色土 ローム粒少量、L、B・アワズナ少量、丸石 (Tn-a5) 微量。
- 第31層 10Y R1/1 黄褐色土
- 第32層 5Y R4/4 灰褐色土
- 第33層 10Y H2/1 黒褐色土 火山灰 (Tn-a5)・アワズナ少量、ローム粒微量。
- 第34層 10Y R1/1 黒褐色土 ローム粒微量。

第2号竪穴遺構 Pit 1 (B B' セクション)

- 第1層 10Y H1/1 黒褐色土
- 第2層 10Y H4/4 褐色砂質土 L、B・ローム粒多量。
- 第3層 10Y R2/2 黒褐色土 L、B・ローム粒少量。

第2号竪穴遺構 Pit 2 (C C' セクション)

- 第1層 10Y R2/1 黒褐色土
- 第2層 10Y R4/4 褐色土 砂質土 L、B少量、ローム粒少量。



第2号竪穴遺構出土土物観察表

図号	層	土質	厚	色	位置	出土位置	口径	底径	高さ	高さ	内面調査(文様)	内面調査(文様)	断面調査	備	数量	整理番号
1	18層	埋	体	厚	土	平	埋			(11.6)	~1071, 2277	FF			3	
2	17層	埋	体	厚	土	平	埋			(6.5)	~1071	~1077			4	

図35 第2号竪穴遺構

## (4) 土坑 [図36]

本調査区域において検出された土坑は10基である。縄文時代の土坑3基を除いた7基の内、出土遺物及び火山灰の堆積状況から当該時期のものと思われる土坑は2基である。残る6基は時期不明であるが、本項で一括して、記述することとする。

## 第1号土坑 [図36]

[位置] J・K-18グリッドにまたがって位置している。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南北にやや長い円形を呈する。長軸124cm、短軸102cm、深さは21cmを測る。

[壁・底面] 床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は凹凸がある。

[堆積土] 黒色土を主体とし、5層に分層できた。堆積土上位に白頭山火山灰が、下位には炭化物の混入がみられた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[小結] 出土遺物から、平安時代の土坑であると思われる。

## 第2号土坑 [図36]

[位置] J-15グリッドに位置している。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸104cm、短軸95cmを測り、深さは8cmと浅い。

[壁・底面] 床面から緩やかに立ち上がり、床面は凹凸があって整えられていない。

[堆積土] 黒色土を主体とし、4層に分層できた。第1号土坑と同様、白頭山火山灰、炭化物の混入がみられた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] 内面が黒色処理された土師器環(1)、須恵器甕(2)の破片が出土している。

[小結] 出土遺物から、平安時代の土坑であると思われる。

## 第3号土坑 欠番。

## 第4号土坑 [図36]

[位置] W・X-23グリッドにまたがって位置している。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整な楕円形を呈する。長軸236cm、短軸191cmを測り、深さは53cmを測る。

[壁・底面] 北壁側はほぼ垂直に立ち上がるものの、南壁側は壁中位で大きく外反する。床面は貼り床を施して整えられている。

[堆積土] 12層に分層できた。黒色土を主体とし、堆積土全体に極少量ながら白頭山火山灰の混入がみられた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

〔小結〕火山灰の堆積状況から平安時代の土坑であると思われる。

#### 第5号土坑〔図36〕

〔位置〕X・Y-25・26グリッドにまたがって位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸149cm、短軸53cm、深さ48cmを測る。

〔壁・底面〕西壁側はほぼ垂直に立ち上がるものの、東壁側はやや角度が開く。床面は搦鉢状になっており、不明瞭である。

〔堆積土〕黒色砂質土を主体とし、6層に分層できた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

#### 第6号土坑〔図36〕

〔位置〕X-25グリッドに位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸75cm、短軸38cm、深さ30cmを測る。

〔壁・底面〕緩やかに外反しながら立ち上がる。床面は搦鉢状を呈し、不明瞭である。

〔堆積土〕黒褐色砂質土を主体とし、4層に分層できた。中興浮石を若干含む。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

#### 第7号土坑〔図36〕

〔位置〕U-23グリッドに位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕円形で、直径60cm、深さ20cmを測る。

〔壁・底面〕断面が皿状で壁、床面ともに、不明瞭である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、4層に分層できた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

#### 第8号土坑〔図36〕

〔位置〕W-25グリッドに位置している。

〔重複〕なし。

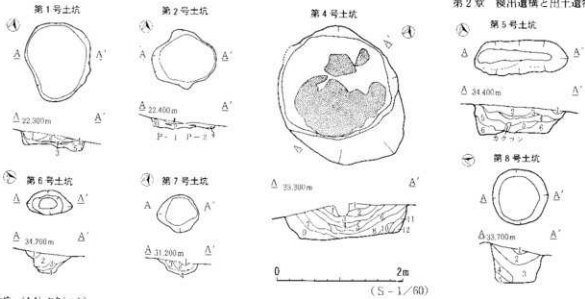
〔平面形・規模〕円形で、直径80cm、深さ52cmを測る。

〔壁・底面〕壁は床面からはほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦に整えられているが、締まりはない。

〔堆積土〕暗褐色土を主体とし、5層に分層できた。バミスの混入が見られる。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。





第1号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR2/1 赤色土
- 第2層 10YR2/1 赤色土
- 第3層 10YR1/7 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土
- 第5層 10YR2/1 赤色土

大がね跡々残存。  
 土山内跡々残存。  
 灰化跡々残存。  
 灰化跡々残存。  
 灰化跡々残存。

第2号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR2/1 赤色土
- 第2層 10YR2/1 赤色土
- 第3層 10YR2/1 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土

火山灰層少量。  
 火山灰層少量。炭化灰層少量。  
 土山内跡々残存。  
 灰化跡。

第4号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第2層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第3層 10YR1/7 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土
- 第5層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第6層 10YR1/7 赤色土
- 第7層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第8層 10YR1/7 赤色土
- 第9層 10YR2/1 赤色土
- 第10層 10YR1/7 赤色土
- 第11層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第12層 10YR2/2 赤褐色砂質土

10YR2/2 プロック状に含む。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。大破片。  
 アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。

第5号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第2層 10YR1/7 赤色土
- 第3層 10YR1/7 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土
- 第5層 10YR1/7 赤色土
- 第6層 10YR2/4 暗褐色砂質土

アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。

第6号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第2層 10YR1/7 赤色土
- 第3層 10YR2/2 赤褐色砂質土
- 第4層 10YR2/2 赤褐色砂質土

アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。

第7号土坑 (AA' セクション)

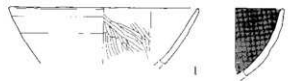
- 第1層 10YR2/1 赤色土
- 第2層 10YR2/1 赤色土
- 第3層 10YR2/1 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土

アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。

第8号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10YR1/7 赤色土
- 第2層 10YR2/1 赤色土
- 第3層 10YR1/7 赤色土
- 第4層 10YR2/1 赤色土
- 第5層 10YR1/7 赤色土

アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。  
 プラスチック。アワズナ少量。



(S=1/3) 0 10cm

第2号土坑出土遺物観察表

図録番号	形状	部	種類	部位	口内位置	口径	底径	高さ	出土状況(文様)	内部調整(文様)	底面調整	備	整理番号
1	十割型	14	鉄器	刀	フタ上	(15.6)	-	(4.8)	470	(St. A)	-	-	713
2	山形	14	陶器	アワズナ	フタ上	-	-	774	470	(St. A)	-	-	324

図36 土坑

(5) 土器埋設遺構 [図37~39]

本遺構は、土坑の底部から4個体の土器が倒立した状態で出土したことから、埋設遺構として取り扱うことにした。出土土器は須恵器の甕・壺及び土師器の壺である。

[位置・確認] P・Q-14のグリッドに位置し、本遺構から約2.5m西側には第8号竪穴住居跡が位置する。確認面はIV層上面である。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は東側が張り出した不整楕円形を呈し、規模は長軸約160cm、短軸約140cmで、確認面からの深さは33cmである。

[堆積土] 3層に分層できた。黒色土主体で、中礫浮石の混入がみられる。

[壁・底面] 第IV層を壁及び底面にしている。壁は緩やかに立ち上がり、底面西側には底面からの深さ5cmで断面が皿状のくぼみがあり、底面全体はくぼみに向かって傾斜している。

[出土土器] 須恵器の甕(1号甕)、広口壺(2号・4号壺)と土師器の短頸壺(3号壺)が出土した。これらは底面のくぼみの中から、4個体が接する状態で出土したものである。

1号甕は須恵器の甕である。底部が欠損しているが、残存部の形状から丸底を呈すると思われる。胴部上半が膨み、なで肩の器形である。外反する口縁部と平坦に整えられた口唇部を有する。胴部外面はタクメの上に横位の沈線が6条施され、胴部内面には放射状の当て具痕がみられる。胴部最大径は31cmあり、器高は34cmを越えると思われる。他の3個体より一回り大きい個体である。

2号・4号壺は須恵器の広口壺である。いずれも胴部上半に膨らみをもつが、2号壺は肩の張りが強く、4号壺はなで肩である。ともに外反する口縁部と平坦に整えられた口唇部を有する。外面はタクメの上にカキメ調整が、体部下半にはカキメ調整の上にケズリ調整が施されている。底部内面にはハケメ調整がみられる。

3号壺は土師器の短頸壺で、底部に付け高台風の高台がみられる。胴部中央部に膨らみをもち、ややなで肩をした器形である。外反する口縁部と丸みを帯びた口唇部を有する。外面はヘラミガキ調整が丁寧に施され、内外面ともに黒色処理されている。

土器の内部には土が入っていた。2号壺は壺の中全体に、また、3号壺は体部中央付近まで、4号壺は口縁部までである。壺の中の土壌中には、遺物や骨粉と思われるものはなかった。

[小結] 4個体の土器が倒立した状態で埋設された遺構及び内外面が黒色処理された土師器は、本県では初めての検出・出土である。

(出土土器の類例資料)

1号甕は放射状の当て具痕が特徴であるが、類例は不明である。胎土の蛍光X線分析を行った結果、五所川原窯跡群以外で生産されたものであることが分かっている。

内外面が黒色処理された3号壺は、余市郡余市町大川遺跡、千歳市美々8遺跡、久慈市鼻館跡(F3-1住居跡)で類例がみられる。これらは器形や法量には差異がみられるものの、器表面全体に丁寧なヘラミガキが施されていることや、胎土が密で白色粒子の混入がみられるといった共通点があげられる。秋田県五城目町雀館古代井戸跡からも口の狭い壺が出土している。

2号・4号壺は、横手市富ヶ沢窯跡（秋田県教育委員会：1992）に類似資料がみられる。

（遺構の性格について）

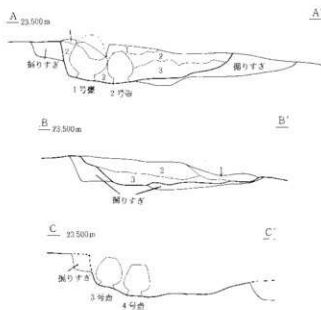
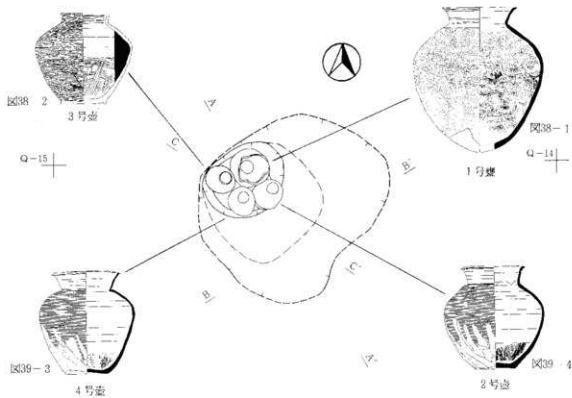
埋設遺構には袍衣容器を埋納した袍衣処理施設（袍衣壺）・骨蔵器を埋納した埋葬施設（火葬墓）・地鎮めの鎮物を埋納した祭祀施設（地鎮遺構）といった性格が考えられるが、本遺構のように埋設された土器が4個体であったり、埋設された土器の器種や器形、分量、器表面の色調に統一性のない類別はほかにみられない。

2号壺中に入っていた土壌のリン酸と脂肪酸の分析結果からは、袍衣壺や火葬墓と推定する積極的な資料は得ることはできなかったため、現段階では遺構の性格は不明といわざるをえない。

本遺構で行った胎土分析とリン酸・脂肪酸分析の結果は、第4章に掲載している。

（遺構の構築年代について）

2号・4号壺に類似した富ヶ沢窯跡産出の試料は9世紀中葉の年代が考えられていることから、この遺構の構築年代もそれに近い年代が推測される。これは、本遺跡の竪穴住居跡の構築年代とはほぼ同時期であり、両者は同時存在していた可能性がある。



土器埋設遺構 (A-A' B-B' セクション)

- 第1層 10YR2/1 褐色土 砂質土。
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 アラスカ小豆、浮石粉散在、ローム粒ごく微量。
- 第3層 10Y2/1 黒色土 アリスナ少量。

(S-1/30) 0 1m

図37 土器埋設遺構(1)

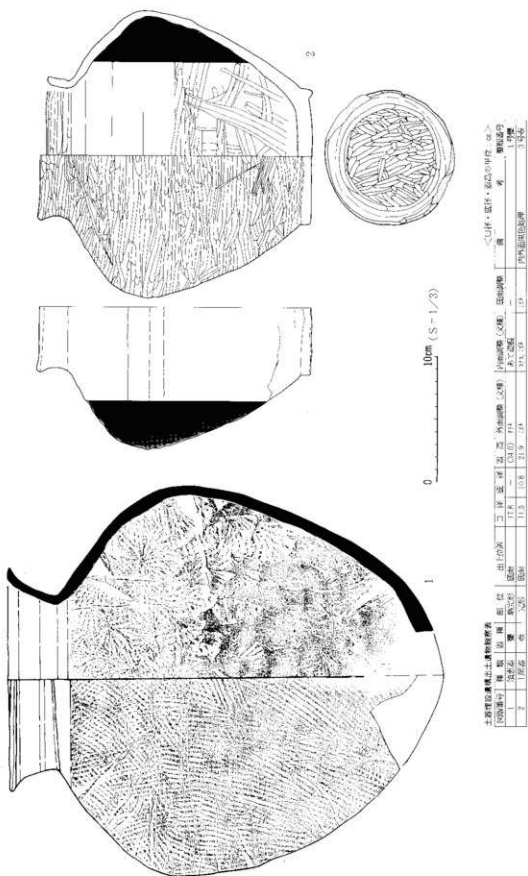


図38 土器埋設遺構(2)

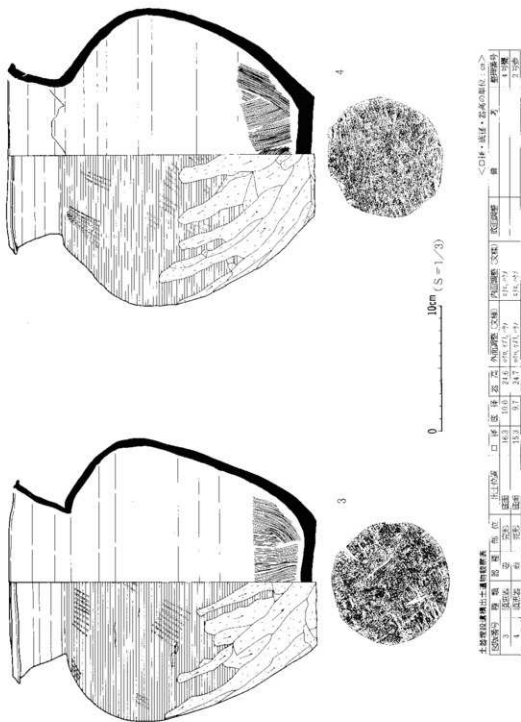


図39 土器埋設遺構(3)

## 第2節 縄文時代の遺構と出土遺物

### (1) 遺構の配置 [図40]

平安時代の遺構精査後、地山層（基本土層の第Ⅶ層上面）で遺構を確認した。検出遺構は土坑3基と溝状ピット24基で、北区延伸部分の急斜面から検出された2基の溝状ピット以外は、中区以南の緩斜面から集中して検出された。

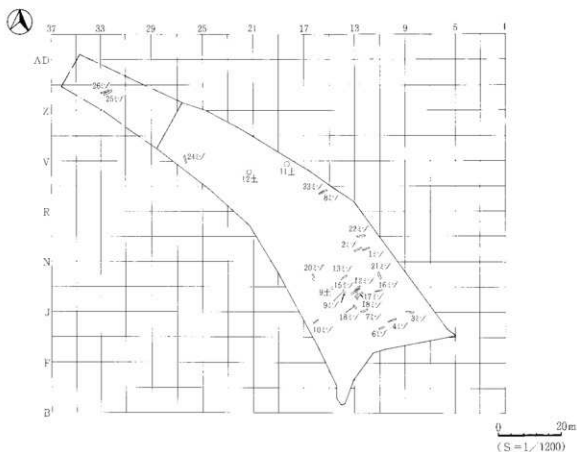


図40 遺構配置図（縄文時代）

### (2) 土坑 [図41]

本調査区域において検出された土坑10基の内、当該時期のものと思われる土坑は3基である。以下、個々の土坑について記述していく。

#### 第9号土坑 [図41]

〔位置〕 K-14グリッドに位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕南北にやや長い円形を呈し、直径123cm、深さ116cmを測る。

〔壁・底面〕壁は床面からやや外反しながら直線的に立ち上がり、床面は平坦に整えられている。床面中央やや東よりに逆茂木の跡と思われる小穴が2個検出された。小穴の直径はいずれも5cm、深さは25cmと30cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、10層に分層できた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔小結〕逆茂木痕と思われる小穴を有することから、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第10号土坑 欠番。

#### 第11号土坑〔図41〕

〔位置〕U-18グリッドに位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈しており、開口部で径190cm、底部で径218cm、確認面からの深さ49cmを測る。

〔壁・底面〕壁は括れを有するフラスコ状を呈し、床面は平坦に整えられている。

〔堆積土〕黒色土を主体とし、9層に分層できた。1層のローム塊は確認面全体をほぼ覆うように堆積し、堅く締まっており、地山ロームと同一の色調及び特徴を示していることから、人為的に埋め戻された可能性が高い。

〔出土遺物〕1層直下から縄文時代後期後葉の十腰内IV式に比定される壺形土器(1)が出土している。口頸部は直立的で、胴部は球状である。外面は無文で、丁寧なミガキ調整が縦方向に施されている。

〔小結〕壺形土器の出土と覆土の堆積状況から、縄文時代後期のフラスコ状土坑である可能性が高い。

#### 第12号土坑〔図41〕

〔位置〕T・U-21グリッドにまたがって位置している。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕南北にやや長い円形を呈し、直径160cm、確認面からの深さ114cmを測る。

〔壁・底面〕壁は床面からやや外反しながら直線的に立ち上がり、床面は平坦に整えられている。床面中央やや南よりに逆茂木の跡と思われる小穴が4個検出された。小穴の径は5～7cm、深さは10cm～15cmを測る。

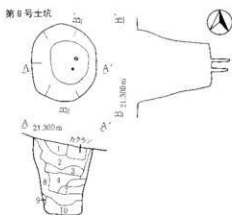
〔堆積土〕黒色土を主体とし、6層に分層できた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔小結〕逆茂木の跡と思われる小穴を有することから、縄文時代の陥し穴であると思われる。

(奈良岡 淳)

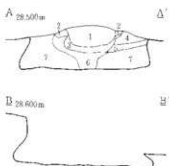
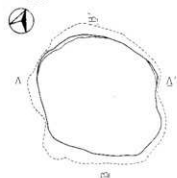




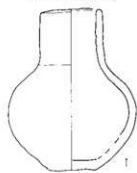
## 第9号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10Y H2/2 黒褐色土 浮石1個、ローム粒微量。  
 第2層 10Y H2/2 黒褐色土 浮石中量、ローム粒少量。  
 第3層 10Y H2/2 黒褐色土 浮石微量、ローム粒少量。  
 第4層 10Y R2/2 黒褐色土 浮石1個、L、R中量。  
 第5層 10Y H1/6 黒色土 浮石2個、黒褐色土 (10Y H2/2)との混合土、ローム質土。  
 第6層 10Y H2/3 黒褐色土 浮石1個、ローム粒少量。  
 第7層 10Y H2/3 黒褐色土 浮石微量、黒褐色土 (10Y H3/4)との混合土、褐色土 (10Y H4)少量。  
 第8層 10Y H4/6 褐色土 浮石微量、黒褐色土 (10Y H2/2)との混合土、ローム質土。  
 第9層 10Y R4/6 褐色土 黒褐色土 (10Y R2/2)少量、ローム質土。  
 第10層 10Y H2/1 黒色土 8層との境界にローム (10Y H4/6) 中量混入。

## 第11号土坑

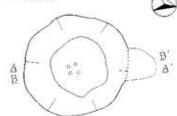


## 第11号土坑出土遺物



(S=1/3)

## 第12号土坑

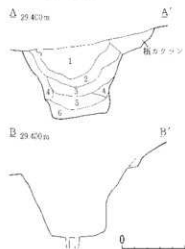


## 第12号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10Y H6/8 黒褐色土 ローム中量、バリス・アワズナ多量。  
 第2層 10Y R2/2 黒褐色土 アワズナ多量。  
 第3層 10Y H3/4 黒褐色土 1層の上小量混入、バリス中量。  
 第4層 10Y H2/1 黒色土 アワズナ多量。  
 第5層 10Y H1/7/1 黒色土上層 黒褐色土 (10Y R3/4)中量。  
 第6層 10Y R2/2 黒褐色土 4層との境界にアワズナ多量、バリス少量。  
 第7層 10Y H1/7/1 黒色土 アワズナ多量、バリス1個。

## 第12号土坑 (AA' セクション)

- 第1層 10Y H1/7/1 黒色土 浮石多量。  
 第2層 10Y H2/1 黒色土 浮石少量、黒褐色土 (10Y H2/3)・黒褐色土 (10Y H3/4)アワズナに混入。  
 第3層 10Y H1/7/1 黒色土 ローム混入、4層との境界にアワズナに混入。  
 第4層 10Y H5/8 黒褐色土 黒褐色土 (10Y H2/2)との混合土、第9号土坑土質に類似。  
 第5層 10Y R2/2 黒褐色土 ローム多量、浮石微量。  
 第6層 10Y H2/2 黒褐色土 5層の上との混合土。



0 2m (S=1/60)

## 第11号土坑出土遺物観察表

採取箇所	種類	形状	材料	出土深さ	口径	底径	高さ	文	種	備考	分類	整理番号
1	縄文土器	壺形	灰砂・アワズナ		5.0	3.6	12.0	動物			ii	411

&lt;口径・底径・高さの単位: cm&gt;

図41 土坑

### (3) 溝状ピット

#### 第1号溝状ピット [図42]

[位置] N・O-11・12グリッドにまたがって位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は溝状を呈し、開口部では長軸380cm、短軸50cm、底部では長軸340cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは70cmである。

[壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、開口部付近でやや開く。底面は若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。東壁側で一段高くなる。

[堆積土] 黒色土を主体とし、6層に分層できた。中礫浮石の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] なし。

[小結] 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第2号溝状ピット [図42]

[位置] N-12・13グリッドにまたがって位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は両端が丸みを帯びた溝状を呈し、開口部では長軸390cm、短軸50cm、底部では長軸350cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは55cmと浅い。

[壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、開口部付近でやや開く。底面は若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層できた。黒色土を主体とし、堆積土全体に中礫浮石の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] なし。

[小結] 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第3号溝状ピット [図42]

[位置] J-8グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は中央部分が窄み、両端が膨らむダンベル状を呈する。開口部では長軸360cm、短軸45cm、底部では長軸300cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは浅いところで65cm、深いところで106cmを測る。

[壁・底面] 壁は垂直に立ち上がる。底面は中央部やや東寄りを頂部に両端に向かって傾斜している。

[堆積土] 5層に分層できた。黒褐色土を主体とし、堆積土全体に中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

[出土遺物] なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第4号溝状ピット〔図42〕

〔位置〕J-9・10グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は溝状を呈し、開口部では長軸372cm、短軸60cm、底部では長軸352cm、短軸14cmを測る。確認面からの深さは85cmと浅い。

〔壁・底面〕壁は垂直に立ち上がる。底面は若干凹凸が見られる。

〔堆積土〕4層に分層できた。黒色土を主体とし、中礫浮石の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第6号溝状ピット〔図42〕

〔位置〕K-10・11グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕両端が丸みを帯びた溝状を呈する。開口部では、長軸280cm、短軸60cm、底面では長軸300cm、短軸15cmを測る。確認面からの深さは135cmである。

〔壁・底面〕壁は、南西壁は垂直に立ち上がるが、北東壁は開口部付近で括れるフラスコ状を呈する。底面は若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒色土～黒褐色土を主体とし、12層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

#### 第7号溝状ピット〔図43〕

〔位置〕J-11・12グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は両端でやや膨らむダンベル状を呈する。開口部では長軸350cm、短軸70cmを、また底部では長軸432cm、短軸10cmを測る。確認面での深さは94cmである。

〔壁・底面〕長軸側の断面の東端部では底面から垂直に立ちあがるものの、西端部では中端付近で括れるフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕13層に分層できた。黒褐色土～黒褐色土を主体とし、中礫浮石、ローム粒の混入も見られた。土層観察から人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第8号溝状ピット〔図43〕

〔位置〕S-15グリッドに位置する。

〔重複〕第23号溝状ピットと重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕溝状を呈する。開口部では長軸370cm、短軸40cm、底面では長軸400cm、短軸10cmを測る。

〔壁・底面〕壁は、北西壁は垂直に立ち上がるが、南東壁は開口部付近で括れるフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒色土を主体とし、5層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第9号溝状ピット〔図43〕

〔位置〕J-13・14、K-13グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕第15号溝状ピットと重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕溝状を呈し、開口部では長軸380cm、短軸20cm、底面では長軸375cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは65cmである。

〔壁・底面〕壁は、開口部付近で括れるフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒色土を主体とし、4層に分層できた。ローム粒の混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第10号溝状ピット〔図44〕

〔位置〕I-15・16グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕両端がやや膨らむ溝状を呈する。後世の攪乱を受けて東端部が遺存していないため正確な規模は分からないが、開口部では長軸が推定270cm、短軸50cm、底面で長軸250cm、短軸15cmである。確認面からの深さは90cmを測る。

〔壁・底面〕壁は、両端とも垂直に立ち上がり、底面は若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒色土を主体とし、6層に分層できた。アワズナの混入が見られた。土層観察から自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第12号溝状ピット〔図44〕

〔位置〕 K-12・13グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 中央部がやや括れる溝状を呈し、開口部では長軸360cm、短軸35cm、底面では長軸370cm、短軸15cmを測る。確認面からの深さは90cmである。

〔壁・底面〕 壁は東壁面中端付近が大きく膨らむフラスコ状を呈し、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土～黒褐色土を主体とし、8層に分層できた。中微浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、下位は人為堆積、上位は自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第13号溝状ピット〔図45〕

〔位置〕 L-13・14グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 両端部が窄まる溝状を呈し、開口部では長軸320cm、短軸55cm、底面では長軸300cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは110cmである。

〔壁・底面〕 壁は凹凸を有しながらもほぼ直線的に立ち上がり、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土～黄褐色ロームを主体とし、8層に分層できた。中微浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第14号溝状ピット〔図44〕

〔位置〕 K-12・13グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 第18号溝状ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 西端部が大きく膨らむ溝状を呈し、開口部では長軸355cm、短軸60cm、底面では長軸375cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは120cmである。

〔壁・底面〕 壁はフラスコ状に内傾しながらもほぼ垂直に立ち上がる。底面は中央部がやや盛り上がり、両端部に向かって緩やかに傾く。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、9層に分層できた。中微浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、下位は人為堆積、上位は自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 縄文時代の鉢形土器の破片が堆積土上位から出土しているが、小破片のため時期及び形式は不明である。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第15号溝状ピット [図43]

〔位置〕 K・L-11・12グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸270cm、短軸60cm、底面では長軸270cm、短軸25cmを測る。確認面からの深さは100cmである。

〔壁・底面〕 壁は両端部の壁面中端付近が大きく膨らむフラスコ状を呈し、底面は南端部から北端部に向かって傾斜している。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とし、14層に分層できた。浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第16号溝状ピット [図45]

〔位置〕 K-11・12グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸410cm、短軸40cm、底面では長軸415cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは100cmである。

〔壁・底面〕 壁は、西壁は底面から垂直に立ちあがるもの、東壁は底面から内傾しながら立ち上がるフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、7層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 堆積土上位から平安時代の土師器甕の口縁部破片が出土しているが、堆積途中の流れ込みによるものと思われる。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第17号溝状ピット [図44]

〔位置〕 J・K-12グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 第18号溝状ピットと重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸370cm、短軸60cm、底面では長軸360cm、短軸15cmを測る。確認面からの深さは120cmである。

〔壁・底面〕 壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土とロームの混合土を主体とし、7層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 縄文時代の鉢形土器胴部の小破片が出土しているが、堆積土中位からの出土であることから供伴する遺物であるかどうかは不明である。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第18号溝状ピット〔図44〕

〔位置〕 J・K-12グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 第14号溝状ピット、第17号溝状ピットと重複している。第14号溝状ピットとの新旧関係は不明であるが、第17号溝状ピットに対しては本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 北端部分で第14号溝状ピットと重複しているためピット全体の形状は不明であるが、ほぼ溝状を呈するものと思われる。遺存する部分の規模は、開口部では長軸320cm、短軸60cm、底面では長軸330cm、短軸25cmを測る。確認面からの深さは100cmである。

〔壁・底面〕 遺存する南壁はフラスコ状を呈し、底面は平坦で、やや南傾している。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、7層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第19号溝状ピット〔図45〕

〔位置〕 J-12・13グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 中央部がやや括れ両端部が膨らむダンベル状を呈する。開口部では長軸280cm、短軸65cm、底面では長軸410cm、短軸15cmを測る。確認面からの深さは155cmである。

〔壁・底面〕 壁はフラスコ状を呈し、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土～黒褐色土を主体とし、9層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第20号溝状ピット〔図45〕

〔位置〕 L・M-16グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸305cm、短軸50cm、底面では長軸360cm、短軸20cmを測る。確認面からの深さは140cmと深い。

〔壁・底面〕 壁は不整なフラスコ状を呈し、底面は中央部に向かって両端から傾斜している。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、8層に分層できた。中礫浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第21号溝状ピット〔図45〕

〔位置〕 L-10・11、M-11グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸305cm、短軸90cm、底面では長軸320cm、短軸20cmを測る。確認面からの深さは130cmと深い。

〔壁・底面〕 壁はフラスコ状を呈し、底面は中央部がやや窪む。

〔堆積土〕 黒色土とロームの混合土を主体とし、10層に分層できた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第22号溝状ピット〔図46〕

〔位置〕 O-12グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 西端部が急激に窄まる不整な溝状を呈し、開口部では長軸385cm、短軸65cm、底面では長軸375cm、短軸15cmを測る。確認面からの深さは135cmである。

〔壁・底面〕 東壁面は垂直に立ちあがるものの、西壁はフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、4層に分層できた。中振浮石の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

第23号溝状ピット〔図43〕

〔位置〕 S-15グリッドに位置する。

〔重複〕 第8号溝状ピットと重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸260cmを測り、短軸は東壁側で第8号溝状ピットと重複しているため遺存していないが、30cmほどになるものと思われる。底面では長軸250cm、短軸5cmである。確認面からの深さは115cmを測る。

〔壁・底面〕 壁は中端付近がやや膨らむがほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とし、5層に分層できた。中振浮石、ローム粒の混入が見られた。土層観察から、人為堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。



## 第24号溝状ピット〔図46〕

〔位置〕 U・V-26グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 第5号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 南端部分が第5号竪穴住居跡と重複しているため本遺構の全体は不明であるが、両端部に比べ中央部が膨らむ溝状を呈するものと思われる。開口部では長軸360cm、短軸65cm、底面では長軸360cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは135cmと深い。

〔壁・底面〕 遺存する北壁は底面から内湾しながら立ち上がるフラスコ状を呈し、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、10層に分層できた。中掘浮石、南部浮石の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第25号溝状ピット〔図46〕

〔位置〕 AA-31・32グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸405cm、短軸70cm、底面では長軸375cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは135cmである。

〔壁・底面〕 壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、5層に分層できた。中掘浮石、南部浮石の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

## 第26号溝状ピット〔図46〕

〔位置〕 AA-31・32グリッドにまたがって位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状を呈し、開口部では長軸370cm、短軸45cm、底面では長軸385cm、短軸10cmを測る。確認面からの深さは130cmと深い。

〔壁・底面〕 南西壁はほぼ垂直に、北東壁はフラスコ状に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色土を主体とし、4層に分層できた。中掘浮石、南部浮石の混入が見られた。土層観察から、自然堆積であると思われる。

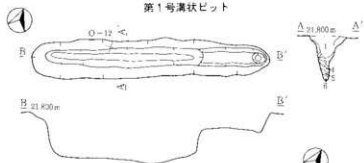
〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 形状から、縄文時代の陥し穴であると思われる。

\*第5号溝状ピット、第11号溝状ピットは欠番である。

(奈良岡 淳)

第1号溝状ピット



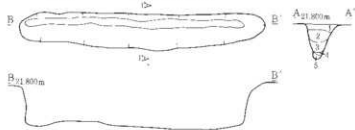
第1号溝状ピット (AA' セクション)

第1層	10YR2/1	黒色土	浮石少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	浮石少量
第3層	10YR2/1	黒色土	浮石微量
第4層	10YR2/1	黒色土	浮石微量
第5層	10YR2/1	黒色土	浮石中量、礫石含む
第6層	10YR2/2	黒褐色土	

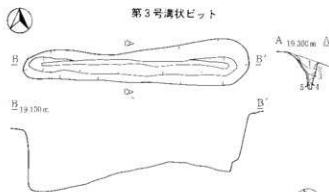
第2号溝状ピット (AA' セクション)

第1層	10YR1.7/1	黒色土	浮石微量
第2層	10YR1.7/1	黒色土	浮石少量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	浮石微量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	浮石中微量
第5層	10YR2/1	黒色土	浮石微量

第2号溝状ピット



第3号溝状ピット



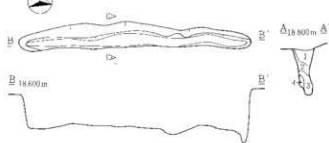
第3号溝状ピット (AA' セクション)

第1層	10YR1.7/1	黒色土	アツテナ少量、ローム粒微量、砂質土
第2層	10YR2/2	黒褐色土	黒褐色土 (10YR4/6)、アツテナ少量、砂質土
第3層	10YR2/2	黒褐色土	浮石微量、ローム質土
第4層	10YR2/2	黒褐色土	黒褐色土 (10YR2/2) との混合土、砂質土
第5層	10YR4/4	褐色土	浮石微量、ローム質土

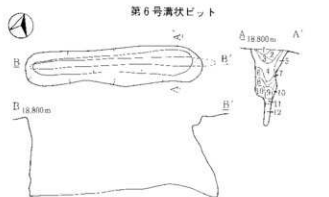
第4号溝状ピット (AA' セクション)

第1層	10YR1.7/1	黒色土	アツテナ少量、砂質土
第2層	10YR2/1	黒色土	アツテナ・浮石少量、砂質土、鉄分の沈着多い
第3層	10YR1.7/1	黒色土	アツテナ中量、ローム粒微量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	浮石少量

第4号溝状ピット



第6号溝状ピット



第6号溝状ピット (AA' セクション)

第1層	10YR2/2	黒褐色土	アツテナ少量、砂中量
第2層	10YR1.7/1	黒色土	アツテナ微量、浮石少量
第3層	10YR1.7/1	黒色土	アツテナ少量、浮石中量
第4層	10YR1/1	褐色土	アツテナ・浮石少量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	アツテナ少量、浮石多量
第6層	10YR2/1	黒色土	
第7層	10YR2/1	黒色土	ローム粒微量
第8層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒少量
第9層	10YR3/4	褐色土	ローム粒少量
第10層	10YR4/4	褐色土	3層の土少量
第11層	10YR3/4	褐色土	ローム粒少量
第12層	10YR4/6	褐色土	11層の上を覆



図42 溝状ピット (1)

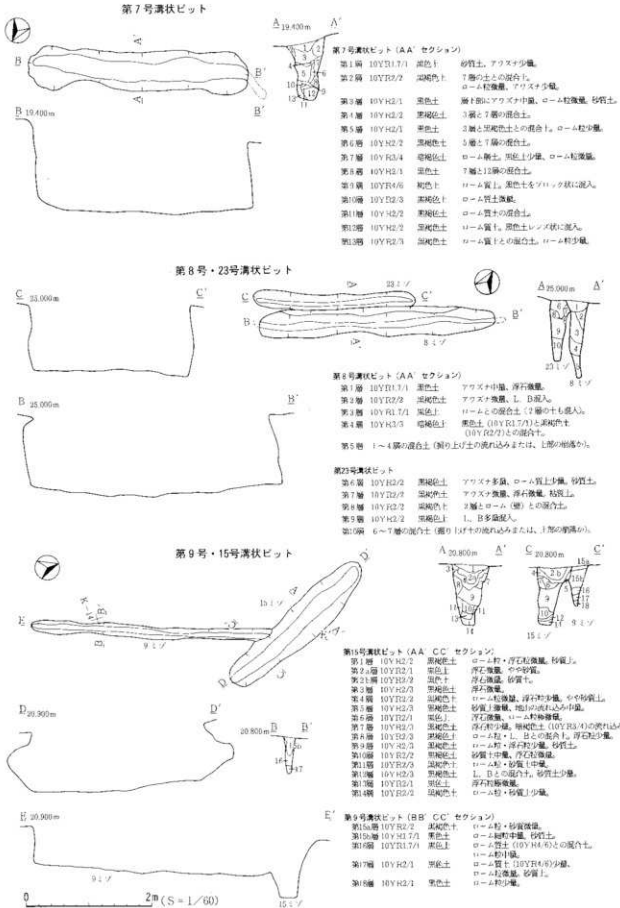
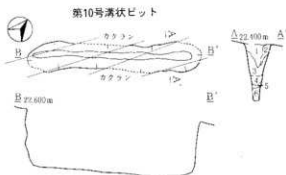


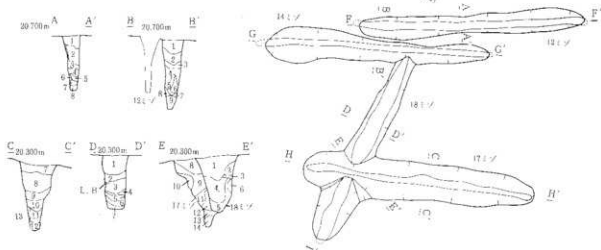
図43 溝状ピット(2)



第10号溝状ピット (AA' セクション)

- |     |           |     |                  |
|-----|-----------|-----|------------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | アワズ+磁器。          |
| 第2層 | 10YR2.1   | 赤色土 | アワズ+磁器。          |
| 第3層 | 10YR2/1   | 赤色土 | 硝化土 (10YR3/3)少量。 |
| 第4層 | 10YH1.7/1 | 赤色土 | 硝化土 (10YR3/3)少量。 |
| 第5層 | 10YH2/1   | 赤色土 | 硝化土 (10YR4/5)少量。 |
| 第6層 | 10YH2/1   | 赤色土 | 硝化土 (10YR4/5)少量。 |

第12号・第14号・第17号・第18号溝状ピット



第12号溝状ピット (AA' セクション)

- |     |           |      |                     |
|-----|-----------|------|---------------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 赤色土  | アワズ多量、浮石少量。         |
| 第2層 | 10YH2.1   | 赤色土  | アワズ少量。              |
| 第3層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | 硝化土 (10YH4/4)との混合土。 |
| 第4層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | ローム塊 (少量)、ローム質土混入。  |
| 第5層 | 10YR2.2   | 赤褐色土 | 4層よりローム質土の割合率高い。    |
| 第6層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | 5層よりローム質土の割合率高い。    |
| 第7層 | 10YR2/1   | 赤色土  | 硝化土 (10YR1.0)を中に混入。 |
| 第8層 | 10YH2/1   | 赤色土  | 硝化土 (10YR3.5)との混合土。 |

第14号溝状ピット (BB' セクション)

- |     |           |      |                                  |
|-----|-----------|------|----------------------------------|
| 第1層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | アワズ多量。                           |
| 第2層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | 硝化土 (10YH2.0)をブロック状に混入。          |
| 第3層 | 10YH3.4   | 硝化土  | 浮石少量。                            |
| 第4層 | 10YR1.7/1 | 赤色土  | 硝化土の上に2層の土を少量ブロック状に混入。           |
| 第5層 | 10YR3.4   | 硝化土  | ローム質土 (少量)、硝化土、砂質土。              |
| 第6層 | 10YR3.8   | 硝化土  | 層上側に硝化土 (10YH2.0)をブロック状に混入。浮石少量。 |
| 第7層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | 浮石少量。                            |
| 第8層 | 10YH5.8   | 赤褐色土 | 5層の土を多量に混入。砂質土。                  |
| 第9層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | 8層との混合土。硝化土とロームの混層。              |

第18号溝状ピット (DD' E'E' セクション)

- |     |           |      |                                      |
|-----|-----------|------|--------------------------------------|
| 第1層 | 10YH2.1   | 赤色土  | アワズ多量、硝化土少量、硝化土土 (10YH2.0)をブロック状に混入。 |
| 第2層 | 10YH2/1   | 赤色土  | アワズ多量、硝化土土 (10YH2.0)をブロック状に混入。       |
| 第3層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | アワズ+ローム少量、硝化土少量。                     |
| 第4層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | アワズ多量。                               |
| 第5層 | 10YH5.8   | 赤褐色土 | ローム塊。                                |
| 第6層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | 砂質土。                                 |

第17号溝状ピット (CC' E'E' セクション)

- |     |           |      |              |
|-----|-----------|------|--------------|
| 第1層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | アワズ多量、硝化土少量。 |
| 第2層 | 10YH2/1   | 赤色土  | 硝化土。         |
| 第3層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | 硝化土。         |
| 第4層 | 10YH1.7/1 | 赤色土  | ロームとの混合土。    |
| 第5層 | 10YH2.2   | 赤褐色土 | ロームとの混合土。    |

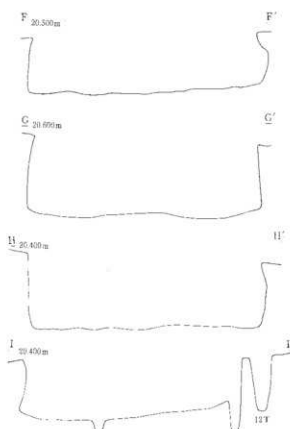


図44 溝状ピット (3)

0 2m  
(S=1/60)

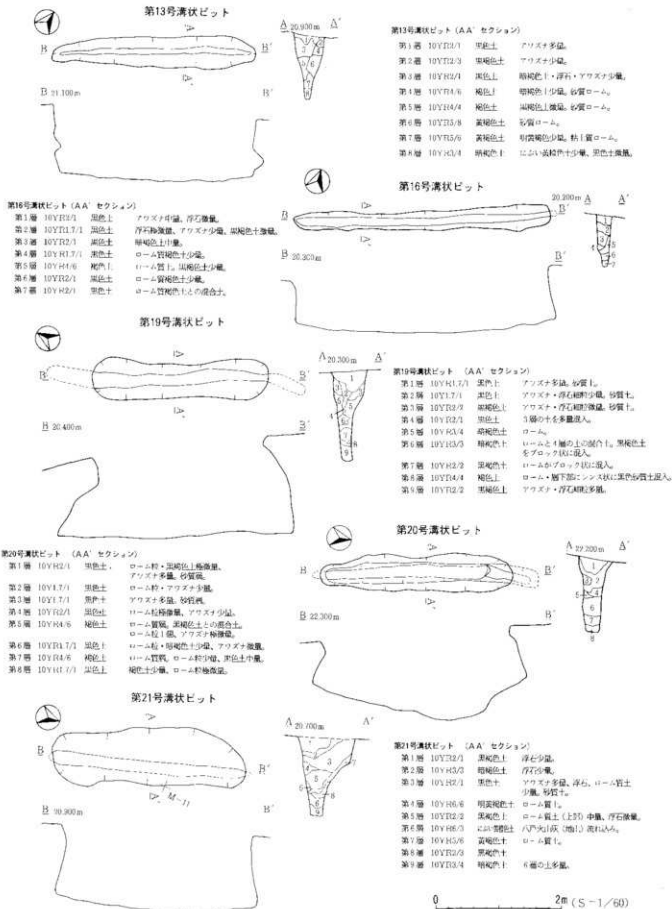
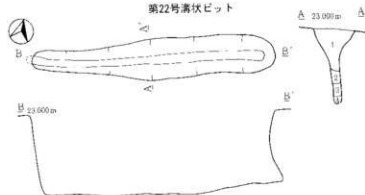


図45 溝状ピット(4)

長谷遺跡

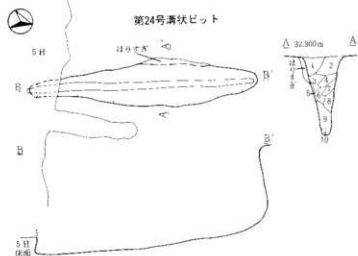
第22号溝状ピット



第22号溝状ピット (A-A' セクション)

- |     |         |      |                 |
|-----|---------|------|-----------------|
| 第1層 | 10YD2/1 | 黒色土  | アワズト中量、浮石少量     |
| 第2層 | 10YD2/1 | 黒色土  | アワズト少量、炭い       |
| 第3層 | 10YD2/1 | 黒色土  | アワズト少量、砂質土      |
| 第4層 | 10YD2/2 | 黒褐色土 | 砂質土、アワズト多量、大木炭い |

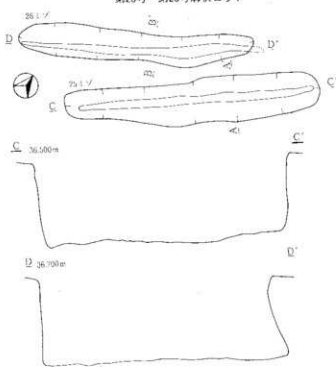
第24号溝状ピット



第24号溝状ピット (A-A' セクション)

- |      |           |      |                                     |
|------|-----------|------|-------------------------------------|
| 第1層  | 10YR1.7/1 | 赤色土  | アワズト中量、ローム・浮石少量、砂質土                 |
| 第2層  | 10YR2/2   | 黒褐色土 | アワズト中量、浮石少量、砂質土                     |
| 第3層  | 10YR1.7/1 | 赤色土  | アワズト少量、浮石少量、砂質土                     |
| 第4層  | 10YR3/3   | 黒褐色土 | 浮石中量                                |
| 第5層  | 10YR1.7/1 | 赤色土  | 黒褐色ローム(10YR1.7/1)、炭褐色ローム(10YR5/8)少量 |
| 第6層  | 10YR1.7/1 | 赤色土  | アワズト、浮石(20-30mm)少量、砂質土              |
| 第7層  | 10YR5/8   | 黒褐色土 | ローム質土、赤色土(10YR1.7/1)中量、壁の形成土か       |
| 第8層  | 10YR5/8   | 黒褐色土 | ローム質土、壁の形成土か                        |
| 第9層  | 10YR1.7/1 | 赤色土  | 炭褐色ローム(10YR5/8)少量                   |
| 第10層 | 10YR1.7/1 | 赤色土  | 炭褐色ローム(10YR5/8)中量                   |

第25号・第26号溝状ピット



第25号溝状ピット (A-A' セクション)

- |     |           |     |               |
|-----|-----------|-----|---------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | アワズト中量、ゴロツク少量 |
| 第2層 | 10YR2/1   | 黒色土 | アワズト中量、ゴロツク少量 |
| 第3層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | アワズト中量、赤土にもろい |
| 第4層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | 壁の形成土か、ゴロツク少量 |
| 第5層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | 壁の形成土か、ゴロツク少量 |

第26号溝状ピット (B-B' セクション)

- |     |           |     |               |
|-----|-----------|-----|---------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | アワズト中量、ゴロツク少量 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 | アワズト少量、ゴロツク少量 |
| 第3層 | 10YR2/1   | 黒色土 | アワズト少量        |
| 第4層 | 10YR1.7/1 | 赤色土 |               |



図46 溝状ピット(5)

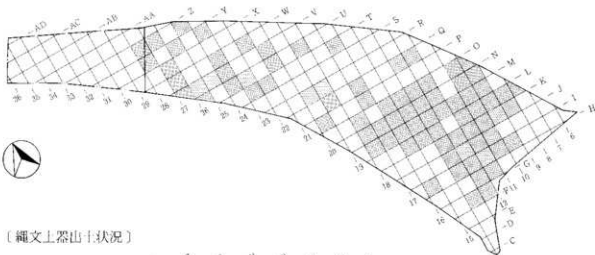
## 第3章 遺構外出土遺物

遺構外からは、土師器、須恵器、縄文土器、羽口、石器、鉄滓などダンボール箱で6箱分の遺物が出土した。図示した他はいずれも小破片であるため、出土状況のみ分布図として下図に示した。

### 第1節 平安時代の遺物 [図48]

遺構確認のための粗掘りの段階でⅡ～Ⅲ層から出土した遺物を一括した。土師器、須恵器、羽口、砥石、鉄滓が出土しているが、出土地点が住居域及びその下方に位置していることから、住居域からの流れ込みであると思われる。

[土師器・須恵器出土状況]



[縄文土器出土状況]

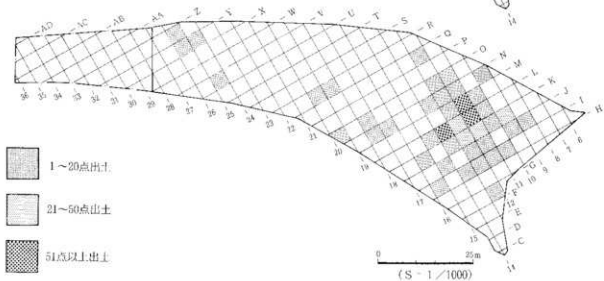


図47 遺物出土状況 (遺構外)

## 1 土器

### 土師器

坏、甕が出土している。

坏はロクロ成形されたもの（3、4、7、8、9）とされていないもの（1、2）とがある。1は底部から膨らみを持ちながら立ち上がり、底径に対して器高が高い。2は内外面ともにヘラミガキ調整が施され、1は内面が黒色処理されている。

甕は頸部外面に段を持ち、口縁部が「くの字」状に外反する器形を呈するもの（6）や、底部が台状に突き出るもの（5）がある。

### 須恵器

坏、壺、甕が出土している。

11はロクロ成形された坏で、器表面が灰白色を呈する。底部に低い台が付けられ、胴部は膨らみを持たずに直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反する。10は完形の短頸壺で、肩部外面、口縁部、底部内面に強い自然軸が掛かっている。口唇部は鋭角的に削られている。12は長頸壺の頸部で、10と同様強い自然軸が残る。13～16は甕ないしは大甕の胴部片で、外面にタキ目の痕跡を残す。16は内面にハケ調整が施こされている。

## 2 石器

砥石が1点（37）出土している。2面を使用しており、石質は凝灰岩である。

## 第2節 縄文時代の遺物 [図49・50]

### 1 土器

土器は、時期及び施文文様から、大まかにⅠ～Ⅲの3群に分けることができた。器形の分かるものについては、器形ごとにその特徴を記述する。

#### 第Ⅰ群土器（17）

縄文時代早期の土器であると思われる尖底土器で、底部片1点のみの出土である。胎土に若干植物繊維を混入する。地文縄文は単節のL・R斜縄文で、内面縄文の有無は確認できなかった。縄文時代早期後葉の赤御堂式に比定される可能性がある。

#### 第Ⅱ群土器（19～25）

縄文時代後期後葉の十腰内Ⅳ式～Ⅴ式に比定される土器で、出土した縄文土器の中では最も数量が多い。深鉢形（19～24）、台付鉢形（25）がある。貼瘤を有する土器（19～21、24）もみられるが、ここでは、破片資料が多く全体の分かるものが少ないことから、貼瘤の有無による分類は行なわなかった。

19は、平縁で口唇部に2個1対の小突起を有する。口縁部が内湾しながら大きく開き、胴部上半が括れている。文様は、口縁部に帯状の磨消縄文が施される。地文は、単節のL・R斜縄文の2種類の原体を交互に押捺する羽状縄文が施文されている。

20は比較的大型の深鉢形土器で、口唇部には大小の山形突起が約9cmの間隔を置いて3ヶ所付されている。文様は、地文施文後に沈線で入組帯状文を描き、交互に磨消縄文を施文している。地文は、単節のL・R斜縄文が施されている。内面は横方向に磨きかけられている。



22は平縁で、口縁部が直立的で胴部は球状である。文様は、口縁部に帯状の磨消縄文が施されている。地文は、単節のLR斜縄文で、胴部中央に部分的に単節のLR・RL縄文による羽状縄文が施されている。内面は横方向に丁寧に磨かれている。

21・24は、胴部が球状に膨らむ器形である。文様は、磨消縄文による入組帯状文で、地文は、単節のLR・RL縄文による羽状縄文である。

23は、全体の器形は分からないが、胴部に膨らみを持たない円筒形に近い器形をなすものと思われる。胴部には「U」字状文が施文され、その外側を磨消している。地文は、節の細かい単節のLR・RL縄文による羽状縄文である。

25は、台付鉢の台部と思われる。内外面とも丁寧に磨かれている。

### 第Ⅲ群土器 (18・26~30)

時期不明の土器を第Ⅲ群とした。

18は、尖底土器底部片である。胎土及び色調、残存部の器形からは、第Ⅰ群土器の17と同一形式の土器とみることができるが、地文の施文方法が17とは異なるため本群に入れた。器外面には、縄文原体の先端部を強く押し付けることによってできたと思われる盲孔状の比較的深くぼみが、3ヶ所みられる。

26~27は、いずれも口縁部が内湾する深鉢形で、地文縄文のみ施文された土器である。26には、無節のLR斜縄文、27には単節のLR斜縄文、28には単節のRL斜縄文がそれぞれ施されている。

29・30は、平縁で、口縁部が大きく開く深鉢形を呈し、同一個体と思われる。口縁部に横位に2条の沈線を巡らし、その内側に、刺突文を充填している。この刺突文は、断面円形の工具を左斜めから押し当てるようにして施されている。30には、補修孔と思われる穿孔が2穴認められる。

(奈良岡 淳)

### 2 石器 (31~36、38、39)

遺構外から出土した石器は8点である。

31・32は有茎の石鎌で、凸基のものである。側縁は直線的に調整され、基部も鋭利に作られている。石質は珪質頁岩である。

33は小型の石篋である。横長剥片を素材とし、側縁は直線的で両面から調整が施されている。石質は珪質頁岩である。

34・35は磨製石斧である。34は、片面を打ち欠いて成形し、他面には潰しが見られる。刃部形状は片刃の直刃で、刃部の片側にだけ研磨がみられる。石質は頁岩である。35は、全体に潰しをかけた後に、全面を研磨して成形している。刃部形状は片刃の曲刃で、刃部に刃こぼれ状の剥離が見られる。裏面にタタキが見られるが、使用によってできたものなのか判然としない。石質は輝緑岩である。

36・38・39はスリ石である。機能面は1面で、断面は概ね三角形の自然石を素材にしている。36は完形品で、最も狭い稜を機能面にしている。機能面の幅は4~7mmで、その他に加工痕跡はみられない。38・39は欠損品で、機能面の側縁には使用による剥離痕がみられる。石質は36が砂岩で、38・39は安山岩である。

(奈良岡 淳・平山 明寿)

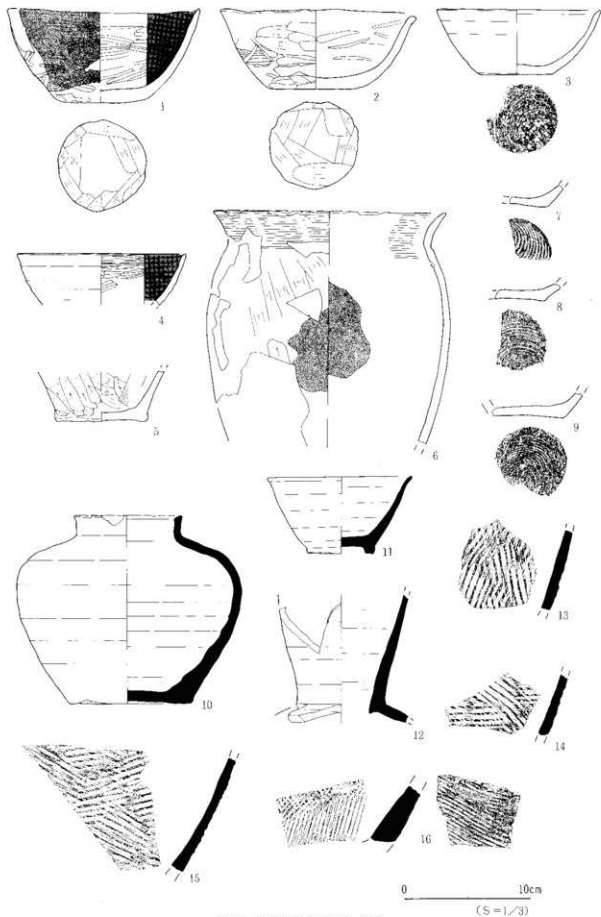


图48 遺構外出土遺物(1)

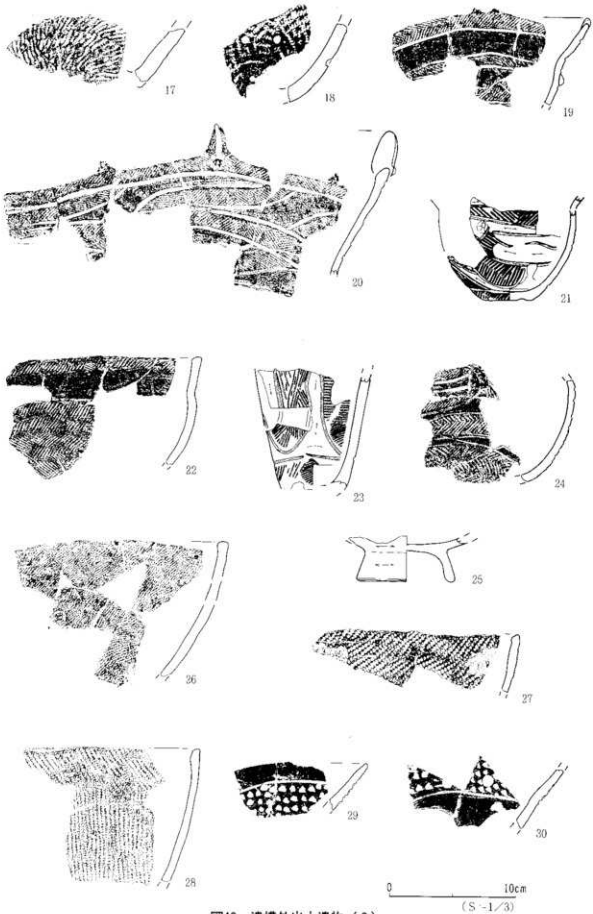


圖49 遺構外出土遺物 (2)

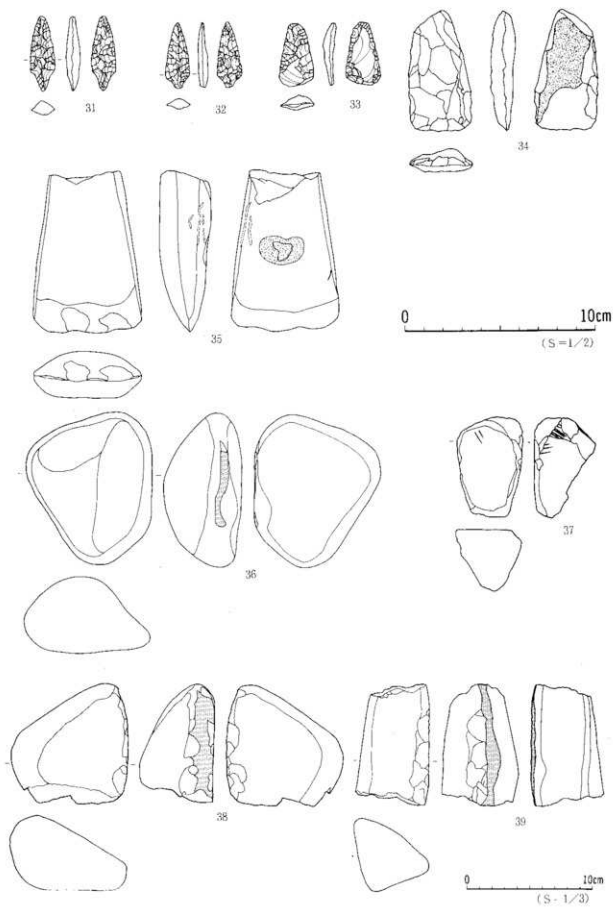


図50 遺構外出土遺物(3)

遺構外出土遺物観察表 [土師器・須恵器]

&lt;口径・底径・器高の単位: cm&gt;

図版番号	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径	底径	器高	外面調整	内面調整	底面調整	備考	整理番号
図48-1	土師器	坏	完形	U-25 II層	15.4	6.5	7.5	ミガキ	ミガキ	ヘラナデ	内底丸底気味	237
2	土師器	坏	略完形	U-25 II層	15.6	6.6	6.4	ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	ヘラナデ	丸底気味体厚いか	238
3	土師器	坏	略完形	U-25 II層	13.0	5.6	5.2	ロクロ	ロクロの後ミガキ		内底	236
4	土師器	坏	体部上半	被土	—	—	—	ロクロ	ロクロ			229
5	土師器	甕	底部	U-25 IV層	—	7.0	—	ヘラクズリ	ヘラナデ			224
6	土師器	甕	体部上半	V-23 III層	18.6	—	—	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ナデ		外面煤状炭化物付き	131
7	土師器	坏か	底部	H-11 II層	—	—	—	ロクロか	ロクロ	回転糸切り	上げ底気味	234
8	土師器	坏	底部	J-18 II層	—	—	—	—	ミガキ	回転糸切り	内底	235
9	土師器	坏	底部	G-11 II層	—	—	—	ロクロ	ナデか	回転糸切り	摩滅著しい	233
10	須恵器	壺	完形	W-22 埋瓦層	8.6	15.0	9.5	ロクロ	ロクロ	ヘラ切り、ナデ	肩部に自然伏輪	237
11	須恵器	坏	略完形	J-25 II・IV層	11.5	5.2	5.1	ロクロ	ロクロ		回転糸切り	335
12	須恵器	壺	頸部	T-22, V-23 II層	—	—	—	ロクロ	ロクロ			330
13	須恵器	大甕	胴部	L-12 II層	—	—	—	タタキメ	ヘラナデ			327
14	須恵器	大甕	胴部	L-12	—	—	—	タタキメ	ヘラナデ			328
15	須恵器	大甕	胴部	H-11 II層	—	—	—	タタキメ	ナデ			329
16	須恵器	大甕	胴部	J-11 II層	—	—	—	タタキメ	カキメ			326

遺構外出土遺物観察表 [細文土器]

図版番号	種類	器種	部位	出土位置・層位	口径	底径	器高	文様	備考	分類	整理番号	
図49-17	縄文土器	鉢形	底部	L-12 V層	—	—	—	単筋LR縄文		I	434	
18	縄文土器	鉢形	底部	L-12 V層	—	—	—			II	435	
19	縄文土器	鉢形	体部上半	G-12 II層	—	—	—	半絛 小突起 区画沈線内磨り消し RL・LR斜縄文	内面摩滅著しい	II	426	
20	縄文土器	鉢形	口縁部	J・K-12 II層	—	—	—	半絛 山形突起 区画沈線内磨り消し 起輪 LR斜縄文	口唇部肥厚	II	436	
21	縄文土器	鉢形	体部下半	G・H-12 II層	—	3.8	—	磨り消し 起輪 RL・LR斜縄文		II	425	
22	縄文土器	鉢形	体部上半	I-12 II層	—	—	—	半絛 1線無文無 横位沈線 LR斜縄文 部RL・LR羽状縄文		II	428	
23	縄文土器	鉢形	体部下半	J-11 II層	—	—	—	区画沈線内磨り消し RL斜縄文		II	429	
24	縄文土器	鉢形	胴部	H-14 II層	—	—	—	区画沈線内磨り消し 起輪 RL・LR羽状縄文		II	427	
25	縄文土器	台付鉢	台部	K-9 II層	—	7.8	—	磨り消し 台内面ヘラ状工具によるミガキ		II	110	
26	縄文土器	鉢形	体部上半	K-11 II層	—	—	—	半絛 無筋斜縄文		III	432	
27	縄文土器	鉢形	口縁部	K-13 II層	—	—	—	半絛 LR斜縄文		III	431	
28	縄文土器	鉢形	体部上半	F-13 II層	—	—	—	半絛 RL斜縄文 工具によるナデ	内面ヘラ状	口唇部肥厚	II	424
29	縄文土器	鉢形	口縁部	J-11 II層	—	—	—	半絛 区画沈線内磨り消し 刻突文		II	430	
30	縄文土器	鉢形	口縁部	K-11・14 II層	—	—	—	区画沈線内刻突文		III	433	

遺構外出土遺物観察表 [石器]

図版番号	種類	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	特徴	石質	整理番号
図50-31	石鏃	K-12 II層	39.2	12.6	7.1	2.8	有稜凸基	珉質頁岩	S-17
32	石鏃	M-11 II層	34.1	12.6	5.4	1.7	有稜凸基	珉質頁岩	S-2
33	石鏃	K-10 II層	32.5	17.2	7.2	3.1		珉質頁岩	S-3
34	磨製石斧	L-9 表土	63.6	32.4	13.3	36.3	局部磨製	頁岩	S-4
35	磨製石斧	J・K II層	(81.6)	56.5	(195.8)	(195.8)	欠損	砂岩	S-5
36	磨製石類	F-13 II層	1.4.9	100.6	60.8	879.1		砂岩	S-8
37	砥石	V-25 II層	78.6	53.4	51.2	195.8		凝灰岩	S-14
38	磨製石類	L-13 II層	(97.8)	66.4	51.6	4.8.2		安山岩	S-12
39	磨製石類	S-2: II層	(96.2)	51.1	93.6	376.1		安山岩	S-13

表2 遺構外出土遺物観察表

## 第4章 自然科学的分析調査の結果

### 第1節 放射性炭素年代測定

#### 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

1997年3月31日

青森県埋蔵文化財調査センター殿

1996年12月9日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記のとおりご報告いたします。  
 なお、年代値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また、付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σに基づいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が2σ以下の時は、3σに相当する年代を下限の年代値(B. P.)として表示してあります。また、試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が2σ以下のときには、Modernと表示し、δ<sup>14</sup>C%を付記してあります。

#### 記

<u>Code No.</u>	<u>試料</u>	<u>年代(1950年よりの年数)</u>
GAK-19516	木炭 from 長谷遺跡 No 1	2670 ± 120 720 B.C.
GAK-19516	木炭 from 長谷遺跡 No 2	1470 ± 80 A.D. 480

以上

木越 邦彦

## 第2節 火山灰の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

青森県内の平安時代の遺跡から採取される2種類の火山灰は、蛍光X線分析によって容易に相互識別される。特に、K、Ca、Rb、Srの特性は対照的に異なっており、そのため、K-Ca分布図とRb-Sr分布図上で容易に区別できる。Fe量は白頭山火山灰の方が多い。しかし、本来白味を帯びている十和田a火山灰でも周辺の土壤に汚染されると変色するので、外見上の色だけでは両者の区別は難しい。Na因子は風化の影響をもっとも受けやすい因子である。これを逆手に使えば、火山灰か粘土かの判断ができる。持ち込まれるNa量の中に、希に、Na量が少なく、火山灰と言えないものが含まれていることがある。このような基礎データを背景にして、長谷遺跡から出土した火山灰の蛍光X線分析の結果を報告する。分析値は表3によってまとめられている。全分析値は同時に測定した岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化した値で表示されている。これらの生データを使って分布図を作成した。図52にはK-Ca分布図を示す。この図には白頭山領域と十和田a領域を描いてある。いずれも、これまでのデータに基づいて描かれたものである。定性的にしか領域を示さないが、比較対照のための領域としては十分役に立つ。No. 1、2、3は白頭山領域に分布する。No. 4は白頭山領域をほんの少しずれるが、十和田a領域には対応しない。土壤で汚染された火山灰である可能性がある。

図51にはRb-Sr分布図を示す。4点の試料はすべて、白頭山領域に分布する。

図53にはFe因子とNa因子を比較してある。Fe因子では4点とも白頭山領域に対応するが、Na因子ではNo. 4のみが少しずれる。やはり、No. 4の試料は土壤によって若干、汚染されている。

以上のことから、4点の試料はすべて、白頭山火山灰と推定される。

表3 火山灰分析データ

試料	層位	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	判定
No 1	覆土	1.120	0.364	2.410	1.050	0.056	1.200	白頭山
No 2	覆土	0.985	0.540	2.470	0.835	0.320	1.040	白頭山
No 3	覆土	0.935	0.501	2.610	0.793	0.340	0.997	白頭山
No 4	覆土	0.839	0.237	2.730	0.911	0.319	0.781	白頭山

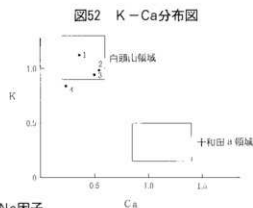
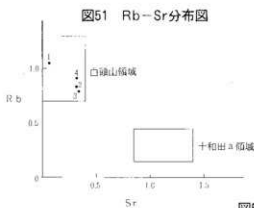
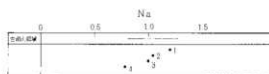


図53 Fe・Na因子



### 第3節 リン酸・脂肪酸分析

#### 長谷遺跡の平安時代土器埋設遺構の性格検討

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

長谷遺跡は、奥入瀬川右岸の河岸段丘上に立地する縄文時代から平安時代の複合遺跡である。今回の発掘調査では、平安時代の遺構面において、土器埋設遺構1基が検出されている。本遺構は、平面形が長径約2.8m、短径1.5mの楕円形で、断面が半円状を呈しており、土坑内に土器4個体（土師器の壺1点、須恵器の甕1点、須恵器の壺2点）が倒立した状態で埋設されている。出土した土器は五所川原窯跡群で生産された土器の様式を示しておらず、県外から搬入されたものと考えられている。このような状況を示す遺構は、県内では初の検出例として注目されており、本遺構の性格として、地鎮跡や墓、胞衣入れなどが想定されている。

今回の調査では、本遺構に関する情報、特に遺体の有無について検討するためにリン酸分析と脂肪酸分析を実施する。

#### 1. 試料

試料は、埋設時のP-2土器内より土壌1点（試料番号1）とP-2土器直下の地山から土壌1点（試料番号2）の合計2点が採取された。リン酸分析はこれら2点の試料について実施する。脂肪酸分析P-2内土壌について実施した。

#### 2. 分析方法

##### (1) リン酸分析

分析では、土壌標準分析・測定法委員会編（1986）、土壌養分測定法委員会編（1981）、京都大学農学部農芸化学教室編（1957）、農林水産省技術会議事務局監修（1967）、ペドロジスト懇談会（1984）などを参考にした。以下に、その行程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.0mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃：5時間）により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダールフラスコに秤とり、はじめに硝酸（5ml）を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO<sub>4</sub>）10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mlに定容して、ろ過する。今回は、リン含量をリン酸（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）濃度として測定する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g）を求める。

##### (2) 脂質分析

脂質分析の方法を、1）脂肪の抽出、2）クロマトグラフィーでの測定、の順に記述する。

##### 1) 脂質の抽出

ビーカーに入れた土壌試料（乾燥時200-300cc）にクロロホルム-メタノール（2：1）混液を倍



量注ぎ、超音波浴槽内で30分間、脂質を抽出した。次に、クロロホルム-メタノール層を濃縮して得られた抽出物に、無水メタノール-5% HCL 溶液2mlを加え再溶解させ、スクリューキャップ付耐圧試験管に移し替えてキャップをし100°Cで2時間加熱、脂質のメチル-エステル化反応を行った。これは、ガスクロマトグラフィーでピークとして検出するためにはメチル-エステル化が必要なためである。反応終了後、メチル-エステル、ステロール類を抽出するために、耐圧試験管内の無水メタノール-5% HCL に水2ml、ヘキサン4mlを加え、タッチミキサーで攪拌、その後遠心分離器を使用し、3000回転で上層のヘキサン層と下層の水層に分離した。上層（ヘキサン層）3mlをビベットを使用して分離後、ヘキサン3mlを再び加え、タッチミキサーで攪拌、その後遠心分離、分取の操作をもう一度繰り返した。ヘキサン層を回収して無水硫酸ナトリウムで乾燥後、濃縮しガスクロマトグラフィーに注入した。

## 2) 脂質組成の測定

脂肪酸メチルエステル、ステロール類とも分離、分析時間を考慮の上、次のような条件で測定を行った。脂肪酸分析にはFFS ULBON HR-SS-10 (0.32mm×30m) カラムを用い、50°Cから150°Cまで20°C/min、150°Cから220°Cまで3°C/minで昇温し、12種の脂肪酸について、またステロール分析にはDB-1-30W-STD (0.25mm×30m) カラムを用い、270°Cで6種のステロール類について、それぞれガスクロマトグラフィー標準品の検出時間、ピーク面積、注入量を基準にして同定、定量を行った。ステロールは脂肪酸よりも含有量が少ないため、5倍量をガスクロに注入した。なお、中野益男氏らや小池裕子氏の測定では脂肪酸は抽出した脂質の測定重量を表すのに対し、本稿での脂質量はグラフのピーク面積からの計算値(抽出率100%と仮定してマイクログラムに換算)である。12種の脂肪酸と6種のステロールを測定した。以下での脂肪酸総量とステロール総量は測定された12種類の脂肪酸の総和、6種類のステロールの総和を各々意味している。

## 3. 結果

### (1) リン酸分析

結果を、表4に示す。試料番号1・2は、ともに黒色の埴壤土である。リン酸含量は須恵器直下の地山から採取された試料番号2が須恵器内の試料番号1よりもわずかに高い。

表4 埋設遺構のリン酸分析結果

番号	採取地点	層位	土性	土色	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (mg/g)
1	土器埋設遺構	埋設土器(P-2)内	CL	10YR1.7/1黒	1.51
2	土器埋設遺構	埋設土器(P-2)内	CL	10YR1.7/1黒	1.58

上色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農水省農林水産技術会議監修、1967）による。

土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編、1984）の野外土性による。

CL：埴壤土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）

### (2) 脂質分析

結果を図54に示す。土器内土壌の脂肪酸組成はC16：パルミチン酸が比較的高い値を示した。ステロール組成ではコレステロール・シトステロールがほぼ同じ比率で検出された。

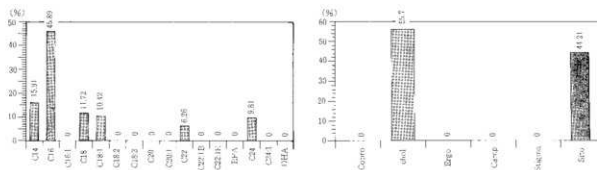


図54 埋設遺構の脂質分析チャート組成

## 4. 考察

試料は、ともに黒色の埴壌土である。化学成分を保持する粘土の含量が15～25%であり、今回調査した土壌は化学成分を比較的保持しやすい土壌と言える。

土器内土壌のリン酸含量は $1.51 \text{ P}_2\text{O}_5 \text{ mg/g}$ を示した。現在の土壌に普通に含まれるリン酸含量（天然賦存量）は約 $3.0 \text{ P}_2\text{O}_5 \text{ mg/g}$ 程度とされている。（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎他, 1991；天野他, 1991）。今回の土器内土壌のリン酸含量は、天然賦存量よりかなり低い値となっている。また、対象試料とした須恵器直下の地山のリン酸含量は $1.58 \text{ P}_2\text{O}_5 \text{ mg/g}$ と土器内土壌とほぼ同様の値を示した。これらのことから、須恵器土壌内にはリン酸が富化しているとは言えない。

土器内土壌の脂質分析の結果では、動物性ステロールのコレステロールと植物に多く含有するシトステロールがほぼ同率の比率を示した。土器内に遺体があった場合は、一般土壌よりも動物性ステロール（コレステロール）の比率が高くなることが期待されることから、今回のステロール組成からは遺体埋設の可能性は判断がつかない。また、脂肪酸組成も、高等動物の脳や神経組織の主要脂肪酸である、炭素数22以上の飽和脂肪酸であるC22:0（ベヘン酸）やC24:0（グリセリン酸）の比率は低く、遺体が埋設されているかの判断はつかない。

以上のリン酸分析と脂質分析の結果を総合的に評価すると、分析値からは遺体が埋設されていたかは判断できない。今回は土器埋設遺構内の一つの土器内土壌について調査を実施した段階なので、今後、他の土器内土壌についても調査・比較することにより検証していきたいと考えている。

## &lt;引用文献&gt;

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信（1991）「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議監修技術会議事務局編『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』p28-36

Bowen, H. J. M. (1983) 『環境無機化学 一元素の循環と生化学』 浅見輝男・茅野充男訳 297p 博友社 [Bowen, H. J. M. (1979) *Environmental Chemistry of Elements* ]

Bolt・Bruggenwert, M. G. M. (1980) 『土壌の化学』 岩田連午・三輪春太郎・井上陸弘・陽捷行 309p 学会出版センター [H. G. Bolt, and M. G. M. Bruggenwert (1976) *SOIL*

CHEMISTRY ] p235-236.

土壤標準分析・測定法委員会編 (1986)『土壤標準分析・測定法』 354 p 博友社

土壤養分測定法委員会編 (1981)『土壤養分分析法』 440 p 養賢堂

川崎 弘・吉田 淳・井上恒久 (1991)『九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量』農林水産省

農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発」149 p : p 23-27

京都大学農学部農芸化学教室編 (1957)『農芸化学実験書』第1巻 411p 産業図書

農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967)『新版標準土色帖』

ペドロジスト懇談会 (1984) 野外土性の判定 ペドロジスト懇談会編「土壤調査ハンドブック」

156p : p39-40

## 第4節 埋設土器胎土分析

### 長谷遺跡出土の須恵器甕胎土分析

奈良教育大学 三辻 利一

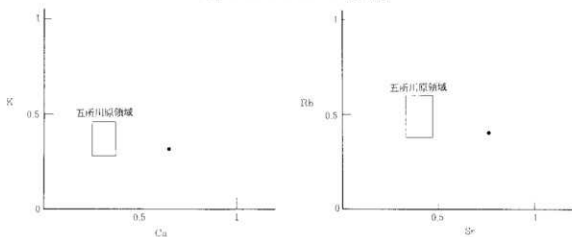
分析値は表5に示されている。もしこの甕が、地元五所川原窯跡群の製品であるならば、その特徴である $Fe \geq 3$ を満足しなければならない。しかし、本甕は、この条件を満たしていない。更に、図55に示すように、両分布図でも五所川原領域には全く対応しない。したがって、五所川原窯跡群の製品ではない。

また、本甕は、Ca、Sr量が非常に多いという特徴を持っており、これまでの青森県内の遺跡からこの化学特性を持った須恵器は出土していない。したがって、その産地については目下のところ、全く手がかりはない。

表5 分析値

遺跡名	コードNo.	種類	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類
長谷遺跡	9-4314	須恵器	甕	0.318	0.645	2.02	0.402	0.758	0.335	

図55 K-Ca・Rb-Sr分布図



## 第5章 ま と め

### ○検出遺構について

今回の調査で検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡8軒、土坑7基、土器埋設遺構1基、縄文時代の土坑3基、溝状ピット24基である。

#### 〈平安時代の遺構〉

竪穴住居跡は、調査区中区北側と北区延伸部分の急斜面を避け、緩斜面を選ぶように大きく2ヶ所に分かれて構築されている。改築の跡がみられる住居跡が1軒（第7号竪穴住居跡）検出されている。他は、すべて単独で構築されており、平安時代の竪穴遺構、土坑を含めても、遺構同士の重複はみられない。また、住居跡の主軸方位はほとんど北北西にあり、個々の住居跡は一定の間隔をとって配置されている。加えて、出土遺物や火山灰の堆積状況からみても、8軒の住居跡の構築時期に大きな時間差は認められない。一方、本集落を営む人々の精神生活に深く関わっていたと考えられる土器埋設遺構は、住居跡と近接している。

以上のことから、本集落跡は長い時期に営まれた集落ではなく、平安時代の一時期だけ営まれた集落であると考えられる。

#### 〈縄文時代の遺構〉

縄文時代の遺構は、浅いフラスコ状の土坑1基を除き、逆茂木痕を有する2基の土坑と24基の溝状ピットは、すべて陥し穴であると思われる。土坑は調査区中区の急斜面から、溝状ピットは調査区南区の緩斜面から集中して検出されている。

以上のことから、本調査区域は、縄文時代には狩猟の場であったと思われ、付近にはそれに係る住居群が存在するものと見られる。

### ○出土遺物について

平安時代の土師器と須恵器、羽口、刀子、鉄滓、砥石、縄文時代の土器と石器が出土している。

#### 〈平安時代の遺物〉

土師器は、坏、甕、広口壺、甔、蓋がある。甔には長胴のものや球胴のものもみられる。須恵器は坏、甕あるいは大甕、広口壺、長頸壺が出土している。土師器坏は内面黒色処理された坏といわれる切りっぱなしの底を持つものがある。これらの土器は9世紀後半から10世紀代のものであると思われる。羽口は竪穴住居跡の堆積土から出土したものが多く、カマドの袖芯材に転用されたものも少なくない。いずれの羽口も熔着物が付着し、鉄滓の出土も多かったことから、鍛冶を行っていた可能性は高いと思われるが、関連する遺構は検出されなかった。

#### 〈縄文時代の遺物〉

縄文時代の遺物はほとんどが遺構外からの出土で、第11号土坑出土の壺形土器以外はすべて破片で、全体の器形が分かるものはなかった。主体となる土器は、後期後葉に位置づけられている十腰内IV～V式土器で、検出された遺構はこの時期のものであると考えられる。石器は石鏃、石鹿、磨製石斧、敲磨器が出土している。

以上が今回の調査による成果である。これらの成果が、奥入瀬川流域をはじめとする県南地方の古

代の様相を明らかにする上で、少しでも参考になれば幸いである。

(担当者一同)

<参考文献>

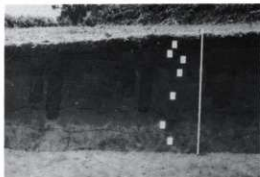
- 青森県教育委員会 1991 『堀切沢(2)(3)(4)(5)遺跡』青埋報第141集
- 八戸市教育委員会 1986 『八戸市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-丹後谷地遺跡-』  
八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 八戸市教育委員会 1992 『殿見遺跡発掘調査報告書Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第49集
- 八戸市教育委員会 1993 『殿見遺跡発掘調査報告書Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第57集
- 秋田県教育委員会 1992 『秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書  
-富ヶ沢A・B・C窯跡 田久保下遺跡 富ヶ沢1号～4号塚-』  
秋田県文化財調査報告書第220集

# 報告書抄録

ふりがな		ながやいせき						
書名		長谷遺跡						
副書名		十和田南部地区広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告						
シリーズ名		青森県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号		第241集						
編著者名		奈良岡 淳 平山 明寿						
編集機関		青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地		〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701						
発行年月日		1998(平成10)年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°' "	°' "		m <sup>2</sup>	
長谷遺跡	上北郡六戸町大字上吉田字長谷94-207、 其外	02405	44040	40° 35' 00"	141° 21' 10"	19960826 ～ 19961031	3,100	十和田南部地区 広域農道建設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長谷遺跡	狩猟場	縄文時代	土坑	3基	縄文土器破片	○平安時代には集落が形成され、 縄文時代には狩猟場であった と思われる。  ○集落は9世紀中葉から後葉に かけて形成されたと思われる。  ○土器埋設遺構は、土器器蓋1 個体、須恵器壺1個体、須恵 器蓋2個体の計4個体が倒立 状態で埋設されていた。 県内で初の事例である。		
			(内、陥し穴2基)		剥片石器			
	溝伏ピット	24基	礫石器					
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡	9軒	土師器(坏、甕、壺、甃、 蓋)			
		(松張前の古い住居跡を含む)		須恵器(坏、大甕、甕、 壺)				
		竪穴遺構	2基					
		土器埋設遺構	1基	土製品(羽口)				
		土坑	7基	鉄製品(刀子、鏝、用途 不明品)				
				鉄滓				
				石製品(磁石)				



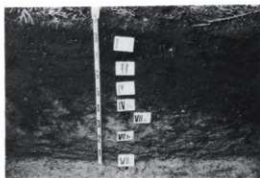
調査前現況 (南区から北区を望む) E→



基本層序 (南区西壁 J-17付近) E→



南区遺構配置 (平安時代) NW→



基本土層 (北区西壁 V-27付近) E→



北区 延伸部分 精査終了 E→



調査区近景 調査終了 E→

写真1 調査区・基本土層・遺構配置



中区 抜根作業 SW→



南区 道構確認作業 W→



住居跡 精査風景 SW→



住居跡 精査風景 W→



住居跡 精査風景 SW→



道構 精査風景 E→

写真2 精査・作業風景





1H 完掘 S→



2H 完掘 S→



1H カマド煙道部完掘 E→



2H カマド煙道部完掘 W→



1H 遺物出土状況 W→



2H カマド煙道部検出状況及び焼土範囲 S→



1H 遺物出土状況 W→



2H 支脚土器検出状況 S→

写真3 第1号・第2号竪穴住居跡



3H 完掘 S→



4H 完掘 S→



3H カマド完掘 S→



4H カマド完掘 S→



3H 2号カマド完掘 S→



5H 完掘 S→



3H 1号カマド遺物出土状況 S→



5H カマド完掘 S→

写真4 第3号・第4号・第5号竪穴住居跡



6H 完掘 SE→



7H 完掘 S→



6H 焼土範囲 S→



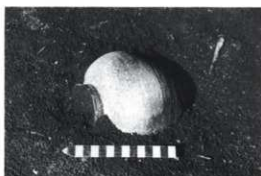
7H カマド完掘 S→



6H 東西セクション S→



8H カマド遺物出土状況 S→



6H 攪乱土層須恵器壺出土状況 E→



107H 床面及び2号カマド火床面検出状況 S→

写真5 第6号・第7号・第10号竪穴住居跡



107H カマド完掘 S→



107H 2号カマド完掘 S→



8H 東西セクション S→



107H 1号カマド煙道部遺物出土状況 E→



8H 完掘 SE→



107H 2号カマド検出状況 SE→



8H カマド完掘 SE→

写真6 第107号・第8号竪穴住居跡



1壺 東西セクション S→



2壺 完掘 NE→



1壺 焼土範囲 E→



1土 完掘 E→



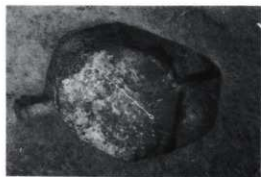
1壺 完掘 E→



2土 セクション S→



2壺 セクション火山灰(B-Tm)堆積状況 SW→



4土 完掘 SW→

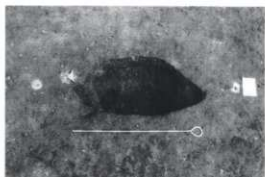
写真7 第1号・第2号壺穴遺構 土坑(1土・2土・3土)



5土 完掘 S→



土器埋設遺構東西セクション SE→



6土 完掘 SW→



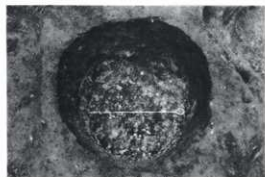
土器埋設遺構南北セクション NW→



7土 完掘 S→



埋設土器出土状況① S→



8土 完掘 S→



埋設土器出土状況② S→

写真8 土坑(5土~8土)土器埋設遺構



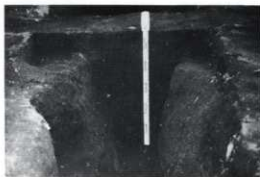
9土 完掘 NE



1ミゾ セクション W→



10土 完掘 S→



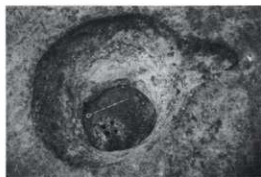
2ミゾ セクション W→



11土 遺物出土状況 SE→



4ミゾ 完掘 W→



12土 完掘 SE→

写真9 土坑(9土・11土・12土)溝状ピット(1ミゾ・2ミゾ・4ミゾ)



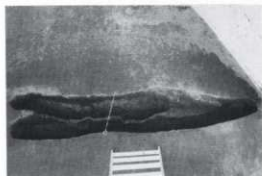
3ミソ 完掘 W→



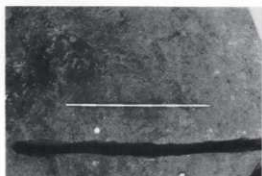
6ミソ 完掘 W→



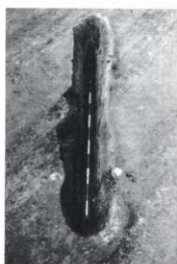
7ミソ 完掘 W→



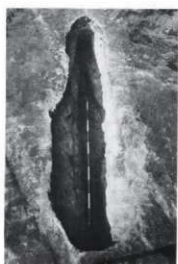
8ミソ (手前)・23ミソ (奥) 完掘 S→



9ミソ 完掘 E→



10ミソ 完掘 E→



11ミソ 完掘 SE→



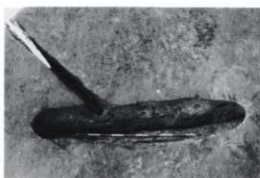
12ミソ (右)・14ミソ (左) 完掘 SE→

写真10 溝状ピット (3ミソ・6ミソ～12ミソ・14ミソ)





13ミソ 完掘 SE→



15ミソ 完掘 NE→



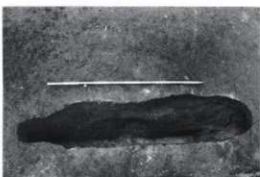
16ミソ 完掘 E→



17ミソ(中央縦位)・18ミソ(中央横位)完掘 W→



19ミソ 完掘 E→



20ミソ 完掘 E→

写真11 溝状遺構 (13ミソ・15ミソ～20ミソ)



21ミゾ 完掘 E→



22ミゾ 完掘 W→



24ミゾ 完掘 SE→



25ミゾ(右)・26ミゾ(左) 完掘 W→

写真12 溝状遺構 (21ミゾ・22ミゾ・24～26ミゾ)



图6-1



图6-3



图6-2



图8-2



图8-3



图8-4



图9-5



图9-6



图9-8



图28-7



图10-13



图10-14

1 H

2 H



图11-1



图11-2



图11-5



图11-4



图11-6



图11-3



图10-15



图12-7



图12-8



图12-9

3 H



图14-1



图14-2



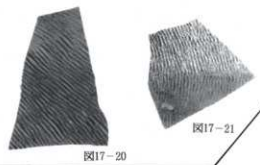
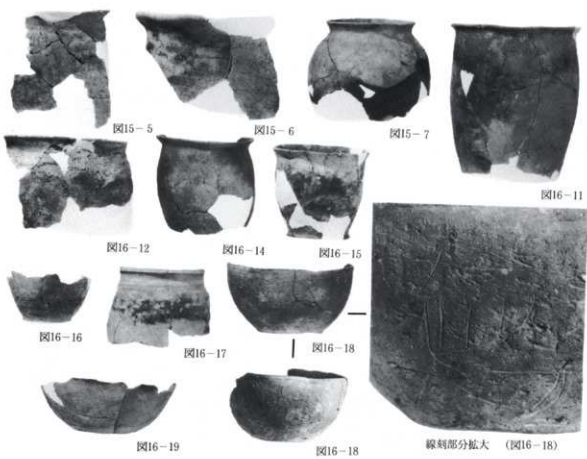
图15-3



图15-4

4 H

写真13 出土遺物(1H~4H)



4 H

5 H

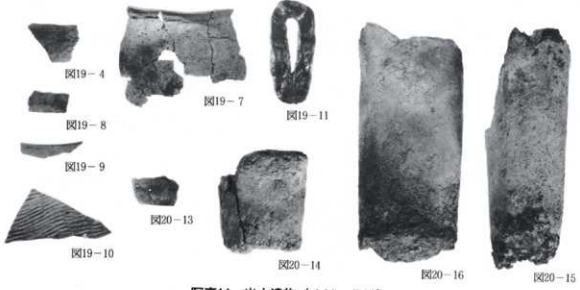


写真14 出土遺物 (4 H · 5 H)



6 H 図21-1



図21-2



図21-3



図21-4



図22-1



図23-2



図23-4



図24-5



図24-7

図24-13



図24-6



図24-8



図24-9



図25-10



図25-11

7 H

107H



図26-1



図26-2



図26-3



図26-4



図26-5



図9-7



図28-8



図28-9



図29-1



図29-2



図29-3



図29-4



図30-6



図31-9



図31-10

8 H

写真15 出土遺物 (6 H~8 H)



図32-11



図32-12



図32-12



1 図30-7



8 H



図34-1



図34-2



図34-3

1 整

2 整



図35-1



図35-2



図36-1

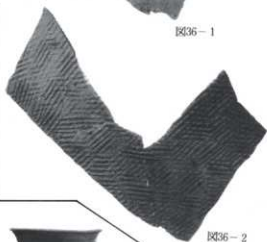


図36-2

埋設遺構



図38-1



図39-4



図38-2



図39-3

11土



図41-1

2土

写真16 出土遺物 (8 H・1 整・2 整・2 土・埋設遺構・9 土)

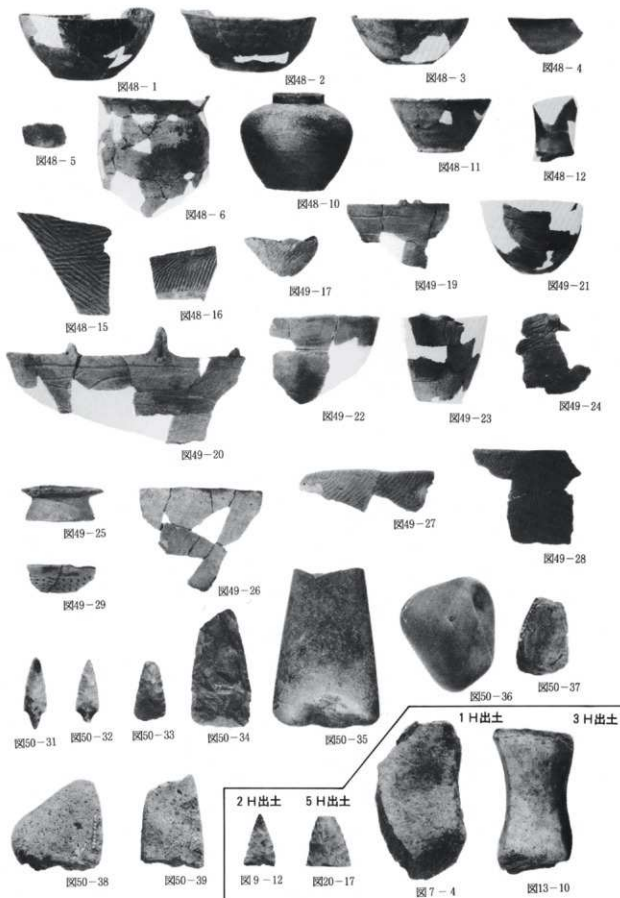


写真17 遺構外出土遺物

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第241集

**長谷遺跡**

一和田南部地区広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告一

発行年月日 1998年3月31日  
発 行 青森県教育委員会  
〒030-0801 青森市新町2丁目3番1号  
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15  
電 話 0177(88)5701 FAX 0177(88)5702  
印 刷 〒030-0862 東奥印刷株式会社  
青森市古川2丁目17-5  
電 話 0177(76)5361  
F A X 0177(76)5363

---